

令和7年度

出会いから結婚・子育てまでの切れ目ない
支援のための県民意識調査

報告書

令和7年10月

高知県

目次

I	調査の設計	1
1	調査の目的.....	1
2	調査の事項.....	1
3	調査の対象.....	1
4	対象者の抽出方法.....	1
5	調査の方法.....	1
6	調査の期間.....	1
7	調査票配布数と回収状況.....	1
8	実査及び集計.....	1
II	調査結果の見方	2
III	調査対象者の特性	4
1	広域市町村圏別の配布・回収状況.....	4
2	対象者の特性.....	4
IV	調査結果のあらまし	11
V	調査結果（解説・グラフ）	18
1	「結婚」「妊娠・出産」「子育て」等の環境について.....	18
2	「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて.....	30
3	出会い・結婚について.....	62
4	子育てについて.....	78
5	女性の活躍とワークライフバランスについて.....	104

I 調査の設計

1 調査の目的

この調査は、県民の皆様のお考えをお聞きし、出会いから結婚、子育てまでの切れ目のない支援を推進していくうえでの基礎資料としていくことを目的として行ったものです。

2 調査の事項

- (1)「結婚」「妊娠・出産」「子育て」等の環境について
高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか/
高知県が『こどもまんなか社会の実現』に向かっていると思うか
- (2)「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて
『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために特に力を入れるべき施策／高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する認知度・関心度／「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由
- (3)出会い・結婚について
将来の結婚願望／結婚に向けた出会いを求める場合のきっかけ／現在結婚していない理由／結婚相手に求める年収／出会いや結婚に関して必要な行政支援
- (4)子育てについて
第1子を産みたい年齢／理想的な子どもの人数／現実的に持ちたいと考えている子どもの人数／理想的な人数の子どもを持たない理由／理想的な人数の子どもを持てる環境／理想的な人数の子どもを持つための労働時間／子育てを支える施設の充実度／子育てを支えるために施設に力を入れて欲しいこと／妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関して充実してほしい取組
- (5)女性の活躍とワークライフバランスについて
女性が職場で活躍するのに必要なもの／働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために必要な支援／男性の育児休業取得率向上のために必要な支援／性別役割分担意識に関する経験／1日あたりの家事・育児にかかる時間

3 調査の対象

◇高知県内全域の18歳以上39歳以下の県民4,000人（各市町村の「選挙人名簿」より抽出）

4 対象者の抽出方法

◇層化二段無作為抽出法

5 調査の方法

◇郵送法

6 調査の期間

◇令和7年9月1日（月）～9月15日（月）[15日間]

7 調査票配布数と回収状況

- ◇配布数：4,000部
- ◇有効回収数：1,391部（郵送回答：912部、WEB回答：479部）
- ◇有効回収率：34.8%

8 実査及び集計

◇株式会社 サーベイリサーチセンター四国事務所

Ⅱ 調査結果の見方

II 調査結果の見方

- 1 「V 調査結果（解説・グラフ）」は「VI 調査結果（統計表）」に基づき、要点のみを記述してあるので、あわせて参照すること。
- 2 「VI 調査結果（統計表）」の「サンプル」は有効調査人数を示し、比率（％）算出の基礎となっている。
- 3 「VI 調査結果（統計表）」に記入してある数値は、回答人数又は各回答項目に対する回答率であり、回答率は下記の式により求めている。

$$\text{回答率（％）} = \frac{\text{回答人数}}{\text{サンプル（有効調査人数）}} \times 100$$

- 4 質問への回答方法は「1つだけ○印」、「あてはまるもの全てに○印」などの方法を採用している。単数回答の場合は、本文及び図表の比率は全て小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記している。このため、比率の合計が100.0%とならない場合がある。また、複数回答の場合は、比率を合計すると100.0%以上になる。
- 5 設問によっては、該当者の人数を母数として回答率を算出している。
- 6 設問によっては、同じ傾向の2つの選択肢の回答を合わせた分析を行っている。この場合、それぞれの回答数の和を母数で除して比率を算出している。したがって、図表の個別の比率の和とは若干異なる場合がある。
- 7 各質問に対する集計は、対象者の特性別（階層別）及び回答者別（質問間クロス）で分析している。

F1 性 別：男性、女性、その他の3種類の分類

F2 年 代 別：18歳～24歳、25歳～29歳、30歳～34歳、35歳～39歳の4階層に分類

F3 最 終 学 歴 別：中学校、高校、短大・専門学校・高専、大学、大学院の5種類に分類

F4 職 業 別：管理的職業、研究・技術の職業、法務・経営・文化芸術等の専門的職業、医療・看護・保健の職業、保育・教育の職業、事務的職業、販売・営業の職業、福祉・介護の職業、サービスの職業、警備・保安の職業、農林漁業の職業、製造・修理・塗装・製図等の職業、配送・輸送・機械運転の職業、建設・土木・電気工事の職業、運搬・清掃・包装・選別等の職業、主婦・主夫、学生、無職、無職（求職活動中）、その他の20種類に分類

F5 雇 用 形 態 等 別：雇用者（正規の職員（公務員））、雇用者（正規の雇用者（公務員以外））、雇用者（非正規の職員（公務員））、雇用者（非正規の職員（公務員以外））、雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）、使用者（役員・自営業主）、フリーランス、無職（主婦・主夫・学生を含む）、その他の9種類に分類

F6 個 人 年 収 別：100万円未満、100万円～200万円未満、200万円～300万円未満、300万円～400万円未満、400万円～500万円未満、500万円～600万円未満、600万円～700万円未満、700万円～800万円未満、800万円以上の9種類に分類

Ⅱ 調査結果の見方

- F7 世帯別：単身世帯（一人住まい）、夫婦（事実婚を含む）のみの世帯、親と子の世帯（二世代世帯）、三世代世帯（親、子、孫の世帯）、その他の5種類に分類
- F8 結婚の有無：結婚している（事実婚を含む）、未婚で交際中、未婚で交際している人はいない、交際未経験、離別・死別で交際中、離別・死別で交際している人はいないの6種類に分類
- F9 夫婦共働きの有無：はい・いいえの別
- F10 配偶者個人年収別：100万円未満、100万円～200万円未満、200万円～300万円未満、300万円～400万円未満、400万円～500万円未満、500万円～600万円未満、600万円～700万円未満、700万円～800万円未満、800万円以上、わからないの10種類に分類
- F11 子どもの数別：子どもなし、1人、2人、3人、4人、5人以上の6種類に分類
- F12 末子の状況別：乳児（1歳未満）、幼児（1歳～小学校入学前）、小学生、中学生以上の4種類に分類
- F13 広域市町村圏別：高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、嶺北広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏、幡多広域圏の1市7広域圏に分類

※広域市町村圏別の市町村内訳は以下のとおりである。

高知市

安芸広域圏：室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村

南国・香美広域圏：南国市、香南市、香美市

嶺北広域圏：本山町、大豊町、土佐町、大川村

仁淀川広域圏：土佐市、いの町、日高村

高吾北広域圏：佐川町、越知町、仁淀川町

高幡広域圏：須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町

幡多広域圏：宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町

Ⅲ 調査対象者の特性

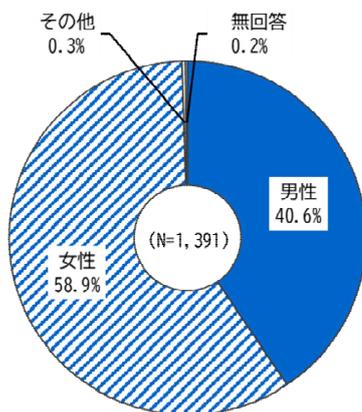
Ⅲ 調査対象者の特性

1 広域市町村圏別の配布・回収状況

広域市町村圏	配布数 (人)	有効回収状況		
		回答数 (人)	回収率 (%)	構成比 (%)
高知市	1,967	692	35.2	49.7
安芸広域圏	228	72	31.6	5.2
南国・香美広域圏	686	224	32.7	16.1
嶺北広域圏	44	21	47.7	1.5
仁淀川広域圏	308	105	34.1	7.5
高吾北広域圏	106	33	31.1	2.4
高幡広域圏	260	67	25.8	4.8
幡多広域圏	401	177	44.1	12.7
合計	4,000	1,391	34.8	100.0

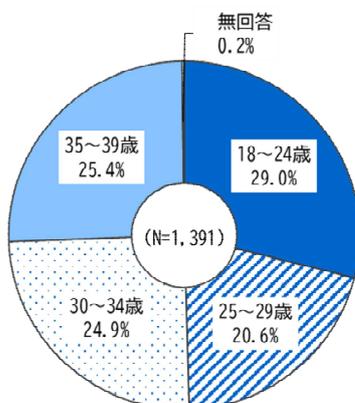
2 対象者の特性

F1 性別



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
男性	565	40.6
女性	819	58.9
その他	4	0.3
無回答	3	0.2
合計	1,391	100.0

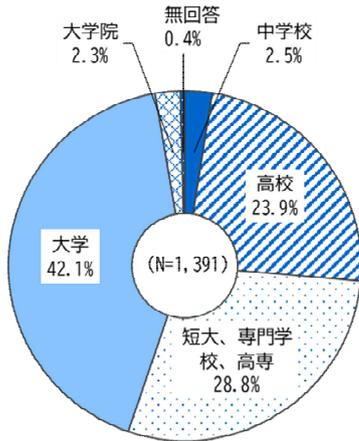
F2 年代別



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
18歳～24歳	403	29.0
25歳～29歳	286	20.6
30歳～34歳	346	24.9
35歳～39歳	353	25.4
無回答	3	0.2
合計	1,391	100.0

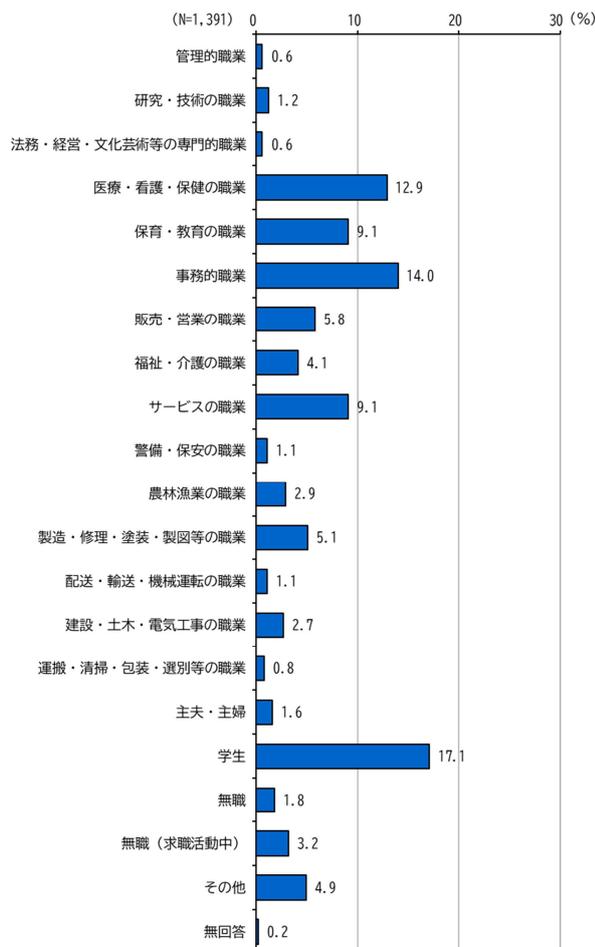
Ⅲ 調査対象者の特性

F3 最終学歴別



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
中学校	35	2.5
高校	333	23.9
短大、専門学校、高専	400	28.8
大学	586	42.1
大学院	32	2.3
無回答	5	0.4
合計	1,391	100.0

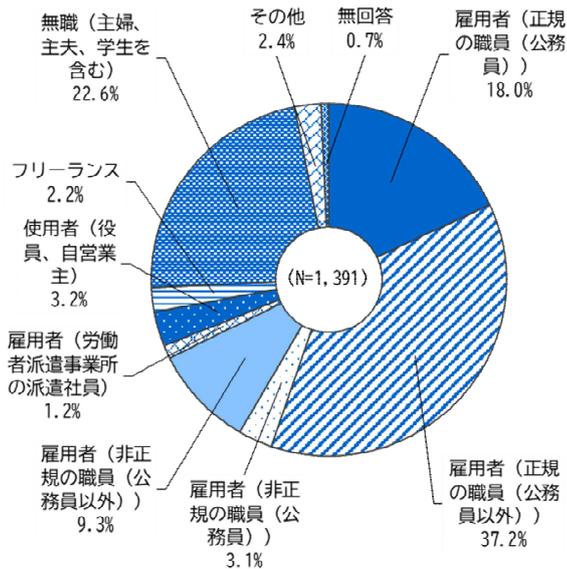
F4 職業別



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
管理的職業	9	0.6
研究・技術の職業	17	1.2
法務・経営・文化芸術等の専門的職業	9	0.6
医療・看護・保健の職業	180	12.9
保育・教育の職業	126	9.1
事務的職業	195	14.0
販売・営業の職業	81	5.8
福祉・介護の職業	57	4.1
サービスの職業	126	9.1
警備・保安の職業	15	1.1
農林漁業の職業	41	2.9
製造・修理・塗装・製図等の職業	71	5.1
配送・輸送・機械運転の職業	15	1.1
建設・土木・電気工事の職業	38	2.7
運搬・清掃・包装・選別等の職業	11	0.8
主夫・主婦	22	1.6
学生	238	17.1
無職	25	1.8
無職 (求職活動中)	44	3.2
その他	68	4.9
無回答	3	0.2
合計	1,391	100.0

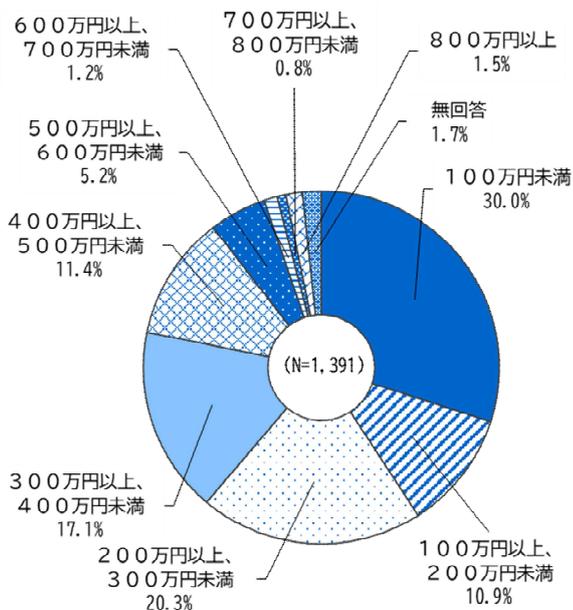
Ⅲ 調査対象者の特性

F5 職業の種別



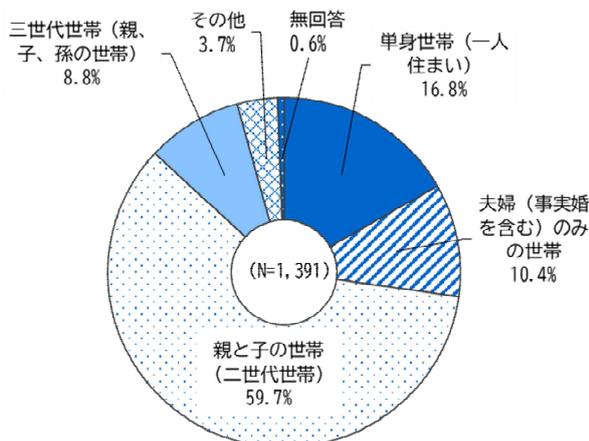
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
雇用者（正規の職員（公務員））	251	18.0
雇用者（正規の職員（公務員以外））	518	37.2
雇用者（非正規の職員（公務員））	43	3.1
雇用者（非正規の職員（公務員以外））	129	9.3
雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）	17	1.2
使用者（役員、自営業主）	45	3.2
フリーランス	31	2.2
無職（主婦、主夫、学生を含む）	314	22.6
その他	33	2.4
無回答	10	0.7
合計	1,391	100.0

F6 個人年収別



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
100万円未満	417	30.0
100万円以上、200万円未満	151	10.9
200万円以上、300万円未満	282	20.3
300万円以上、400万円未満	238	17.1
400万円以上、500万円未満	159	11.4
500万円以上、600万円未満	72	5.2
600万円以上、700万円未満	17	1.2
700万円以上、800万円未満	11	0.8
800万円以上	21	1.5
無回答	23	1.7
合計	1,391	100.0

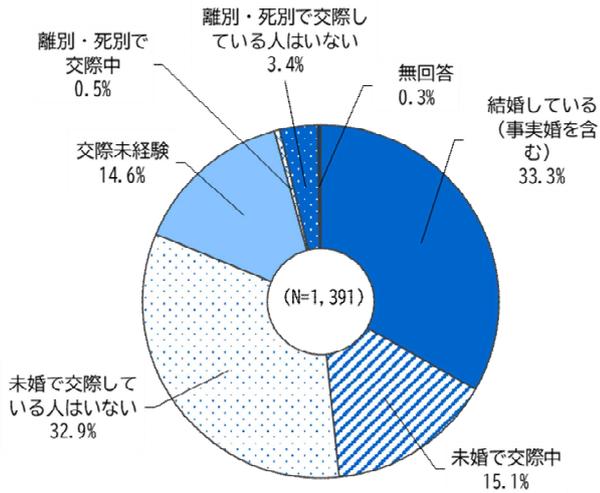
F7 世帯別



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
単身世帯（一人住まい）	233	16.8
夫婦（事実婚を含む）のみの世帯	145	10.4
親と子の世帯（二世帯世帯）	831	59.7
三世帯世帯（親、子、孫の世帯）	122	8.8
その他	52	3.7
無回答	8	0.6
合計	1,391	100.0

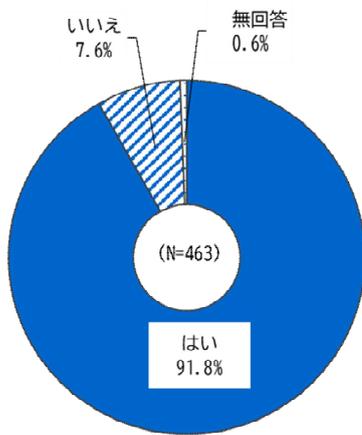
Ⅲ 調査対象者の特性

F8 結婚の有無



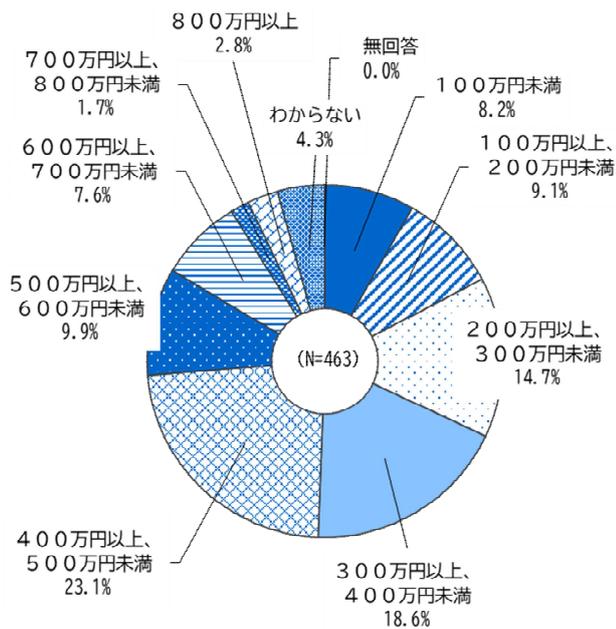
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
結婚している (事実婚を含む)	463	33.3
未婚で交際中	210	15.1
未婚で交際している人はいない	457	32.9
交際未経験	203	14.6
離別・死別で交際中	7	0.5
離別・死別で交際している人はいない	47	3.4
無回答	4	0.3
合計	1,391	100.0

F9 夫婦共働きの有無



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
はい	425	91.8
いいえ	35	7.6
無回答	3	0.6
合計	463	100.0

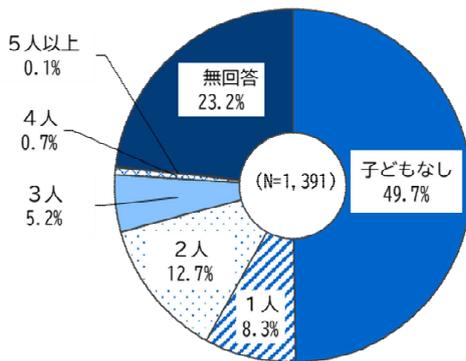
F10 配偶者の年収



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
100万円未満	38	8.2
100万円以上、200万円未満	42	9.1
200万円以上、300万円未満	68	14.7
300万円以上、400万円未満	86	18.6
400万円以上、500万円未満	107	23.1
500万円以上、600万円未満	46	9.9
600万円以上、700万円未満	35	7.6
700万円以上、800万円未満	8	1.7
800万円以上	13	2.8
わからない	20	4.3
無回答	0	0.0
合計	463	100.0

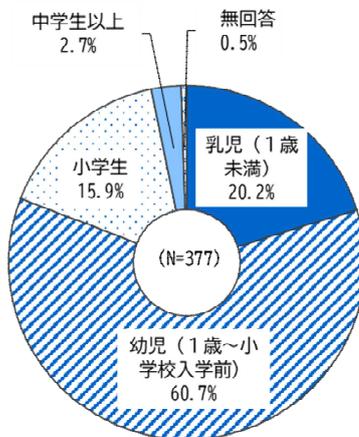
Ⅲ 調査対象者の特性

F11 子どもの数別



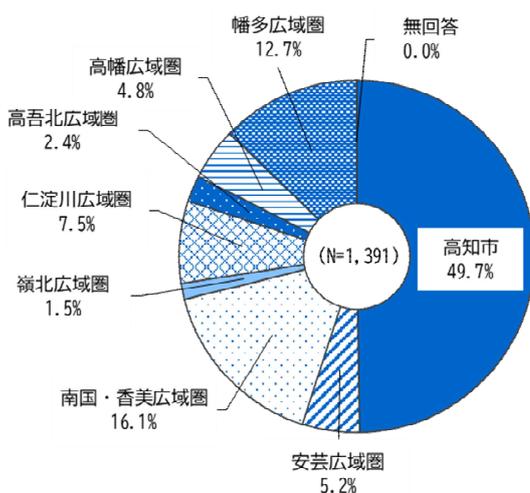
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
子どもなし	691	49.7
1人	115	8.3
2人	177	12.7
3人	73	5.2
4人	10	0.7
5人以上	2	0.1
無回答	323	23.2
合計	1,391	100.0

F12 未子の状況



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
乳児 (1歳未満)	76	20.2
幼児 (1歳~小学校入学前)	229	60.7
小学生	60	15.9
中学生以上	10	2.7
無回答	2	0.5
合計	377	100.0

F13 広域市町村圏別



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
高知市	692	49.7
安芸広域圏	72	5.2
南国・香美広域圏	224	16.1
嶺北広域圏	21	1.5
仁淀川広域圏	105	7.5
高吾北広域圏	33	2.4
高幡広域圏	67	4.8
幡多広域圏	177	12.7
無回答	0	0.0
合計	1,391	100.0

※構成比は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

IV 調査結果のあらまし

1 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」等の環境について

【問1】高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか

- ① 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会か
- 「どちらともいえない」が34.2%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」24.9%、「ややそう思う」20.9%、と続いている。
 - 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は26.1%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は34.9%となっている。
- ② 安心して「結婚」できる社会か
- 「どちらともいえない」が31.1%と最も高く、次いで「ややそう思う」23.0%、「あまりそう思わない」22.3%と続いている。
 - 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は33.4%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は34.9%となっている。
- ③ 安心して「妊娠・出産」できる社会か
- 「あまりそう思わない」が30.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」28.3%、「ややそう思わない」18.0%と続いている。
 - 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は、22.6%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は、48.4%となっている。
- ④ 安心して「子育て」できる社会か
- 「どちらともいえない」が29.3%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」25.1%、「ややそう思う」22.6%と続いている。
 - 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は、29.6%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は、40.5%となっている。

【問2】高知県が『こどもまんなか社会の実現』に向かっていると思うか

- ① 『こどもまんなか社会の実現』に向かっているか
- 「どちらともいえない」が39.2%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」27.7%、「ややそう思う」15.4%と続いている。
 - 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は、18.5%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は、41.6%となっている。
- ② こども政策が、こども・若者の意見を反映させたものになっているか
- 「どちらともいえない」が41.6%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」27.9%、「そう思わない」16.8%と続いている。
 - 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は、12.8%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は、44.7%となっている。

2 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて

【問3】 『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために、特に力を入れるべき施策

- 「若者・子育て世代の所得向上」が74.6%と最も高く、次いで「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」41.8%、「ワークライフバランスの推進」33.9%と続いている。

【問4】 高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する認知度・関心度

① こうち出会いサポートセンター

- 本事業の認知度は、【知っている】が35.3%、【知らない】が63.9%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が52.8%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」24.9%、「知らない（関心がある）」11.1%と続いている。

② 高知で恋しよ！！マッチング（県が運営する会員制のお引き合わせシステム）

- 本事業の認知度は、【知っている】が35.0%、【知らない】が64.1%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が55.1%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」23.8%、「知らない（関心がある）」9.0%と続いている。

③ 高知で恋しよ！！イベント（県が運営する出会いイベント）

- 本事業の認知度は、【知っている】が36.0%、【知らない】が63.0%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が53.6%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」23.8%、「知らない（関心がある）」9.4%と続いている。

④ 婚活サポーター（地域で独身男女のお引き合わせを行うボランティア）

- 本事業の認知度は、【知っている】が20.9%、【知らない】が78.3%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が67.1%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」15.1%、「知らない（関心がある）」11.2%と続いている。

⑤ NEW STEP（高知県社会人交流事業）

- 本事業の認知度は、【知っている】が13.0%、【知らない】が85.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が67.4%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」18.0%、「知っている（活用したことがない：関心がない）」8.1%と続いている。

⑥ こうち子育て応援の店

- 本事業の認知度は、【知っている】が33.6%、【知らない】が65.8%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が39.7%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」26.1%、「知っている（活用したことがない：関心がある）」11.9%と続いている。

IV 調査結果のあらまし

⑦ 高知の子育て応援サイト「こうちプレマ net」

- 本事業の認知度は、【知っている】が23.3%、【知らない】が75.6%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が48.5%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」27.1%、「知っている（活用したことがない：関心がある）」9.9%と続いている。

⑧ 高知家子育て応援パスポートアプリ「おでかけるんだパス」

- 本事業の認知度は、【知っている】が35.7%、【知らない】が63.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が41.0%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」22.4%、「知っている（活用したことがある）」17.2%と続いている。

⑨ 産後ケア事業（市町村事業）

- 本事業の認知度は、【知っている】が36.8%、【知らない】が62.2%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が39.1%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」23.1%、「知っている（活用したことがない：関心がある）」17.1%と続いている。

⑩ 地域子育て支援センター（市町村事業）

- 本事業の認知度は、【知っている】が49.6%、【知らない】が49.1%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が30.8%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」18.3%、「知っている（活用したことがある）」17.8%と続いている。

⑪ ファミリー・サポート・センター（市町村事業）

- 本事業の認知度は、【知っている】が38.5%、【知らない】が60.6%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が37.7%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」22.9%、「知っている（活用したことがない：関心がある）」21.6%と続いている。

⑫ 子ども食堂

- 本事業の認知度は、【知っている】が72.0%、【知らない】が27.2%となっている。
- 「知っている（活用したことがない：関心がある）」が39.7%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」23.5%、「知らない（関心がない）」15.5%と続いている。

⑬ 高知家の出会い・結婚・子育て応援団

- 本事業の認知度は、【知っている】が31.5%、【知らない】が67.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が46.7%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」20.7%、「知っている（活用したことがない：関心がない）」18.5%と続いている。

【問5】 「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由

- 「結婚しているから」が32.9%と最も高く、次いで「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」15.6%、「結婚するつもりがないから」15.0%と続いている。

3 出会い・結婚について

【問 6】 将来結婚したいと思うか

- 「いずれは結婚したい」が51.0%と最も高く、次いで「結婚するつもりはない」23.4%、「5年以内に結婚したい」16.0%と続いている。

【問 7】 どのようなきっかけで知り合いたいと思うか（もしくは、どのようなきっかけで知り合ったか。）

- 「友人や知人、同僚等の紹介で」が62.3%と最も高く、次いで「学校や職場、仕事の関係で」57.8%、「学校・職場以外のサークルやクラブ活動、習い事で」34.1%と続いている。

【問 8】 現在結婚していない理由

- 「適当な相手にまだめぐり会わないから」が38.4%と最も高く、次いで「自分の収入が安定していないから」33.6%、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」23.2%と続いている。

【問 9】 結婚相手に求める年収

- 「結婚相手の年収にはこだわらない」が28.4%と最も高く、次いで「300万円以上」20.5%、「400万円以上」14.3%と続いている。

【問 10】 出会いや結婚に関する必要な行政支援

- 「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が59.6%と最も高く、次いで「出産・子育て・教育に関する情報提供（費用等の情報含む）」46.4%、「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」45.1%と続いている。

4 子育てについて

【問 11】 第1子を産みたい（欲しい）と思う年齢

- 「25～29歳以下」が42.3%と最も高く、次いで「30～34歳以下」21.4%、「20～24歳以下」10.1%と続いている。

【問 12】 理想的な子どもの人数

- 「2人」が51.0%と最も高く、次いで「3人」30.0%、「0人」7.8%と続いている。

【問 13】 現実的に持ちたいと考えている子どもの人数

- 「2人」が52.6%と最も高く、次いで「1人」16.4%、「3人」14.6%と続いている。

【問 14】 理想的な人数の子どもを持たない理由

- 「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が75.5%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立が難しいから」51.0%、「将来の社会に漠然とした不安があるから」39.7%と続いている。

【問 15】 理想的な人数の子どもを持てる環境

- 「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」が51.0%と最も高く、次いで「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」46.7%、「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」44.6%と続いている。

【問 16】 理想的な人数の子どもを持つための自身の労働時間

- 「7～8時間未満」が26.8%と最も高く、次いで「5～6時間未満」23.7%、「6～7時間未満」22.9%と続いている。

【問 17】 保育所・幼稚園・認定こども園など子育てを支える施設の充実度

- 「どちらともいえない」が40.8%と最も高く、次いで「ややそう思う」26.7%、「あまりそう思わない」16.8%と続いている。
- 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は34.6%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は、23.3%となっている。

【問 18】 子育てを支えるために施設に力を入れてほしいこと

- 「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が46.4%と最も高く、次いで「保育士などの給料を増やしてほしい」44.8%、「子どもの年齢に応じた安全で質の高い教育・保育をしてほしい」36.5%と続いている。

【問 19】 妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関して充実してほしい取り組み

- 「子育ての負担を軽減する家事支援」が37.7%と最も高く、次いで「子育て支援センターの土日開所」28.6%、「不妊治療に関する経済的支援」27.1%と続いている。

5 女性の活躍とワークライフバランスについて

【問 20】 女性が職場で活躍するために必要なもの

- 「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が78.8%と最も高く、次いで「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」51.3%、「希望する職種に就くことができる機会を得られること」40.8%と続いている。

【問 21】 働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために必要な支援

- 「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が58.5%と最も高く、次いで「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」55.3%、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」51.3%と続いている。

【問 22】 男性の育児休業取得率の向上のために必要な支援

- 「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が41.5%と最も高く、次いで「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」19.6%、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」19.0%と続いている。

【問 23】 性別役割分担意識に関する経験

① 小さい頃から食事や洗濯などの家事の手伝いをしている

- 「時々あった」が46.9%と最も高く、次いで「なかった」26.1%、「よくあった」20.4%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は、67.3%となっている。

② 親や親戚などから進学先について反対されたり制限されたりする

- 「なかった」が74.5%と最も高く、次いで「時々あった」13.4%、「よくあった」5.5%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は、18.9%となっている。

③ 親戚や地域の宴会で食事の支度やお酌をする

- 「なかった」が57.3%と最も高く、次いで「時々あった」24.3%、「よくあった」8.5%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は、32.8%となっている。

④ 恋人とのデート代を相手の分も負担する

- 「なかった」が41.0%と最も高く、次いで「時々あった」26.2%、「わからない又は該当しない」18.6%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は、38.5%となっている。

IV 調査結果のあらまし

⑤ 職場の飲み会で料理の取り分けやお酌をする

- 「時々あった」が38.8%と最も高く、次いで「なかった」25.9%、「わからない又は該当しない」18.8%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は、53.4%となっている。

⑥ 職場で社員の食器類の片付けをする

- 「なかった」が41.4%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」23.4%、「時々あった」22.6%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は、33.2%となっている。

⑦ 職場で来客にお茶を出す

- 「なかった」が43.1%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」24.7%、「時々あった」18.8%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は、30.2%となっている。

⑧ 職場の掃除をする

- 「よくあった」が28.4%と最も高く、次いで「時々あった」27.4%、「なかった」21.9%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は、55.8%となっている。

⑨ 職場で、育児中であることを理由に早く帰宅した方が良いと言われる

- 「わからない又は該当しない」が53.2%と最も高く、次いで「なかった」27.0%、「時々あった」11.2%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は、16.4%となっている。

⑩ 職場で成長できるような機会や助言をもらえる

- 「時々あった」が33.7%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」26.9%、「よくあった」20.6%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は、54.3%となっている。

【問24】 1日あたりの家事・育児にかかる時間

① 平日

- 無回答を除き、「1時間以上～1時間30未満」が13.9%と最も高く、次いで「2時間以上～3時間未満」12.6%、「30分以上～1時間未満」7.7%と続いている。

② 休日

- 無回答を除き、「9時間以上」が17.1%と最も高く、次いで「2時間以上～3時間未満」10.1%、「1時間以上～1時間30分未満」9.7%と続いている。

V 調査結果（解説・グラフ）

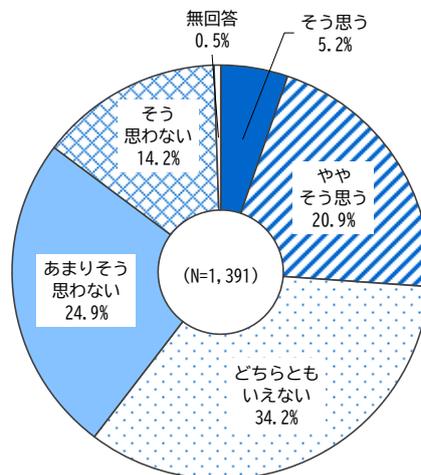
1 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」等の環境について

問1 あなたは、高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思いますか。また、それぞれについてはどう思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

① 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』か

【全体】

- 「どちらともいえない」が34.2%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」24.9%、「ややそう思う」20.9%と続いている。
- 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は26.1%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は39.1%となっている。



【性別】

- 男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに【思わない】の割合が【思う】を上回り、特に男性は約4割を占めている。

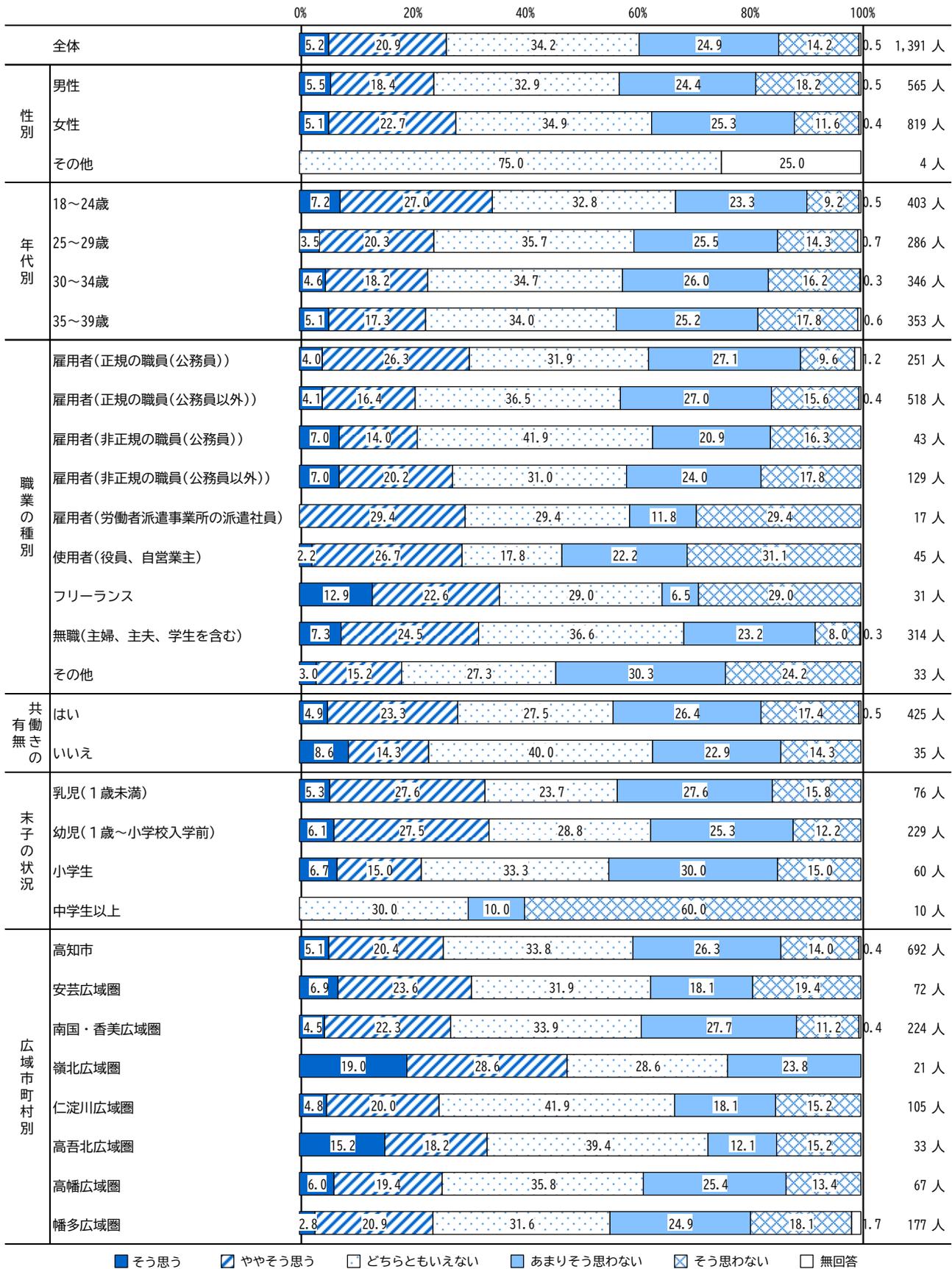
【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 年齢が上がるにつれて【思わない】の割合が高くなる傾向が見られる。

【地域別】

- 嶺北広域圏を除くすべての地域で「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 嶺北広域圏、高吾北広域圏を除くすべての地域で【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

V 調査結果（解説・グラフ）

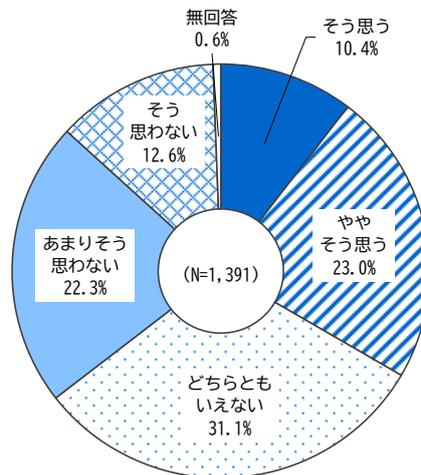


V 調査結果（解説・グラフ）

② 安心して「結婚」できる社会か

【全体】

- 「どちらともいえない」が31.1%と最も高く、次いで「ややそう思う」23.0%、「あまりそう思わない」22.3%と続いている。
- 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は33.4%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は34.9%となっている。



【性別】

- 男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男性は【思わない】の割合が【思う】を上回り、女性は【思う】の割合が【思わない】を上回っている。

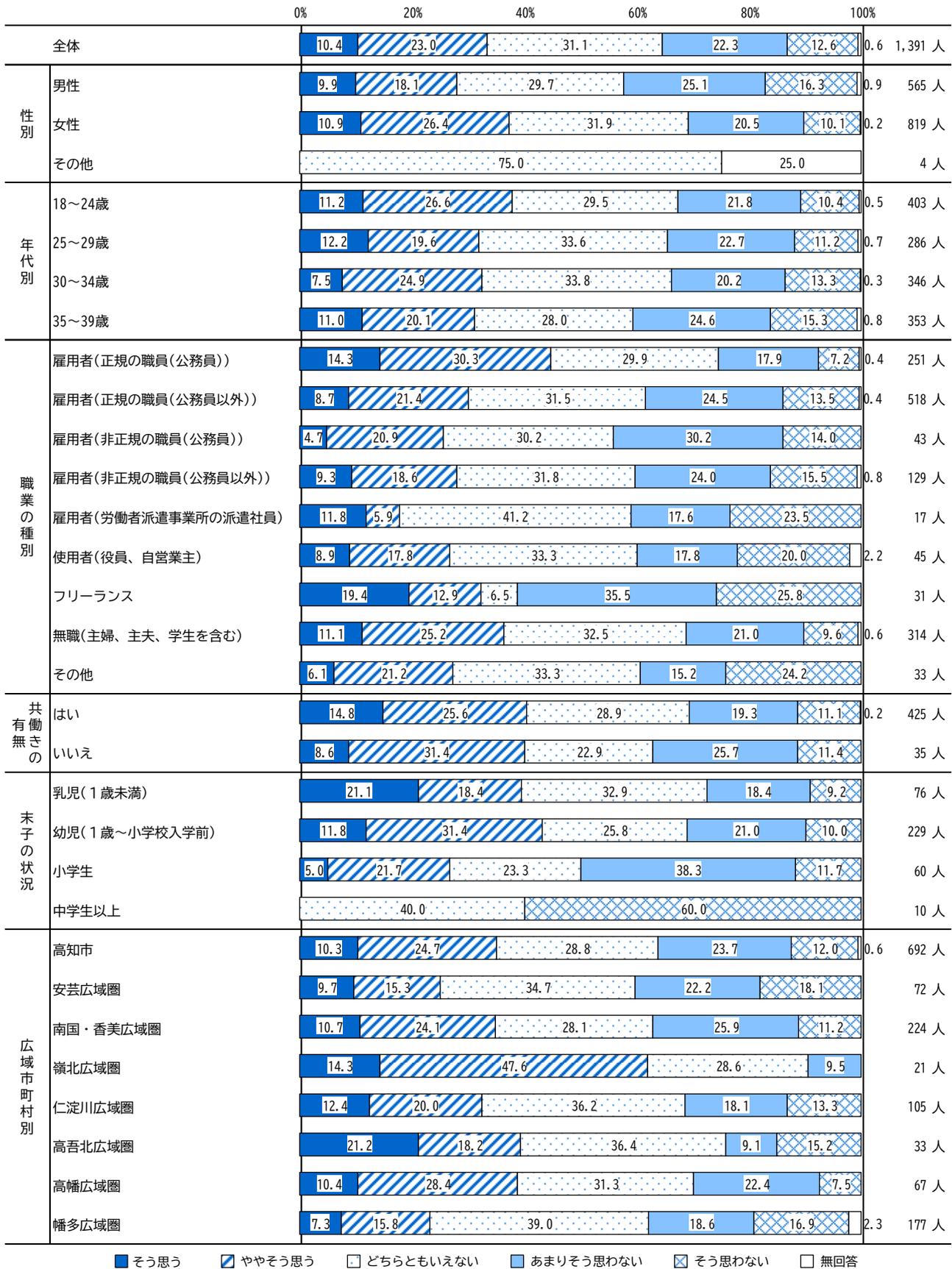
【年代別】

- いずれの年代も「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 18歳～24歳では【思う】が【思わない】を上回り、そのほかの年代は【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

【地域別】

- 嶺北広域圏では、「ややそう思う」が最も高く、そのほかの地域では、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、幡多広域圏で、【思わない】の割合が【思う】を上回り、そのほかの地域では【思う】が【思わない】の割合を上回っている。

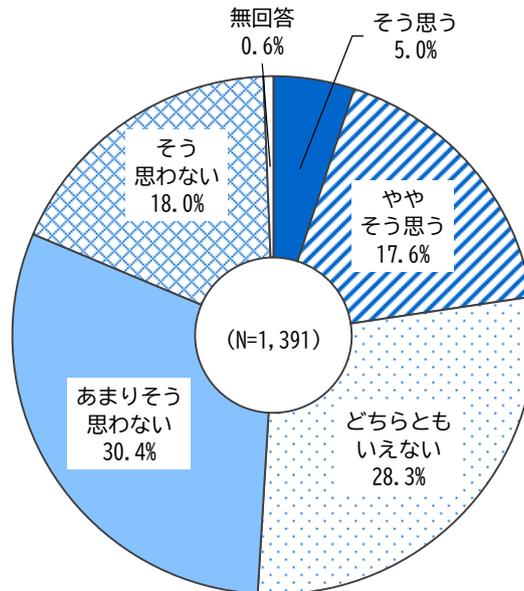
V 調査結果（解説・グラフ）



③ 安心して「妊娠・出産」できる社会か

【全体】

- 「あまりそう思わない」が30.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」28.3%、「そう思わない」18.0%と続いている。
- 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は22.6%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は48.4%となっている。



【性別】

- 男女ともに、「あまりそう思わない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

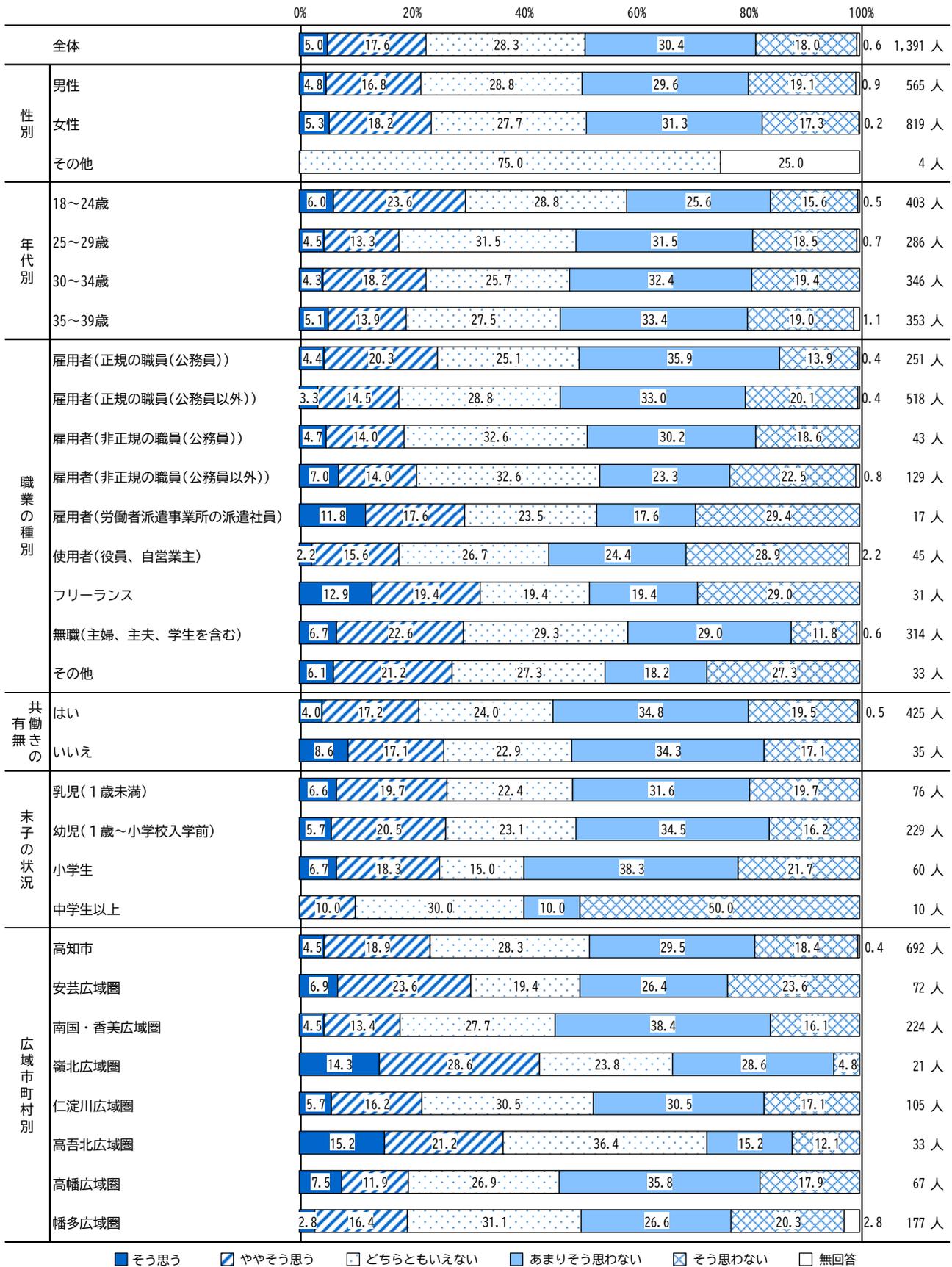
【年代別】

- 18～24歳では「どちらともいえない」が最も高く、25～29歳では「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」が同率、そのほかの年代では「あまりそう思わない」が最も高くなっている。
- いずれの年代も、【思わない】の割合が【思う】を上回っており、年齢が上がるにつれて割合も高くなっている。

【地域別】

- 高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、高幡広域圏では「あまりそう思わない」が最も高く、嶺北広域圏では「ややそう思う」、「あまりそう思わない」が同率、仁淀川広域圏では「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」が同率、高吾北広域圏、幡多広域圏では「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 嶺北広域圏、高吾北広域圏では【思う】の割合が【思わない】を上回っており、そのほかの地域では【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

V 調査結果（解説・グラフ）

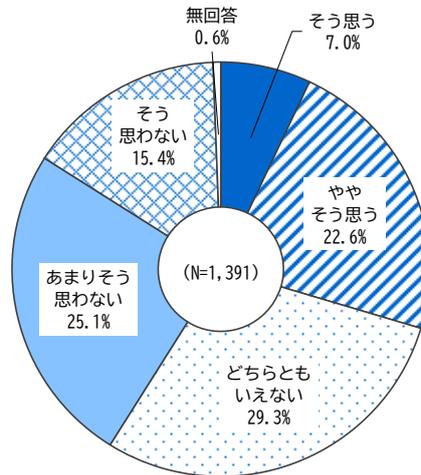


V 調査結果（解説・グラフ）

④ 安心して「子育て」できる社会か

【全体】

- 「どちらともいえない」が29.3%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」25.1%、「ややそう思う」22.6%と続いている。
- 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は29.6%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は40.5%となっている。



【性別】

- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

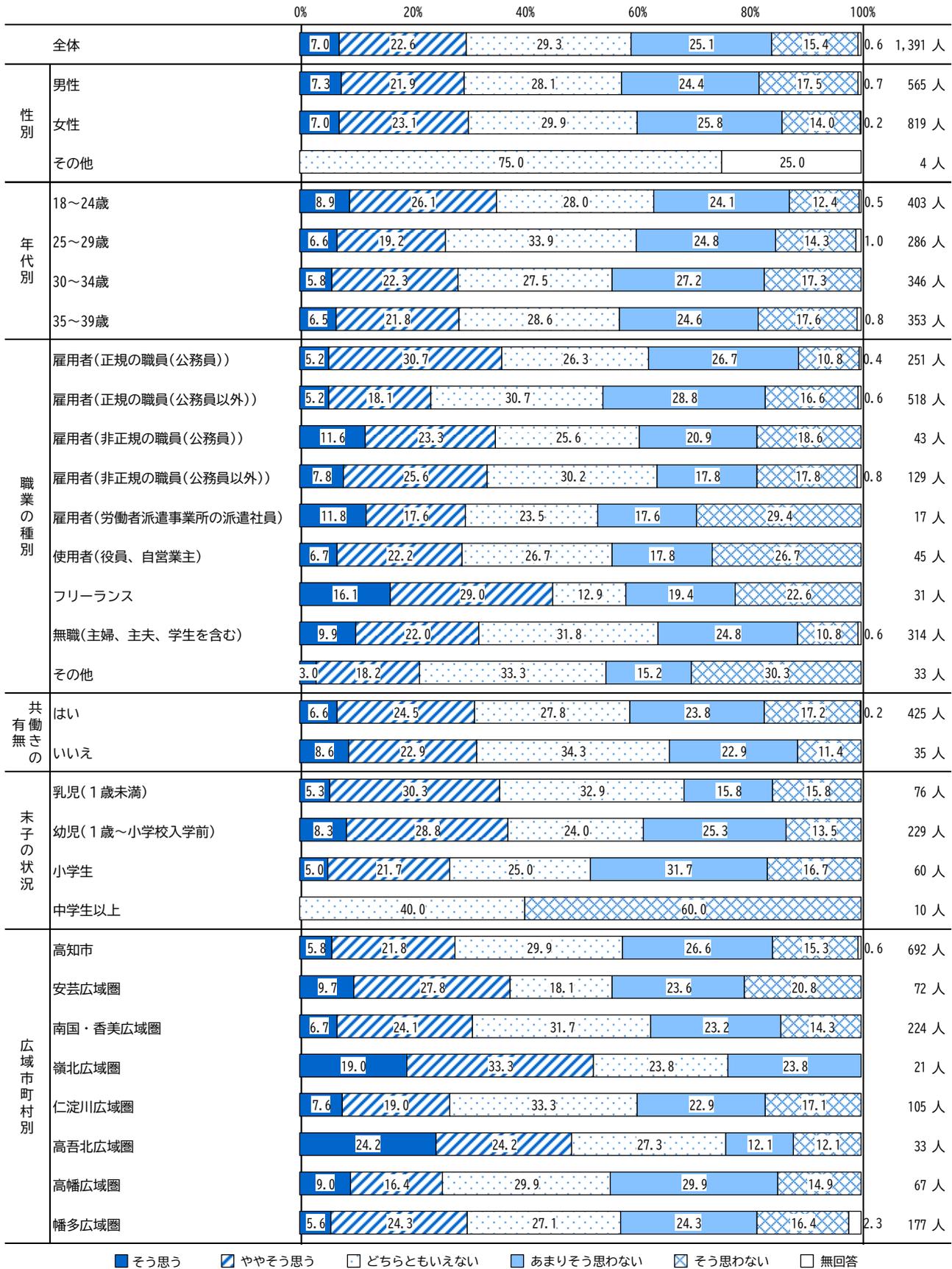
【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- いずれの年代も、【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

【地域別】

- 安芸広域圏、嶺北広域圏では、「ややそう思う」が最も高く、高幡広域圏では「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」が同率、そのほかの地域は「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 嶺北広域圏、高吾北広域圏では【思う】の割合が【思わない】を上回り、そのほかの地域では、【思わない】が上回っている。

V 調査結果（解説・グラフ）

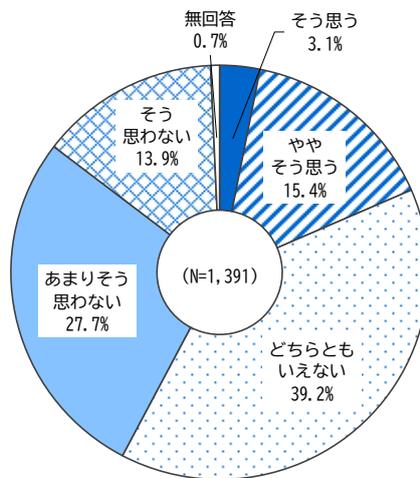


問2 あなたは、高知県が『こどもまんなか社会の実現』に向かっていると思いますか。それぞれについて、あなたの考えに近いものをお選びください。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

① 『こどもまんなか社会の実現』に向かっているか

【全体】

- 「どちらともいえない」が39.2%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」27.7%、「ややそう思う」15.4%と続いている。
- 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は18.5%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は41.6%となっている。



【性別】

- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

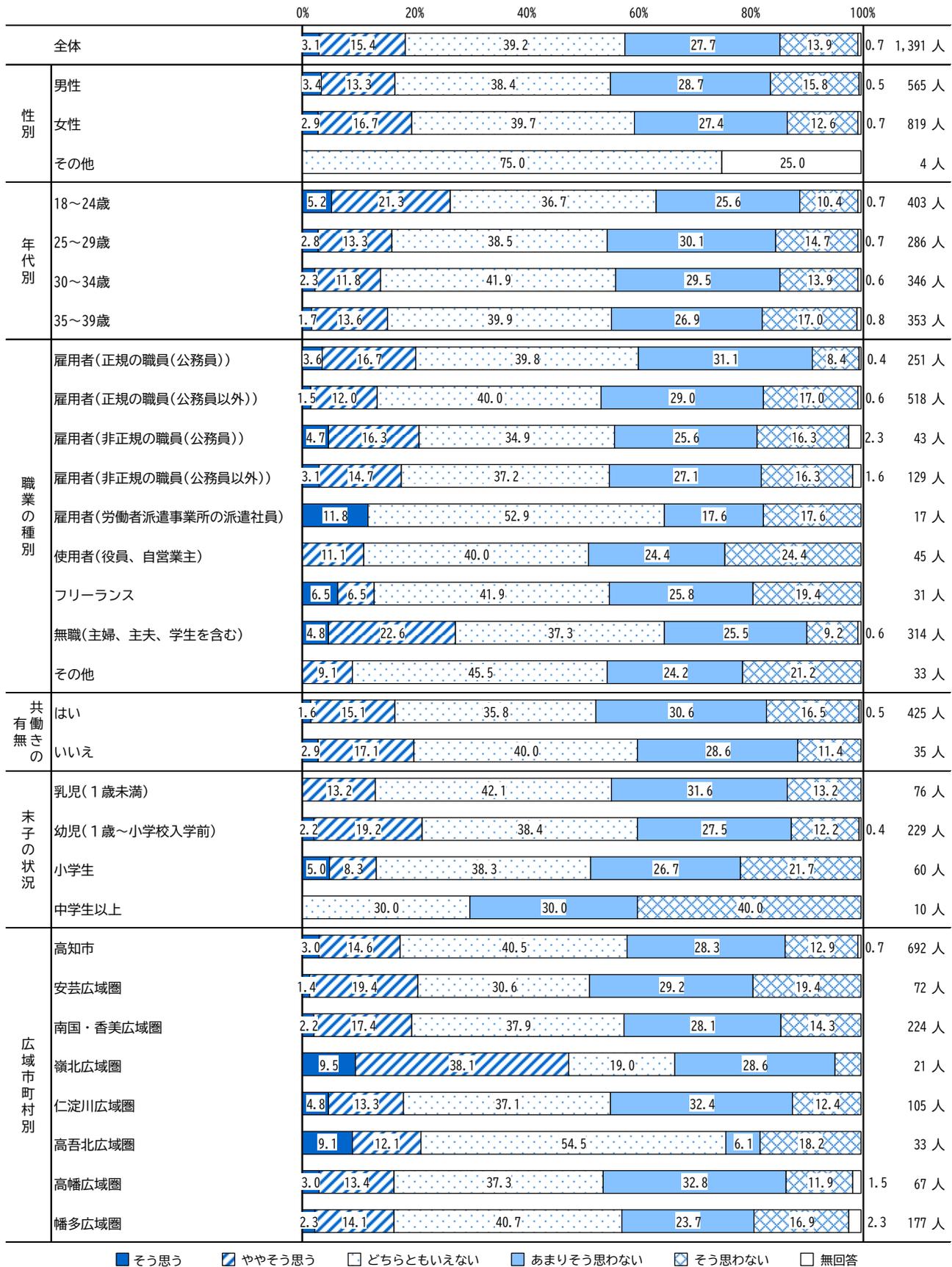
【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- いずれの年代も、【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

【地域別】

- 嶺北広域圏を除くすべての地域で、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 嶺北広域圏を除くすべての地域で、【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

V 調査結果（解説・グラフ）

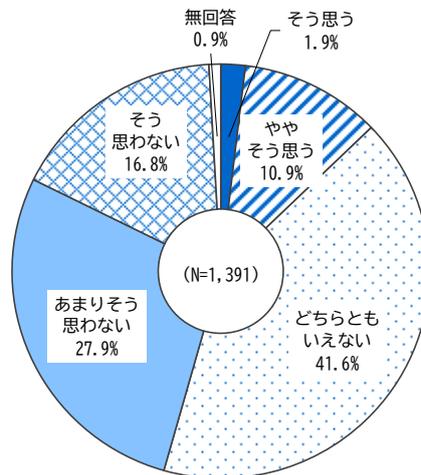


V 調査結果（解説・グラフ）

② こども政策が、こども・若者の意見を反映させたものになっているか

【全体】

- 「どちらともいえない」が41.6%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」27.9%、「そう思わない」16.8%と続いている。
- 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は12.8%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は44.7%となっている。



【性別】

- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

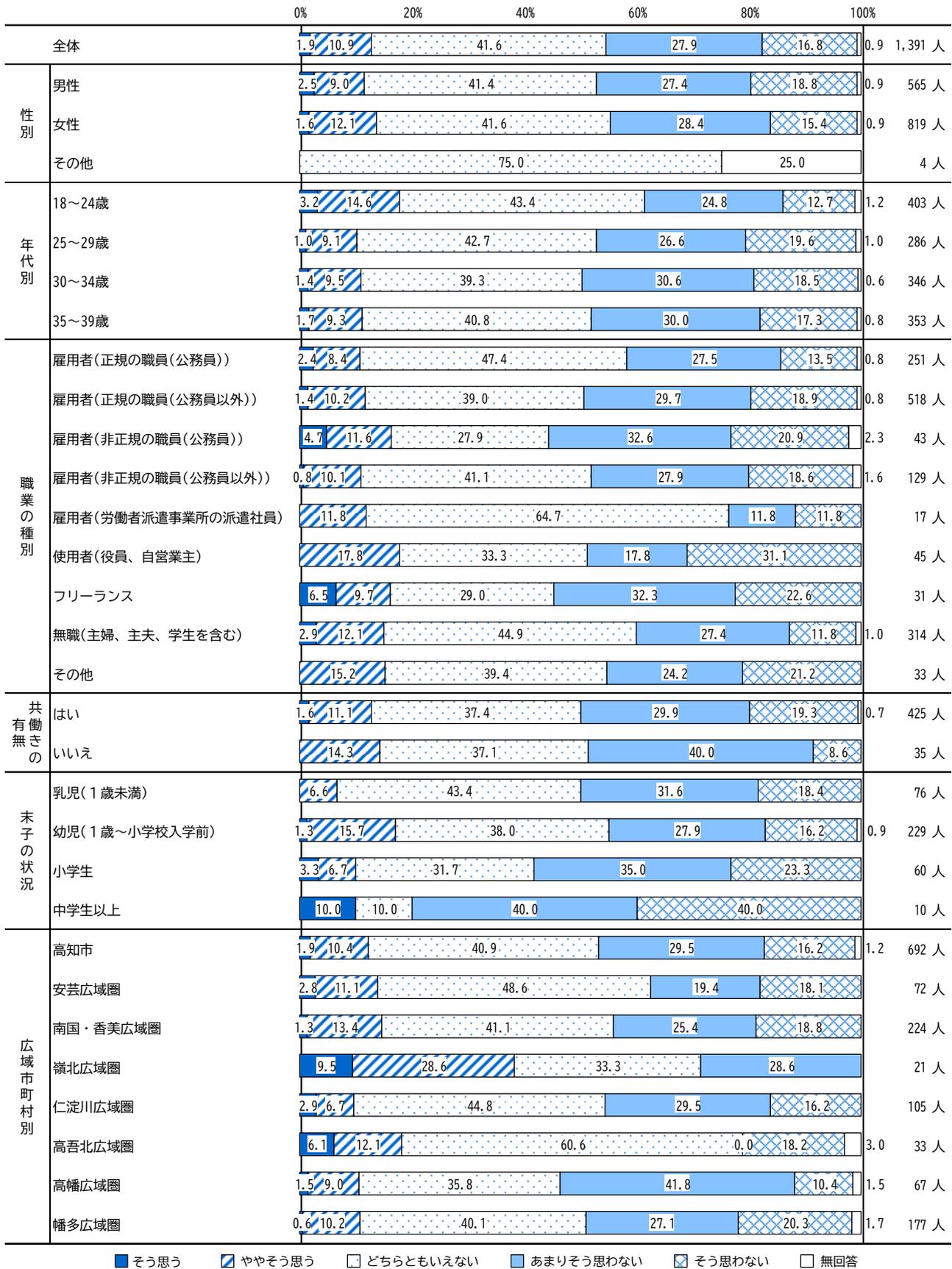
【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- いずれの年代も、【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

【地域別】

- 高幡広域圏を除くすべての地域で、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 嶺北広域圏では【思う】の割合が【思わない】を上回っており、高吾北広域圏では【思う】と【思わない】が同率、そのほかの地域では【思わない】の割合が【思う】を上回っている。

V 調査結果（解説・グラフ）

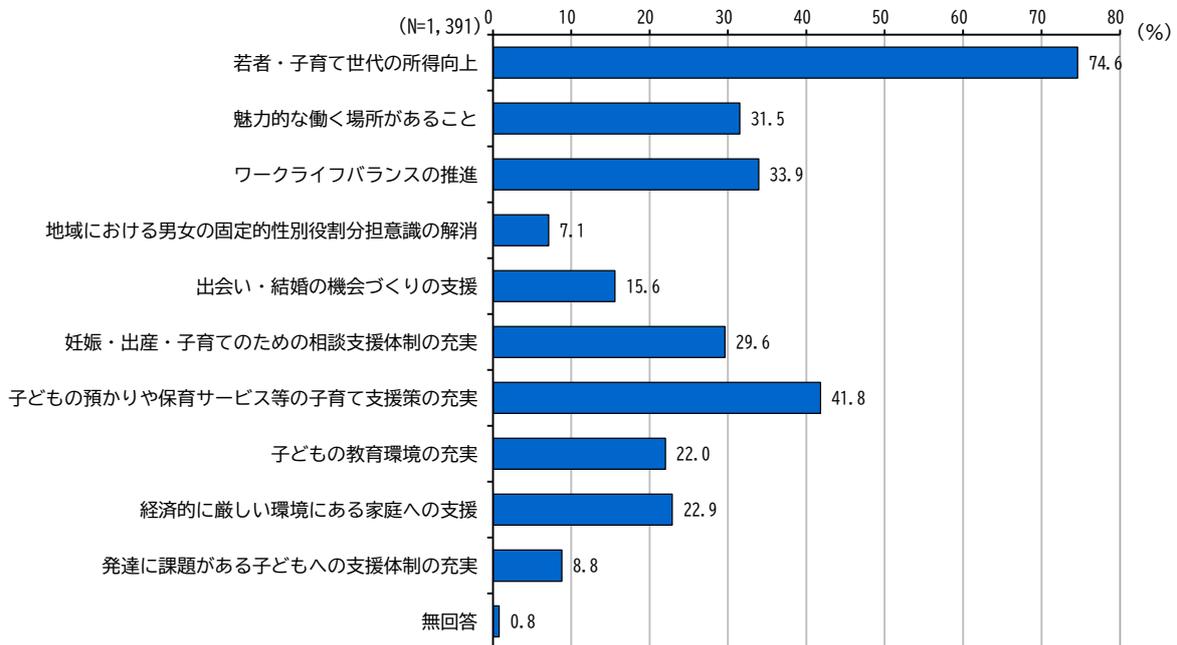


2 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて

問3 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために、特に力を入れるべき施策は何だと思えますか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

○「若者・子育て世代の所得向上」が74.6%と最も高く、次いで「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」41.8%、「ワークライフバランスの推進」33.9%と続いている。

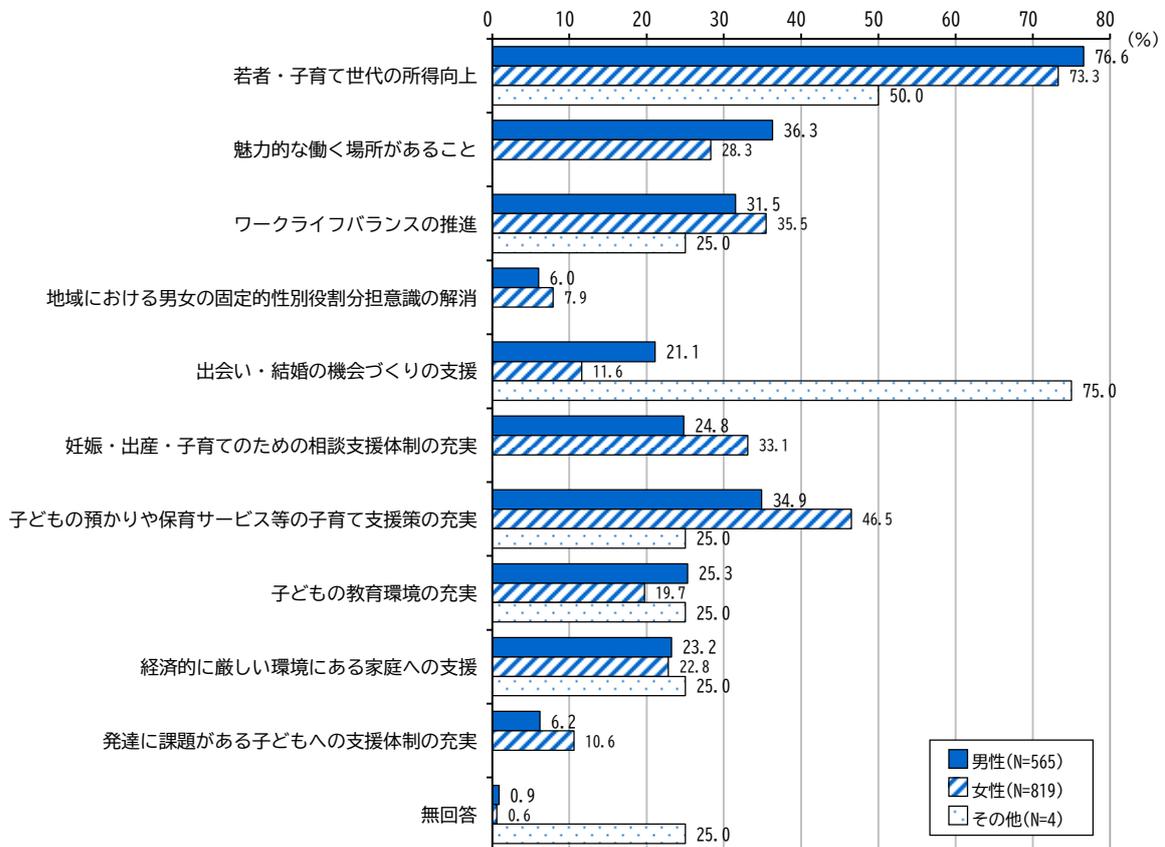


V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

○男女ともに、「若者・子育て世代の所得向上」が最も高くなっている。

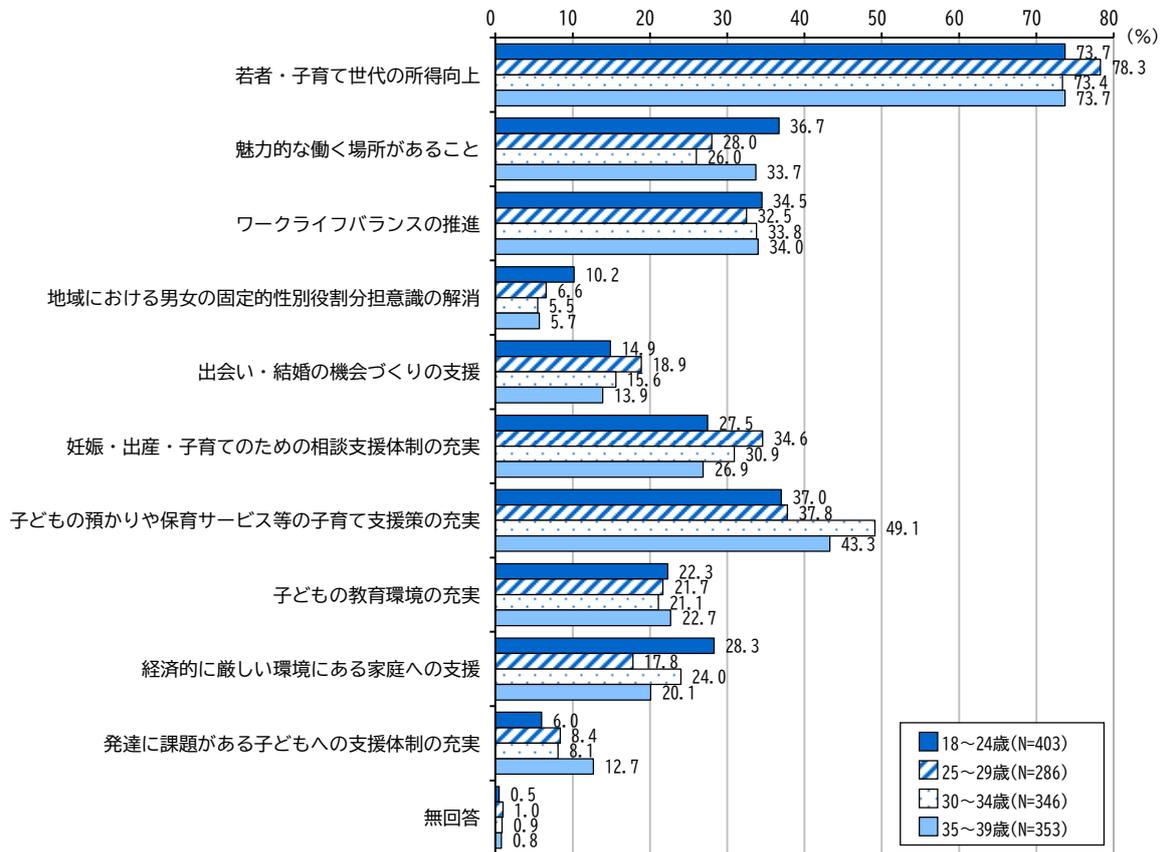
○次いで男性は、「魅力的な働く場所があること」36.3%、「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」34.9%と続き、女性は、「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」46.5%、「ワークライフバランスの推進」35.5%と続いている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

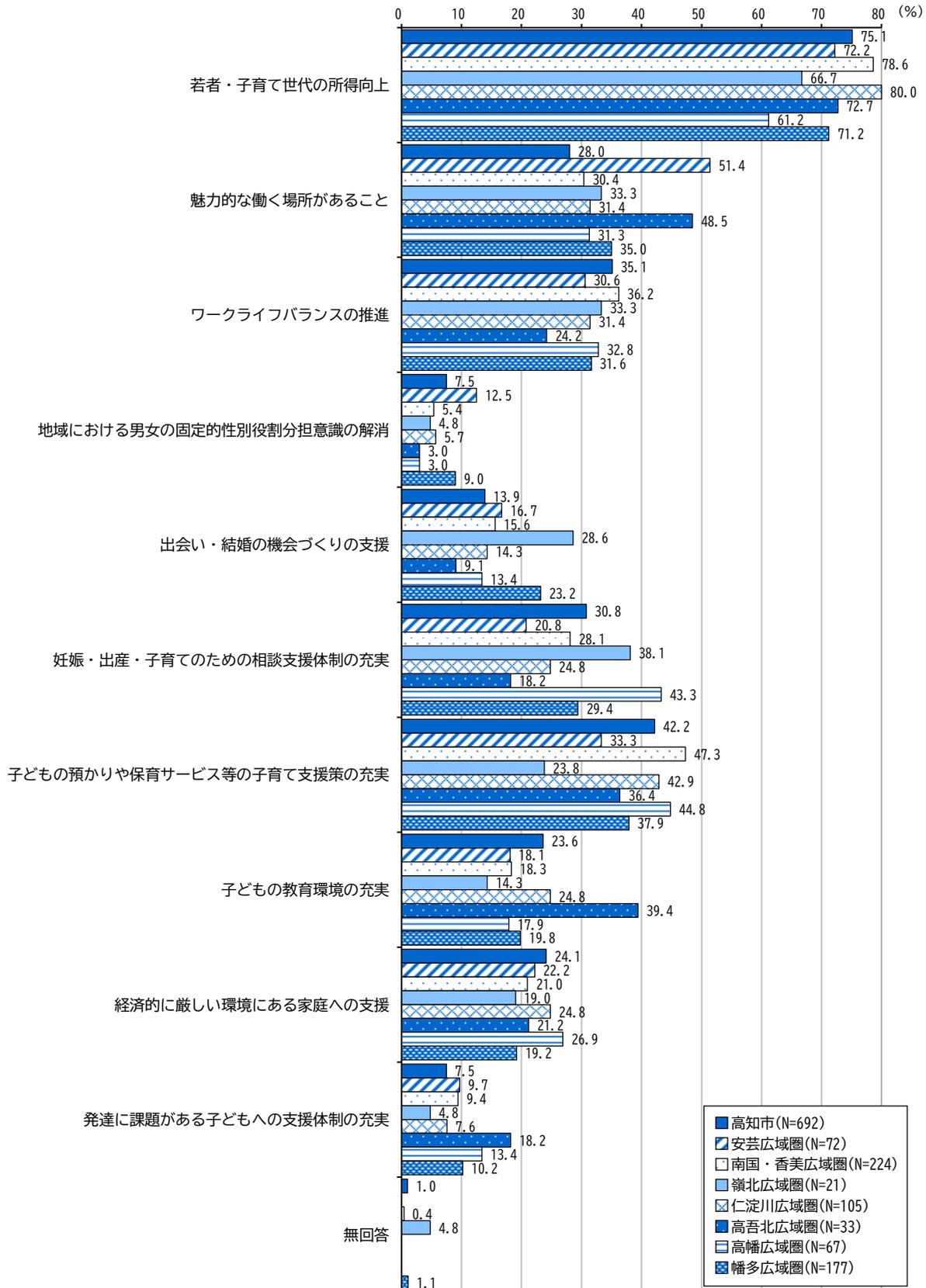
- すべての年代で「若者・子育て世代の所得向上」が最も高く、2番目も「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」で同様である。
- 3番目は、18歳～24歳が「魅力的な働く場所があること」、25～29歳が「妊娠・出産・子育てのための相談支援体制の充実」、そのほかの年代は、「ワークライフバランスの推進」となっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

○すべての地域で「若者・子育て世代の所得向上」が最も高くなっている。

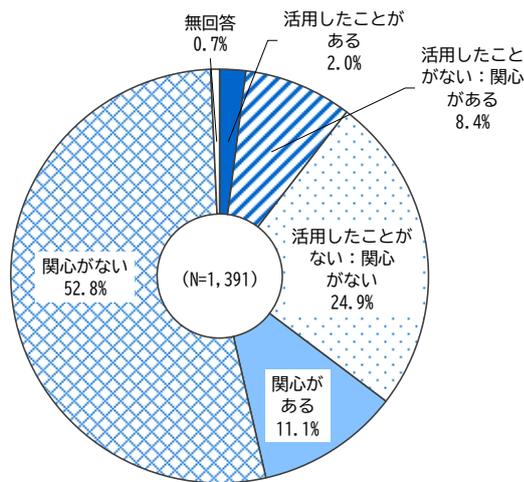


問4 高知県が少子化対策の取り組みとして行っている下記の事業について知っていますか。また、あなたの関心度はいかがですか。各事業について、あなたの考えに近いものをお選びください。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

① こうち出会いサポートセンター

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が35.3%、【知らない】が63.9%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が52.8%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」24.9%、「知らない（関心がある）」11.1%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」と続いている。

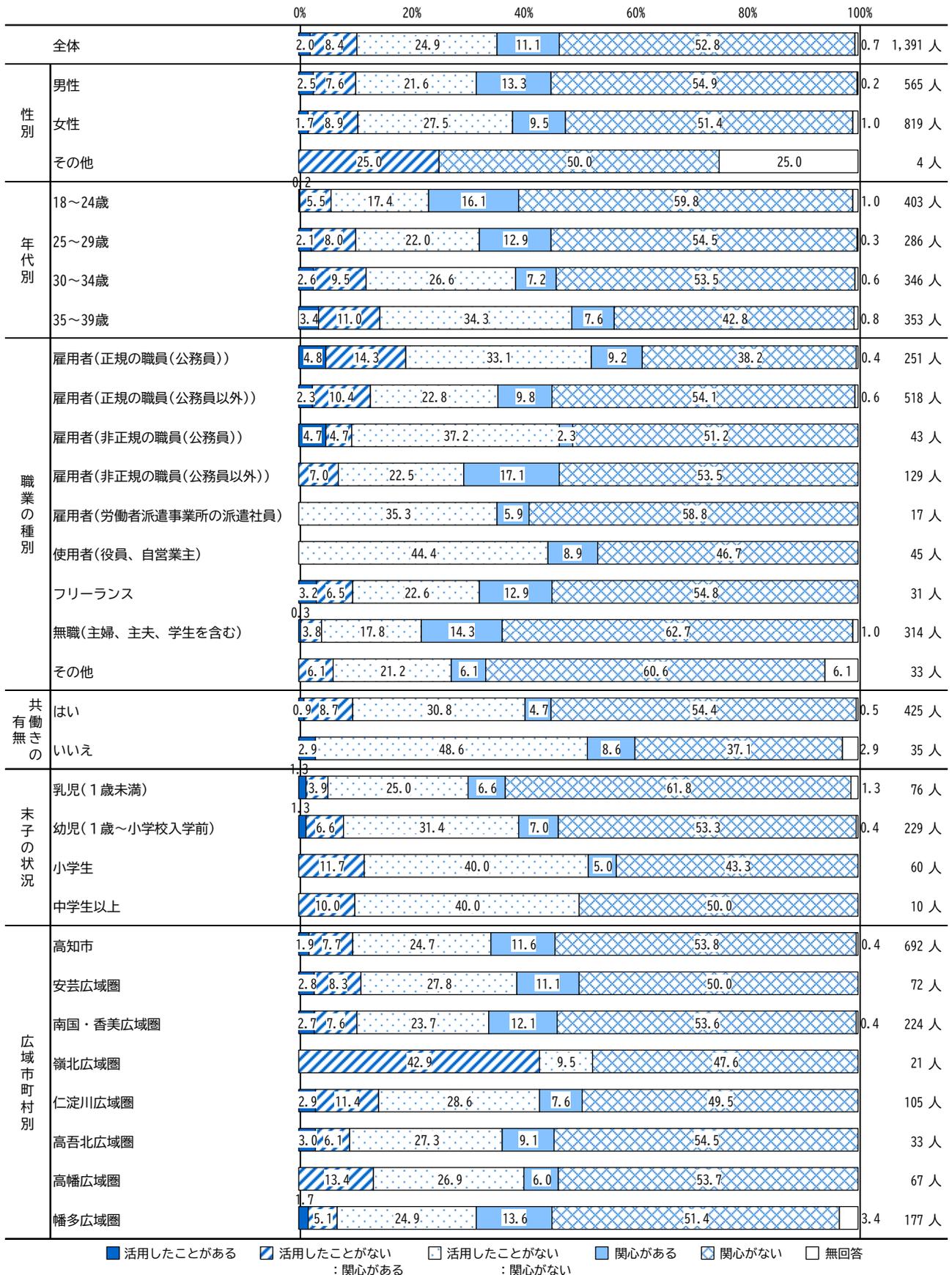
【年代別】

- いずれの年代も、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、特に18歳～24歳では75.9%とそのほかの年代に比べて高くなっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

- 嶺北広域圏のみ【知っている】が【知らない】の割合を上回っているが、そのほかの地域は【知らない】が上回っている。
- いずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）



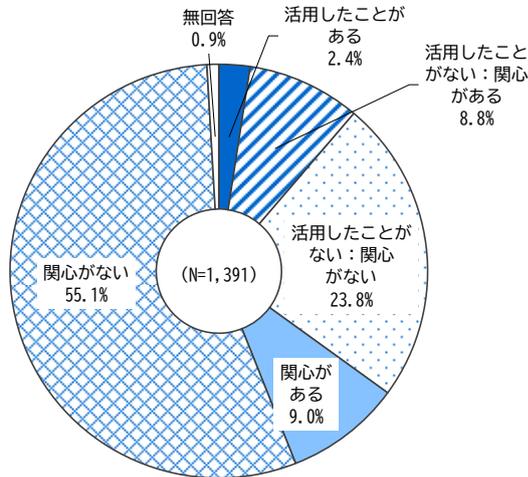
活用したことがある
 活用したことがない
 活用したことがない
 関心がある
 関心がない
 無回答

V 調査結果（解説・グラフ）

② 高知で恋しよ！！マッチング（県が運営する会員制のお引き合わせシステム）

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が35.0%、【知らない】が64.1%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が55.1%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」23.8%、「知らない（関心がある）」9.0%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」と続いている。

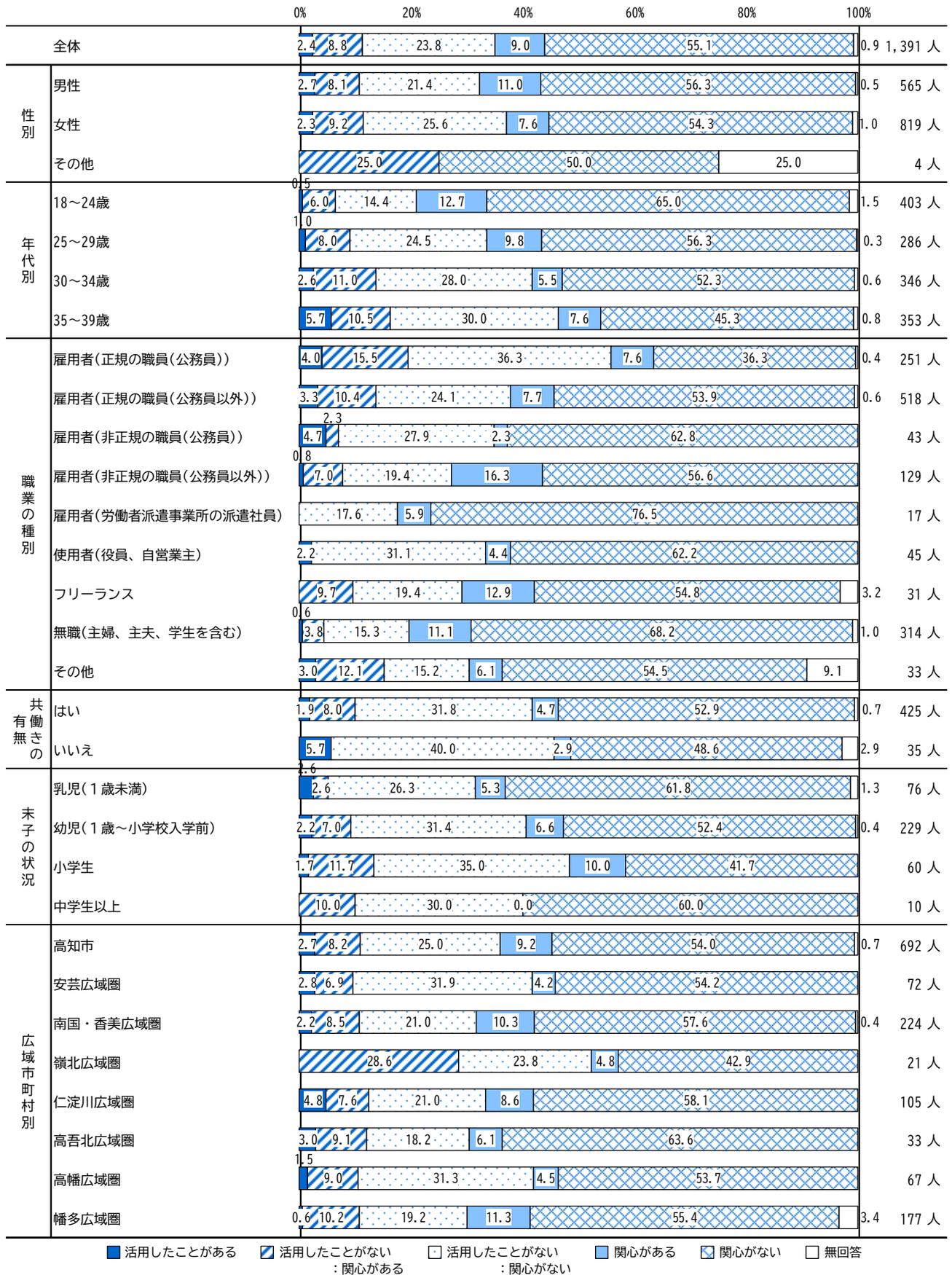
【年代別】

- いずれの年代も、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、特に18歳～24歳では77.7%と高くなっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

- 嶺北広域圏を除くすべての地域で、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- いずれの地域も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

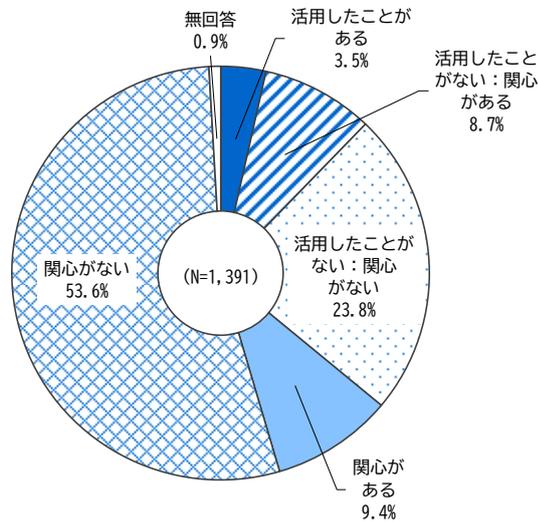


V 調査結果（解説・グラフ）

③ 高知で恋しよ！！イベント（県が運営する出会いイベント）

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が36.0%、【知らない】が63.0%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が53.6%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」23.8%、「知らない（関心がある）」9.4%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」と続いている。

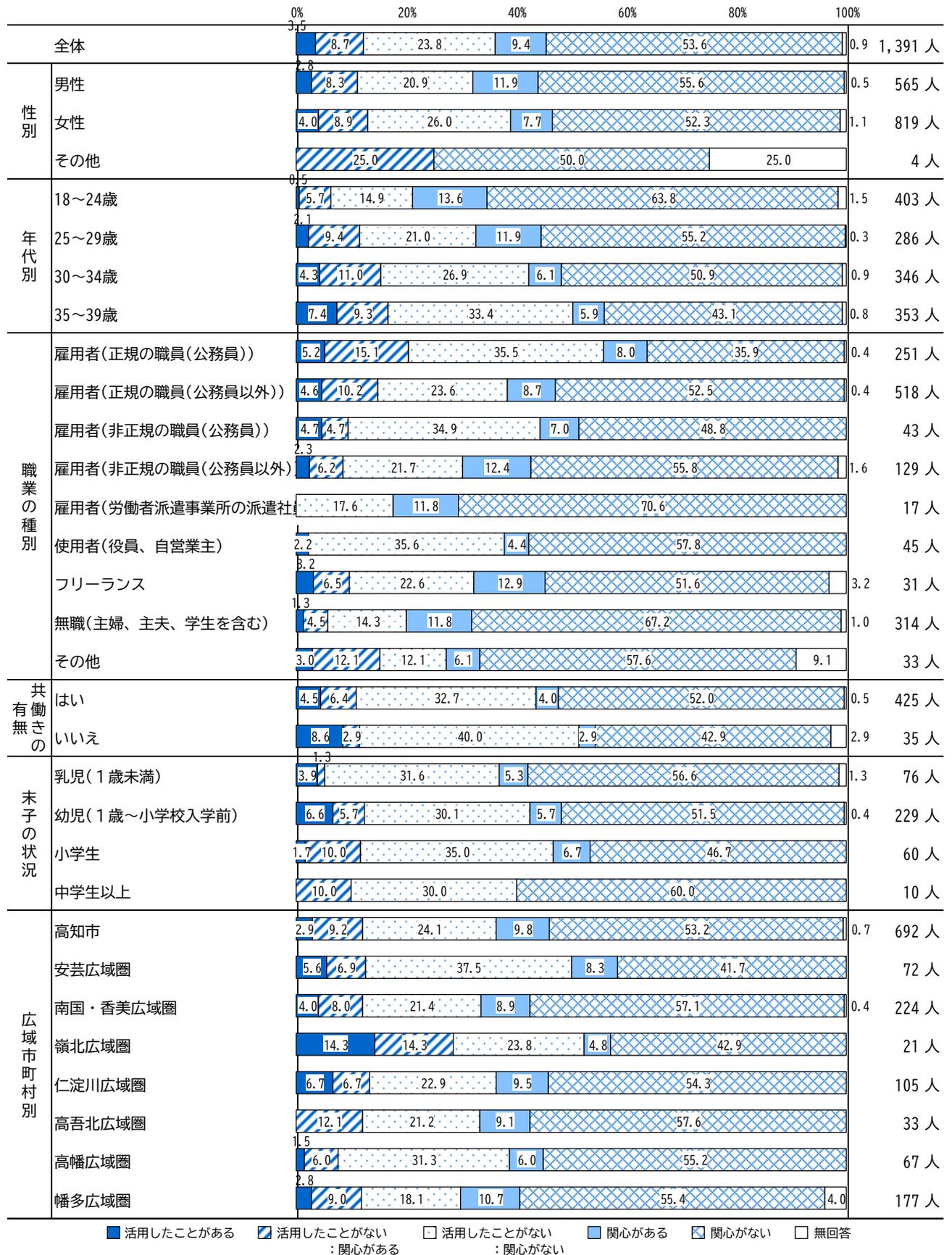
【年代別】

- 35歳～39歳を除くすべての年代で、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

- 安芸広域圏では【知っている】、【知らない】が同率で、嶺北広域圏では【知っている】の割合が【知らない】を上回っており、そのほかの地域で【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。

V 調査結果（解説・グラフ）

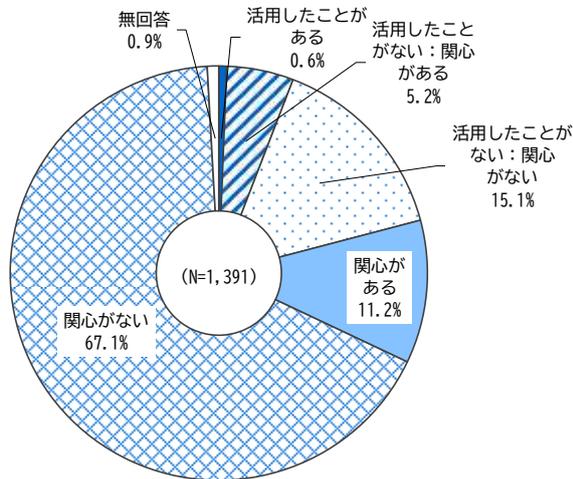


V 調査結果（解説・グラフ）

④ 婚活サポーター（地域で独身男女のお引き合わせを行うボランティア）

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が20.9%、【知らない】が78.3%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が67.1%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」15.1、「知らない（関心がある）」11.2%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を大きく上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

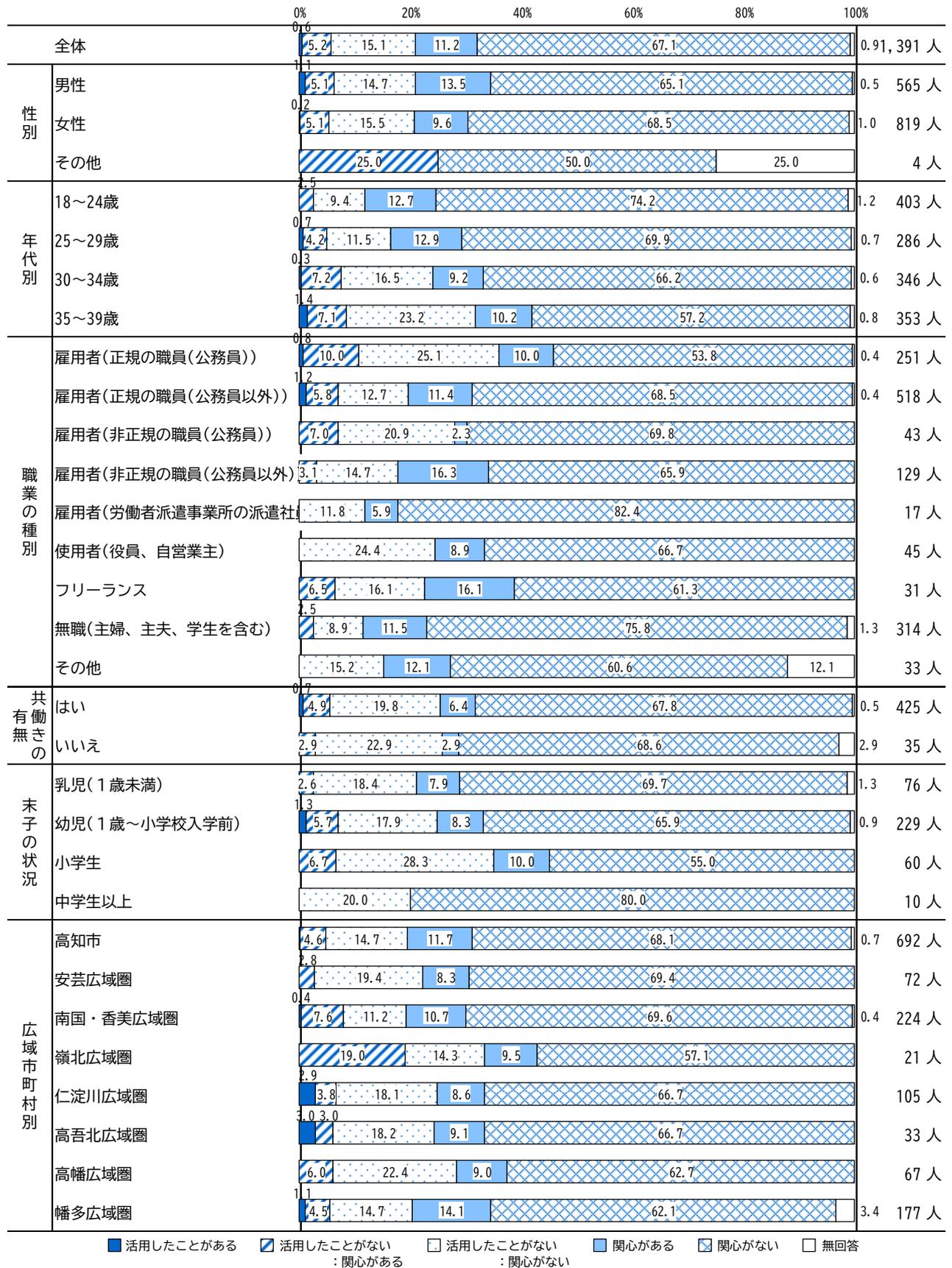
【年代別】

- いずれの年代も、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、18歳～24歳、25歳～29歳では8割を超えている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

- すべての地域で、【知らない】の割合が【知っている】を大きく上回っている。
- いずれの地域も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

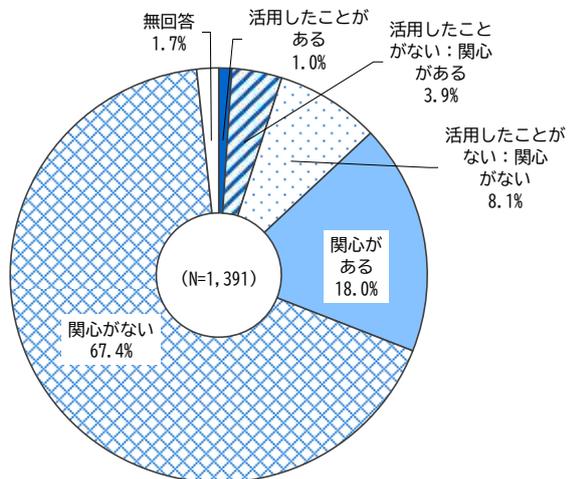


V 調査結果（解説・グラフ）

⑤ NEW STEP（高知県社会人交流事業）

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が13.0%、【知らない】が85.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が67.4%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」18.0%、「知っている（活用したことがない：関心がない）」8.1%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を大きく上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

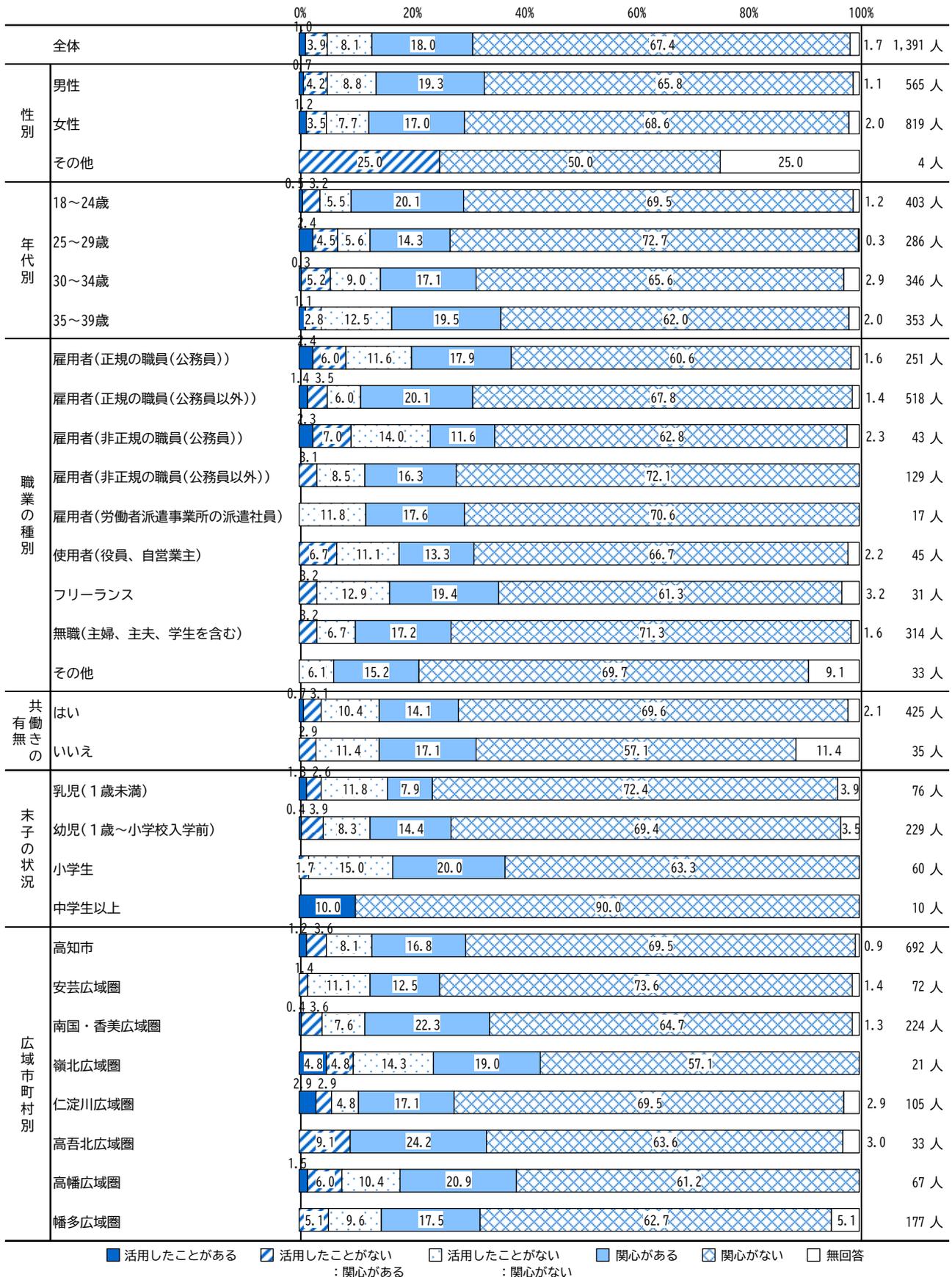
【年代別】

- いずれの年代も、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、8割を超えている。

【地域別】

- すべての地域で、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- いずれの地域も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

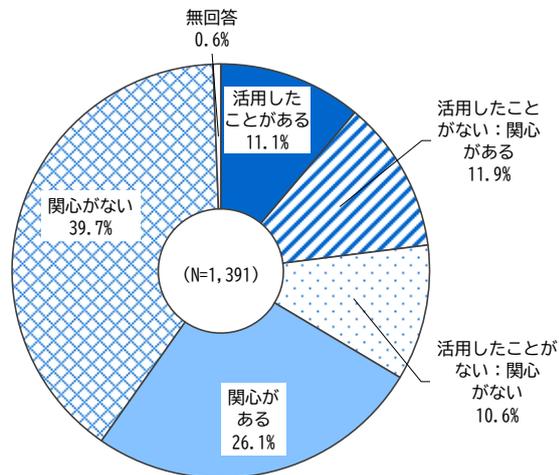


V 調査結果（解説・グラフ）

⑥ こうち子育て応援の店

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が33.6%、【知らない】が65.8%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が39.7%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」26.1%、「知っている（活用したことがない：関心がある）」11.9%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。

【地域別】

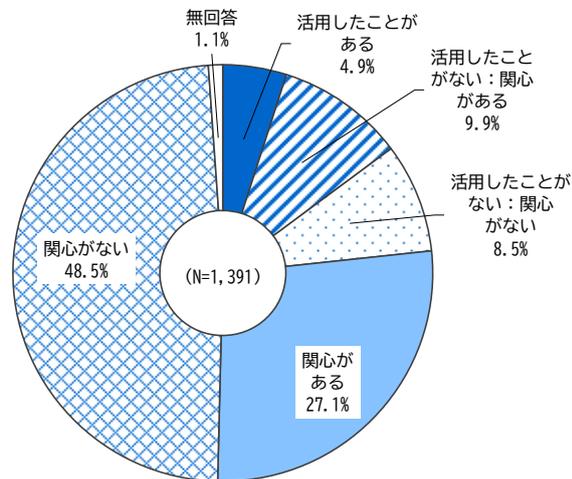
- すべての地域で、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- 嶺北広域圏、高幡広域圏を除くすべての地域で「知らない（関心がない）」が最も高く、嶺北広域圏では「知っている（活用したことがない：関心がある）、高幡広域圏では「知らない（関心がある）」、「知らない（関心がない）」が同率で最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

⑦ 高知の子育て応援サイト「こうちプレマ net」

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が23.3%、【知らない】が75.6%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が48.5%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」27.1%、「知っている（活用したことがない：関心がある）」9.9%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、特に男性は8割以上が【知らない】という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

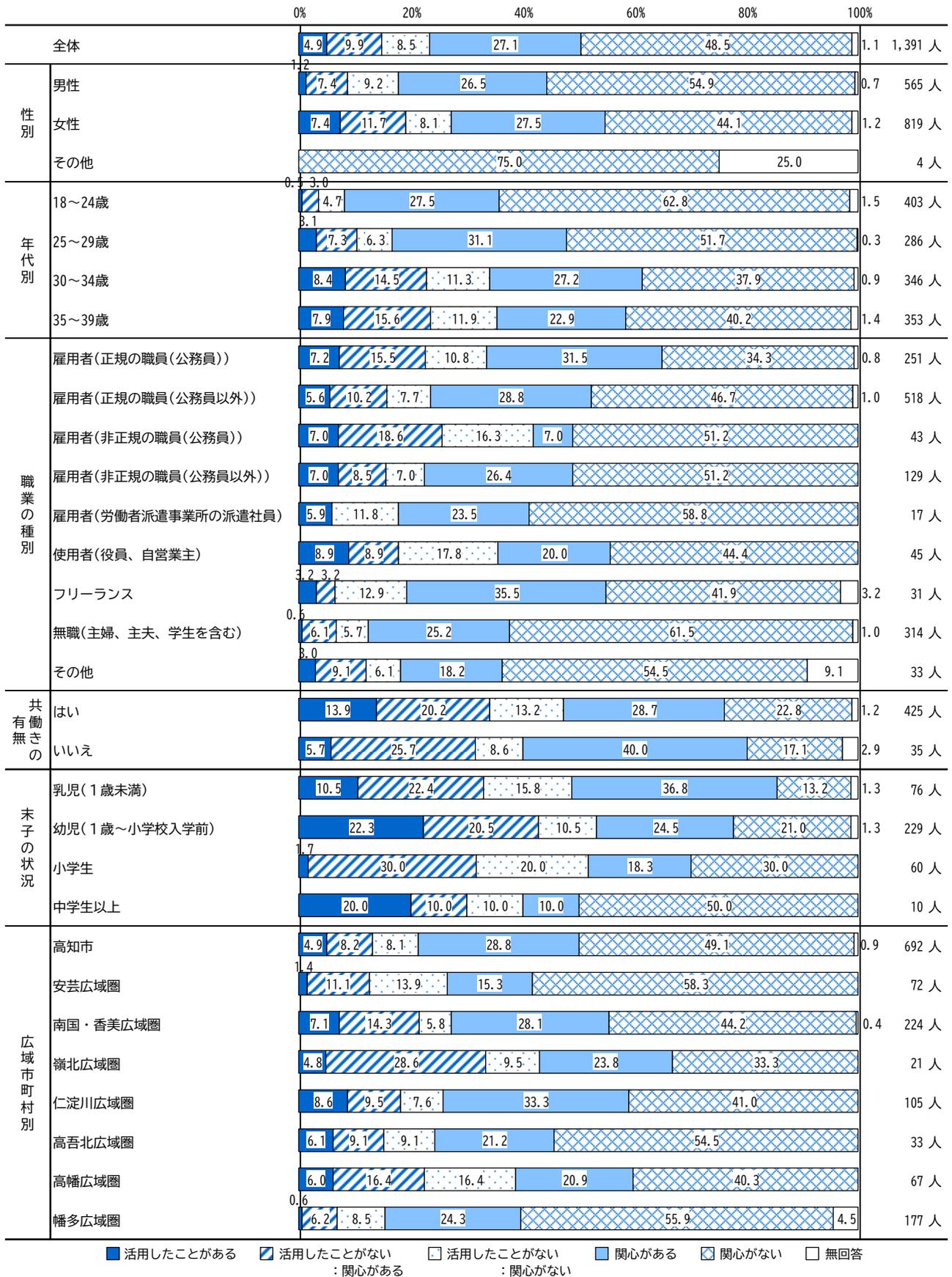
【年代別】

- いずれの年代も、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、特に18歳～24歳では90.3%が【知らない】という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

- すべての地域で、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- すべての地域で、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

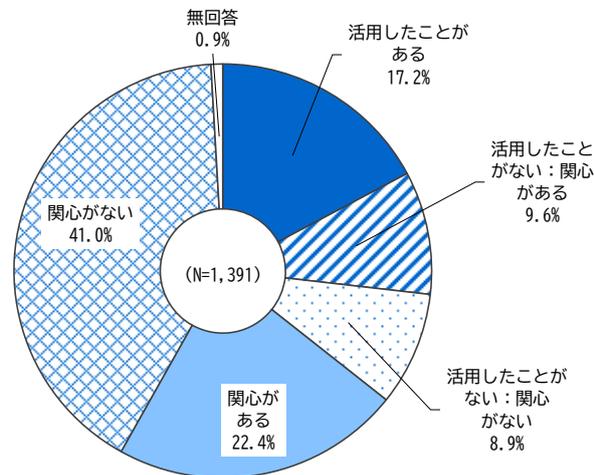


V 調査結果（解説・グラフ）

⑧ 高知家子育て応援パスポートアプリ「おでかけるんだパス」

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が35.7%、【知らない】が63.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が41.0%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」22.4%、「知っている（活用したことがある）」17.2%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、特に男性は71.0%が【知らない】という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで男性は、「知らない（関心がある）」、女性は、「知っている（活用したことがある）」、「知らない（関心がない）」が同率で続いている。

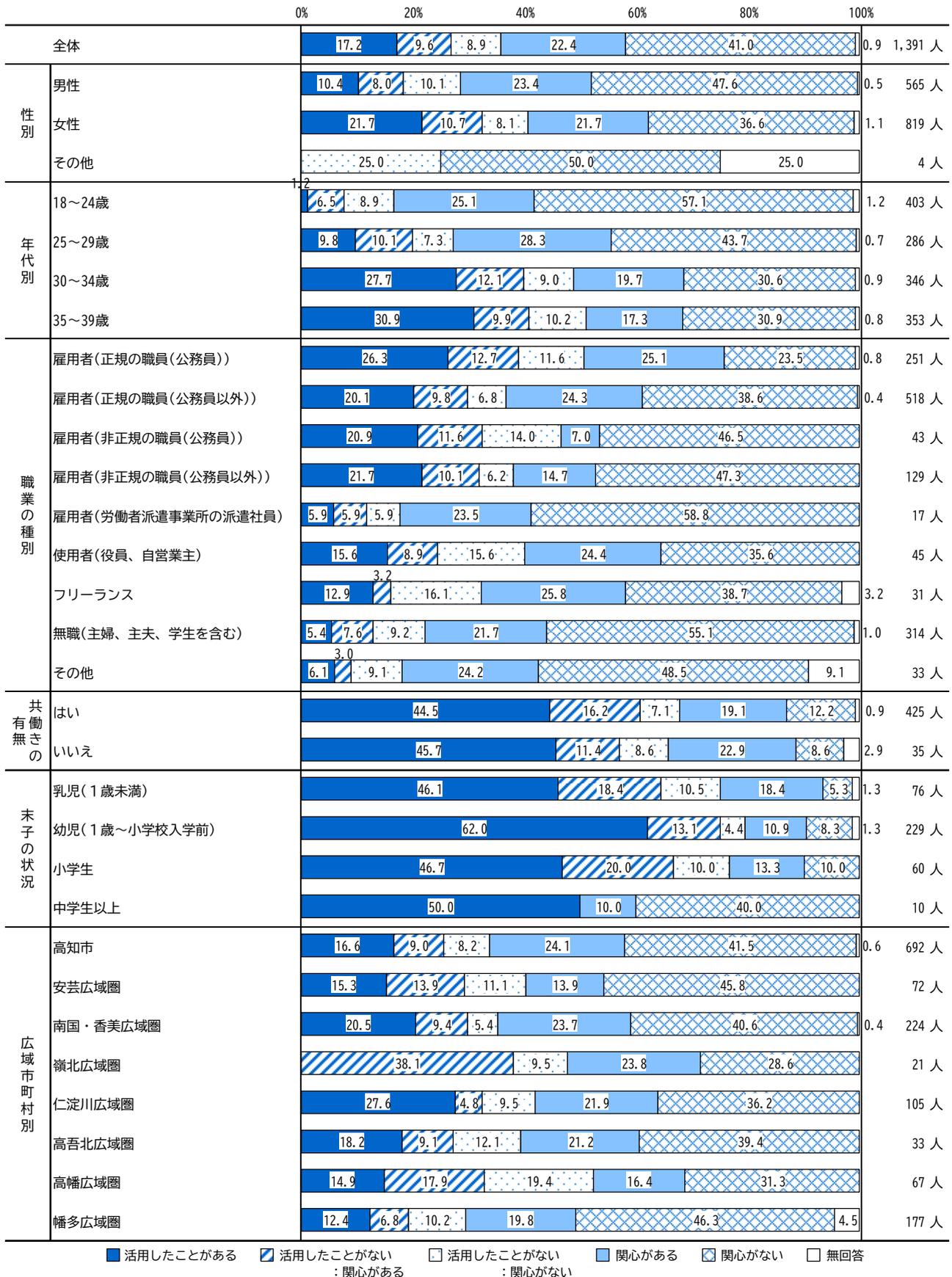
【年代別】

- 35歳～39歳は、【知っている】の割合が【知らない】を上回っているが、そのほかの年代は【知らない】が上回る結果となっている。
- 35歳～39歳を除くすべての年代で「知らない（関心がない）」が最も高く、35歳～39歳では「知っている（活用したことがある）」、「知らない（関心がない）」が同率で最も高くなっている。

【地域別】

- 高幡広域圏を除くすべての地域で、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- 嶺北広域圏では「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高く、その他の地域では「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

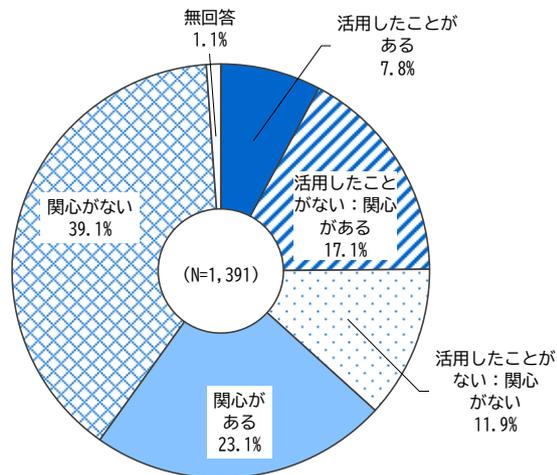


V 調査結果（解説・グラフ）

⑨ 産後ケア事業（市町村事業）

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が36.8%、【知らない】が62.2%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が39.1%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」23.1%、「知っている（活用したことがない：関心がある）」17.1%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、特に男性は72.0%が【知らない】という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

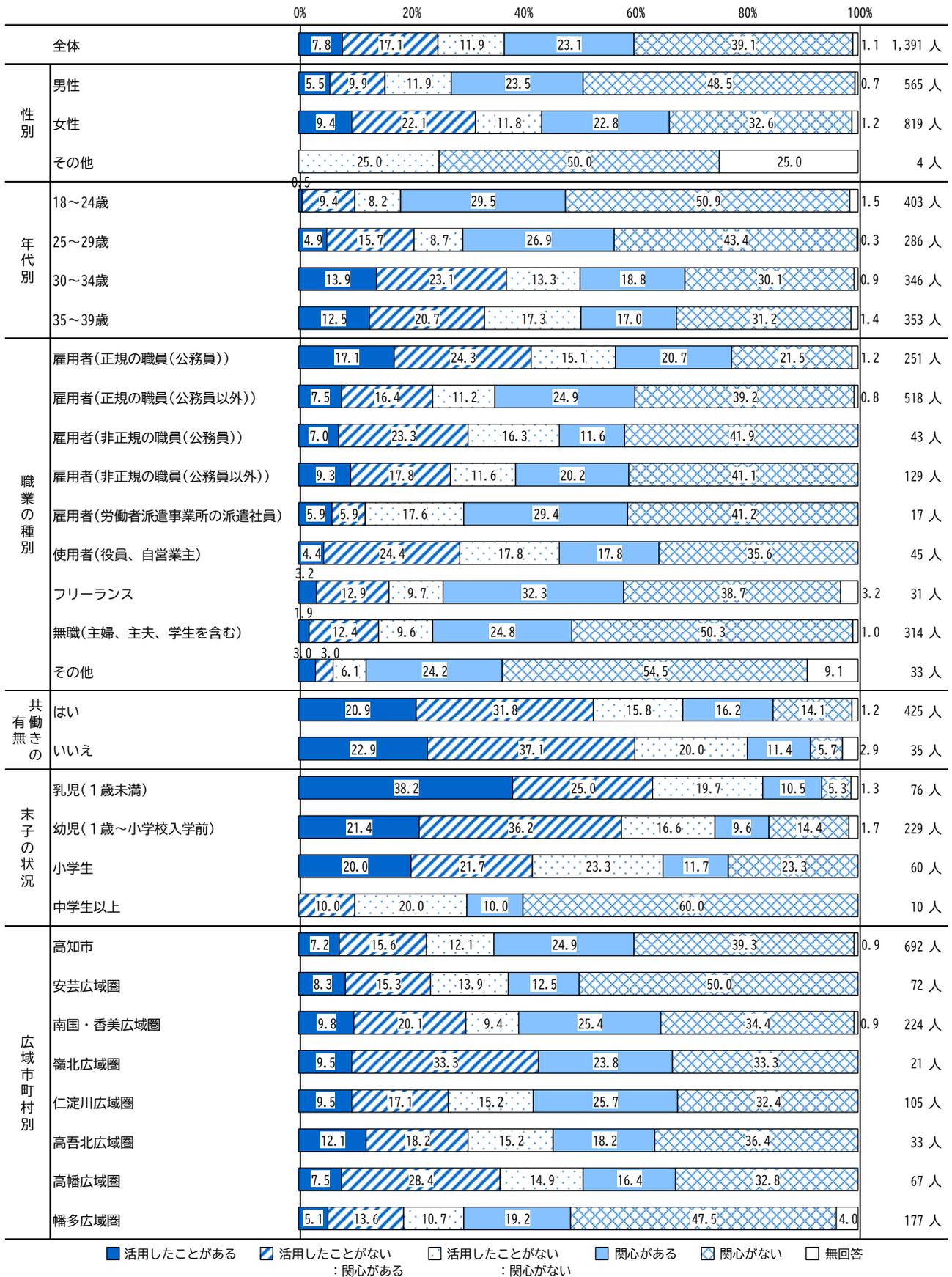
【年代別】

- 18歳～24歳、25歳～29歳では【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、30歳～34歳、35歳～39歳では【知っている】の割合が【知らない】を上回っている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

- 高幡広域圏を除くすべての地域で、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、高幡広域圏では【知っている】の割合が【知らない】を上回っている。
- 嶺北広域圏を除くすべての地域で、「知らない（関心がない）」が最も高くなっており、嶺北広域圏では「知っている（活用したことがない：関心がある）」、「知らない（関心がない）」が同率で最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

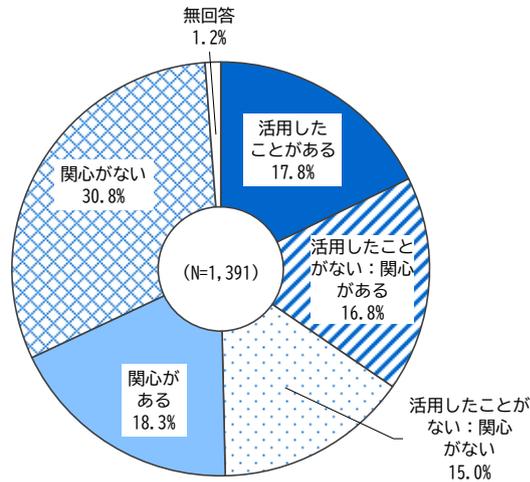


V 調査結果（解説・グラフ）

⑩ 地域子育て支援センター（市町村事業）

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が49.6%、【知らない】が49.1%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が30.8%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」18.3%、「知っている（活用したことがある）」17.8%と続いている。



【性別】

- 男性は、【知らない】の割合が【知っている】を上回っているが、女性は逆に【知っている】の割合が上回る結果となっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高くなっており、次いで男性は、「知らない（関心がある）」、女性は、「知っている（活用したことがある）」と続いている。

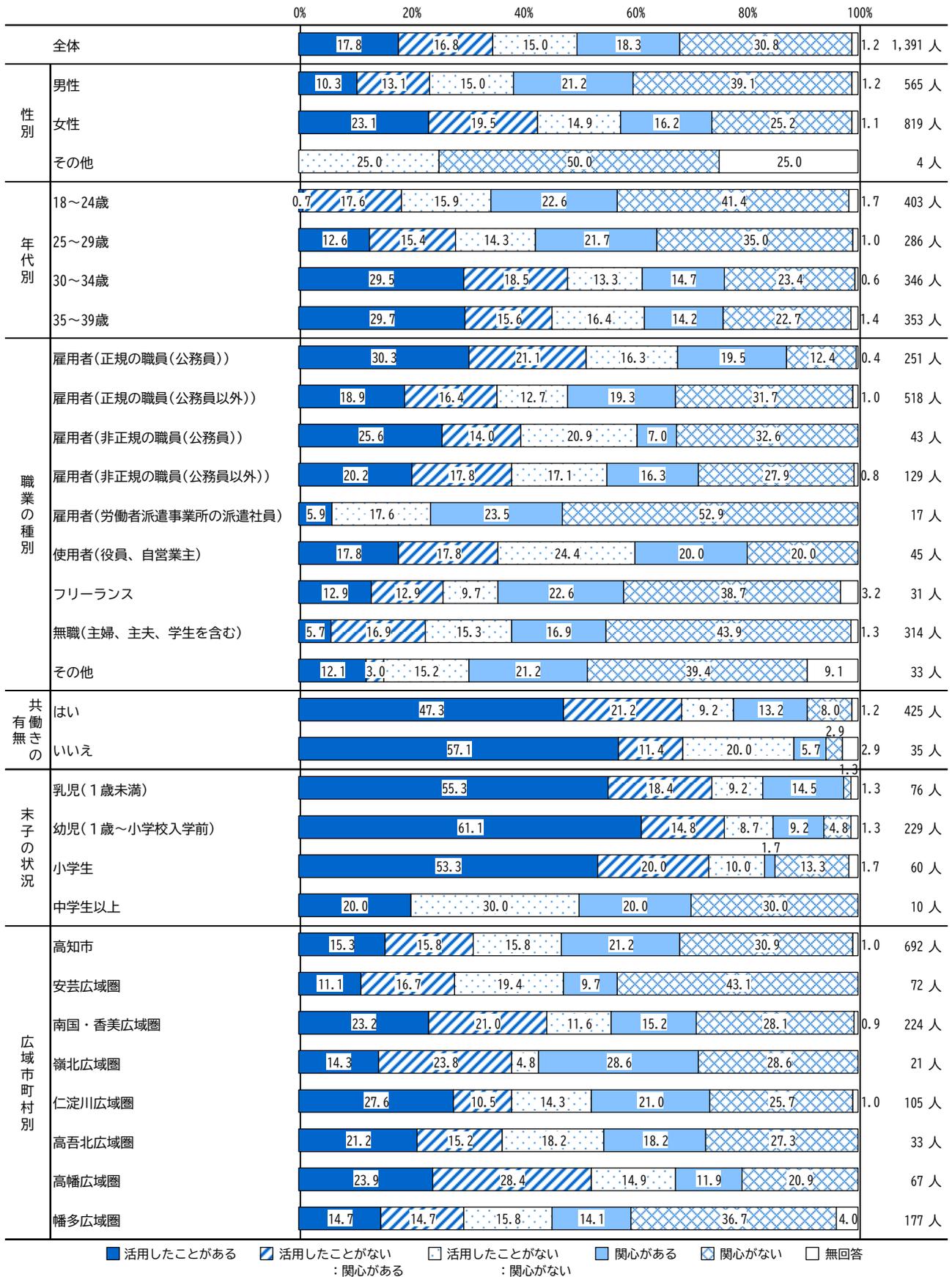
【年代別】

- 18歳～24歳、25歳～29歳は、【知らない】の割合が【知っている】を上回っているが、30歳～34歳、35歳～39歳は、【知っている】が上回る結果となっている。
- 30歳～34歳、35歳～39歳は、「知っている（活用したことがある）」が最も高く、そのほかの年代は、「知らない（関心がない）」が最も高い。

【地域別】

- 南国・香美広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏及び高幡広域圏で、【知っている】の割合が【知らない】を上回り、そのほかの地域では【知らない】が上回る結果となっている。
- 嶺北広域圏、仁淀川広域圏及び高幡広域圏を除くすべての地域で「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

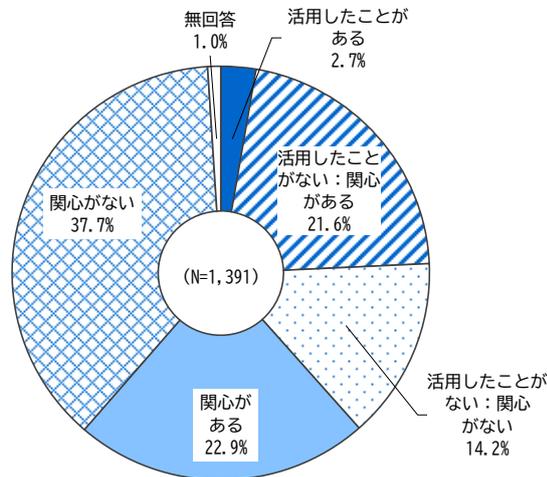


V 調査結果（解説・グラフ）

⑪ ファミリー・サポート・センター（市町村事業）

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が38.5%、【知らない】が60.6%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が37.7%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」22.9%、「知っている（活用したことがない：関心がある）」21.6%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、特に男性は70.4%が【知らない】という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで男性は、「知らない（関心がある）」、女性は、「知っている（活用したことがない：関心がある）」と続いている。

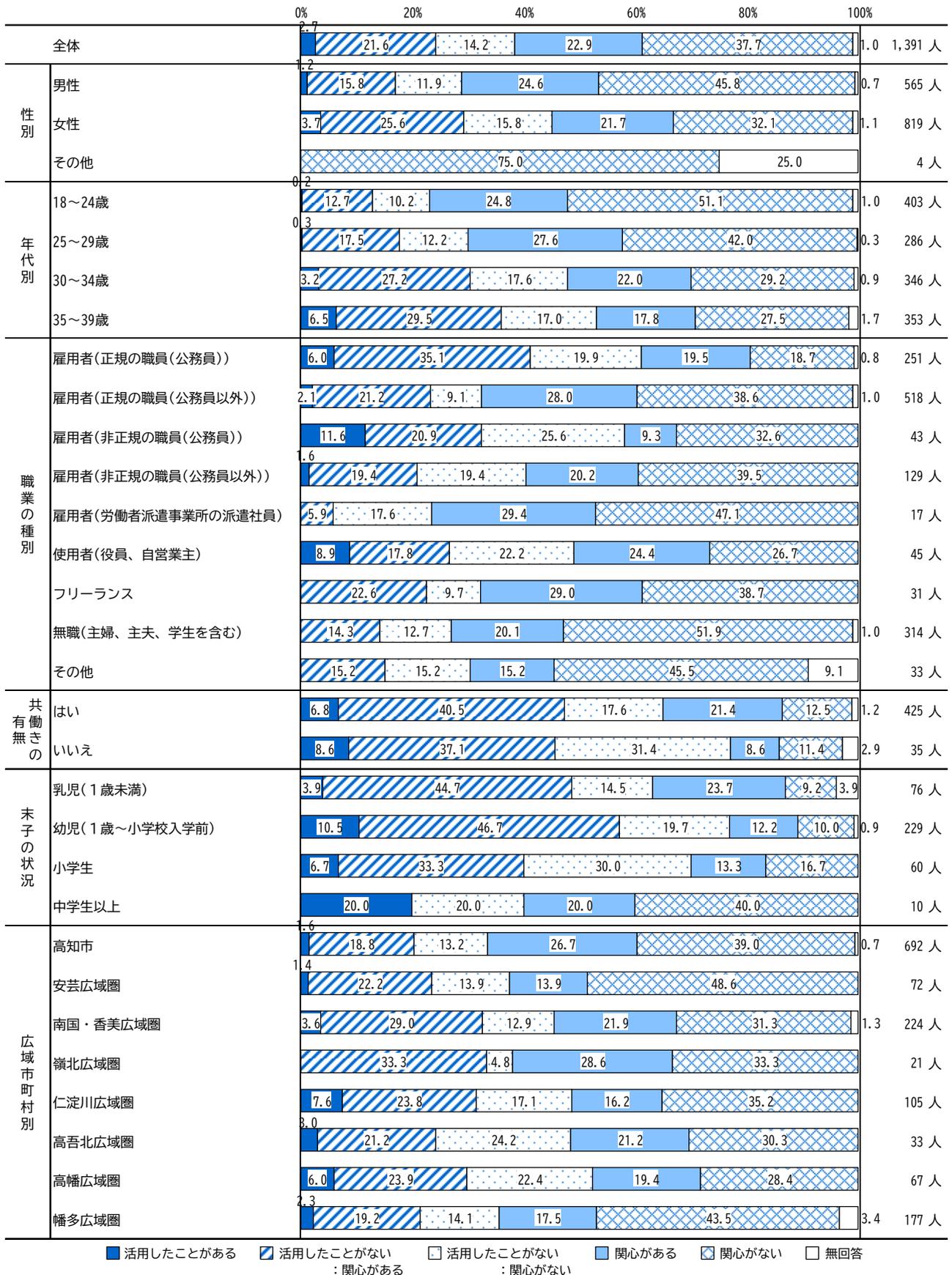
【年代別】

- 35歳～39歳は、【知っている】の割合が【知らない】を上回っているが、そのほかの年代は【知らない】が上回る結果となっている。
- 35歳～39歳は、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高く、そのほかの年代は、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

- 高幡広域圏で、【知っている】の割合が【知らない】を上回り、そのほかの地域では【知らない】が上回る結果となっている。
- 嶺北広域圏を除くすべての地域で「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

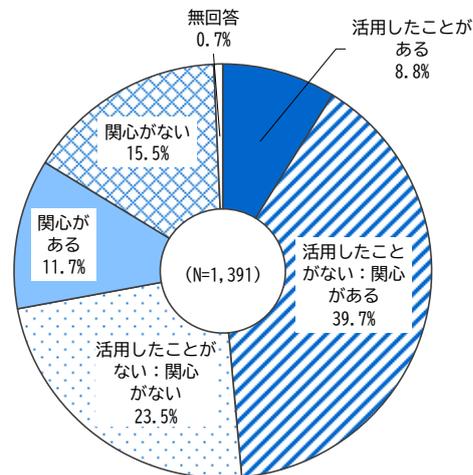


V 調査結果（解説・グラフ）

⑫ 子ども食堂

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が72.0%、【知らない】が27.2%となっている。
- 「知っている（活用したことがない：関心がある）」が39.7%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」23.5%、「知らない（関心がない）」15.5%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知っている】の割合が【知らない】を上回っており、特に女性は77.4%が【知っている】という結果になっている。
- 男女ともに、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

【年代別】

- すべての年代で、【知っている】の割合が【知らない】を上回っており、特に35歳～39歳は79.0%が【知っている】という結果になっている。
- いずれの年代も、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高くなっている。

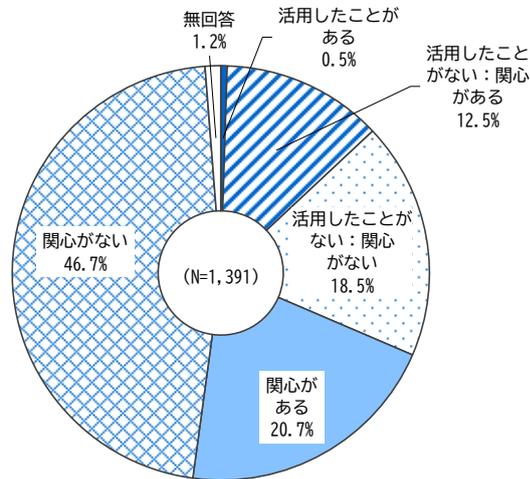
【地域別】

- すべての地域で、【知っている】の割合が【知らない】を上回っている。
- いずれの地域も、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高くなっている。

⑬ 高知家の出会い・結婚・子育て応援団

【全体】

- 本事業の認知度は、【知っている】が31.5%、【知らない】が67.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が46.7%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」20.7%、「知っている（活用したことがない：関心がない）」18.5%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

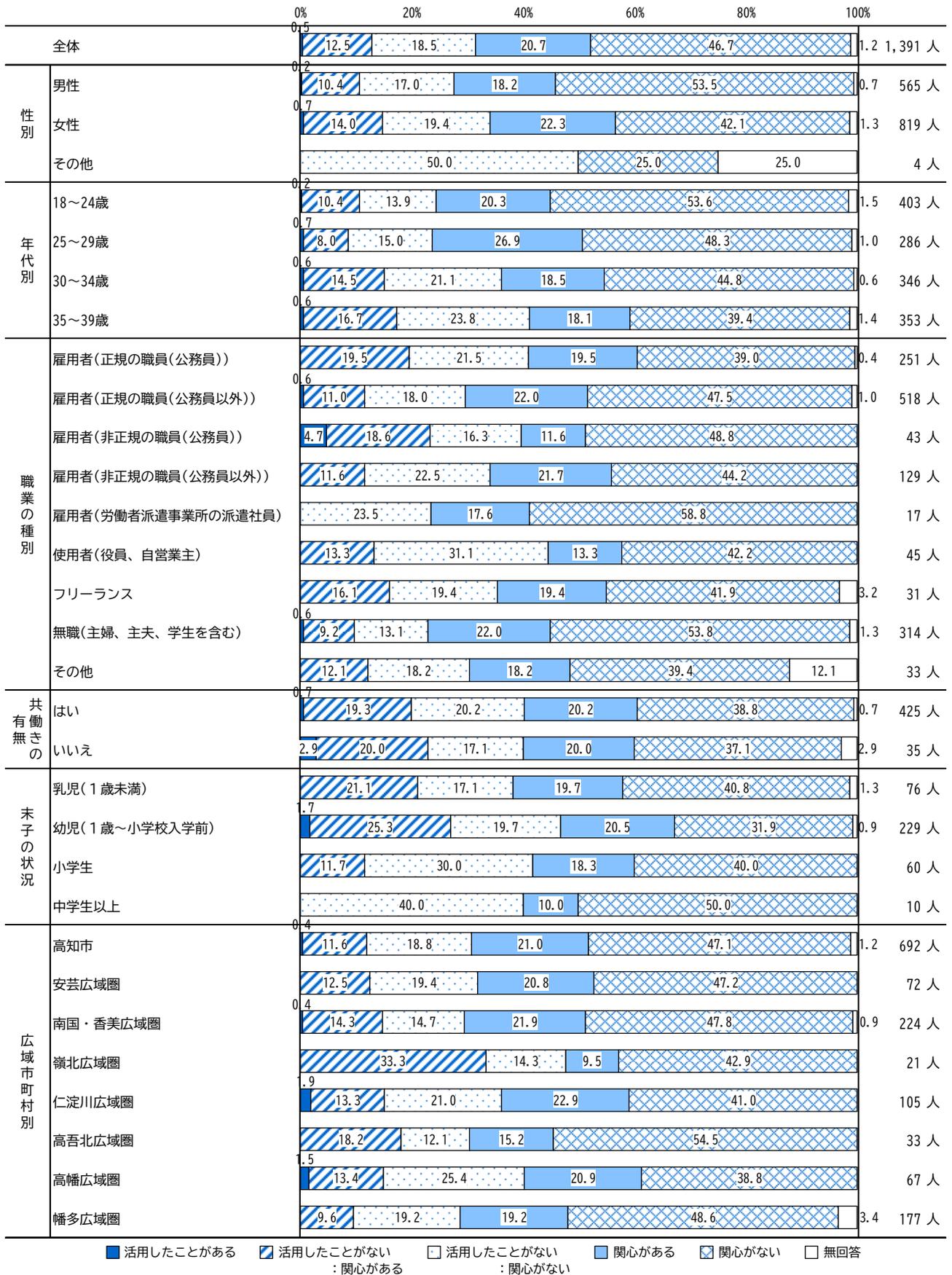
【年代別】

- いずれの年代も、【知らない】の割合が【知っている】を上回っており、特に25歳～29歳は75.2%が【知らない】という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

- いずれの地域も、【知らない】の割合が【知っている】を上回っている。
- いずれの地域も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

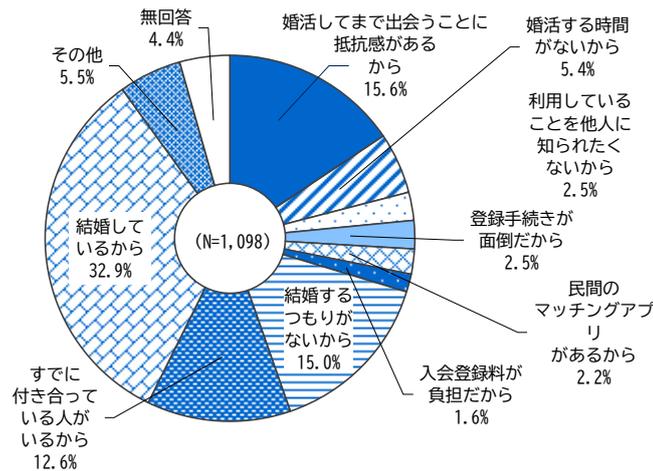


V 調査結果（解説・グラフ）

問5 問4で「2. 高知で恋しよ！！マッチング（県が運営する会員制のお引合せシステム）」について、「知っている（活用したことがない：関心がない）」または「知らない（関心がない）」と回答した方のみお答えください。関心がないとしたのは、どのような理由からですか。あなたの考えに近いものをお選びください。（1つだけ○印）

【全体】

- 「結婚しているから」が32.9%と最も高く、次いで「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」15.6%、「結婚するつもりがないから」15.0%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、「結婚しているから」が最も高くなっている。
○次いで男性は、「結婚するつもりがないから」、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」、女性は、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」、「結婚するつもりがないから」と続いている。

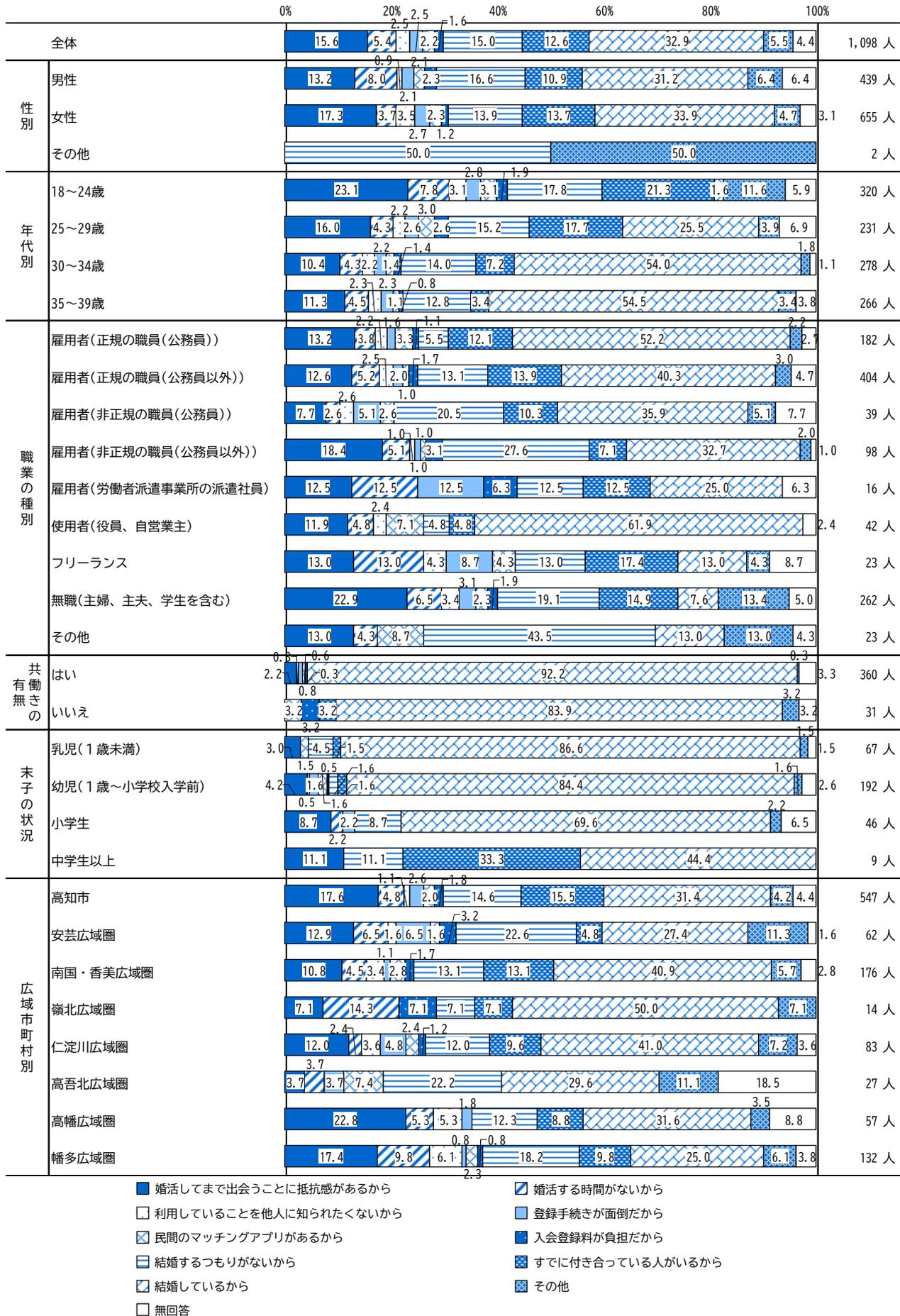
【年代別】

- 18歳～24歳は、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」が最も高く、そのほかの年代は「結婚しているから」が最も高くなっている。
○次いで18歳～24歳、25歳～29歳では「すでに付き合っている人がいるから」、30歳～34歳、35歳～39歳では「結婚するつもりがないから」が続いている。

【地域別】

- いずれの地域も、「結婚しているから」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）



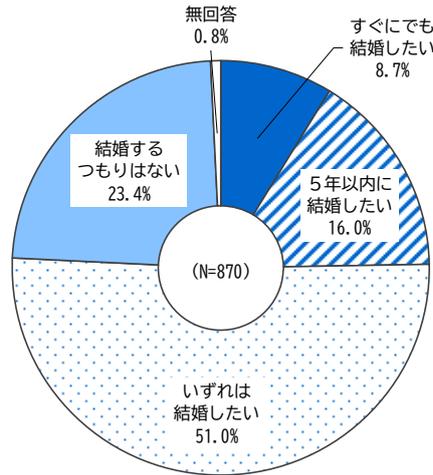
3 出会い・結婚について

問6 現在未婚の方にお伺いします。

あなたは、将来結婚したいと思いますか。（1つだけ○印）

【全体】

- 「いずれは結婚したい」が51.0%と最も高く、次いで「結婚するつもりはない」23.4%、「5年以内に結婚したい」16.0%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、「いずれは結婚したい」が最も高くなっている。
- 次いで男女ともに、「結婚するつもりはない」、「5年以内に結婚したい」と続いている。

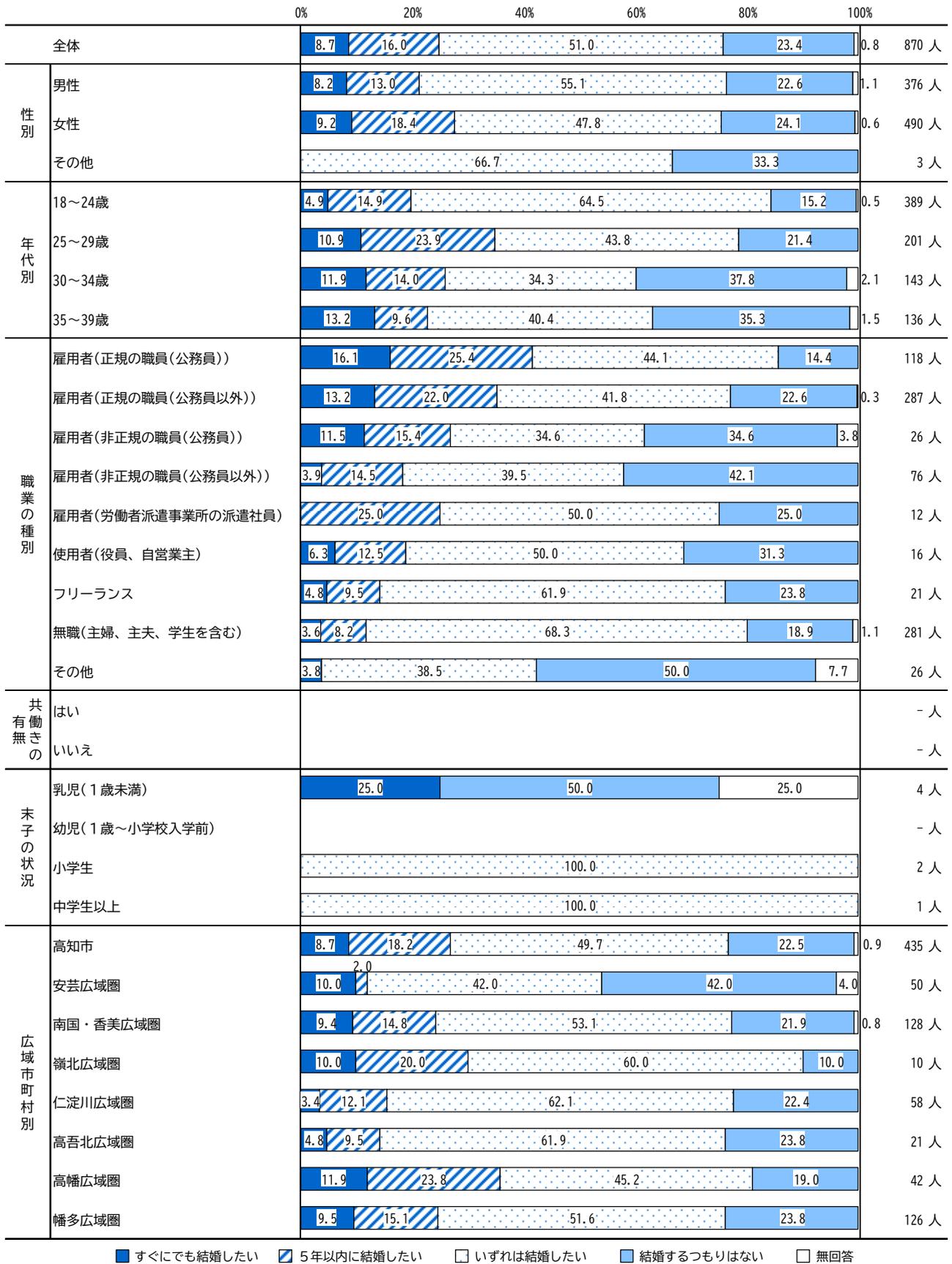
【年代別】

- 30歳～34歳は、「結婚するつもりはない」が最も高く、そのほかの年代は「いずれは結婚したい」が最も高くなっている。
- 次いで25歳～29歳は「5年以内に結婚したい」、30歳～34歳は「いずれは結婚したい」、そのほかの年齢は「結婚するつもりはない」が続いている。

【地域別】

- 安芸広域圏は、「いずれは結婚したい」、「結婚するつもりがない」が同率で最も高く、そのほかの地域は、「いずれは結婚したい」が最も高くなっている。
- 次いで安芸広域圏は、「すぐにも結婚したい」、嶺北広域圏、高幡広域圏は「5年以内に結婚したい」、そのほかの地域は「結婚するつもりはない」が続いている。

V 調査結果（解説・グラフ）

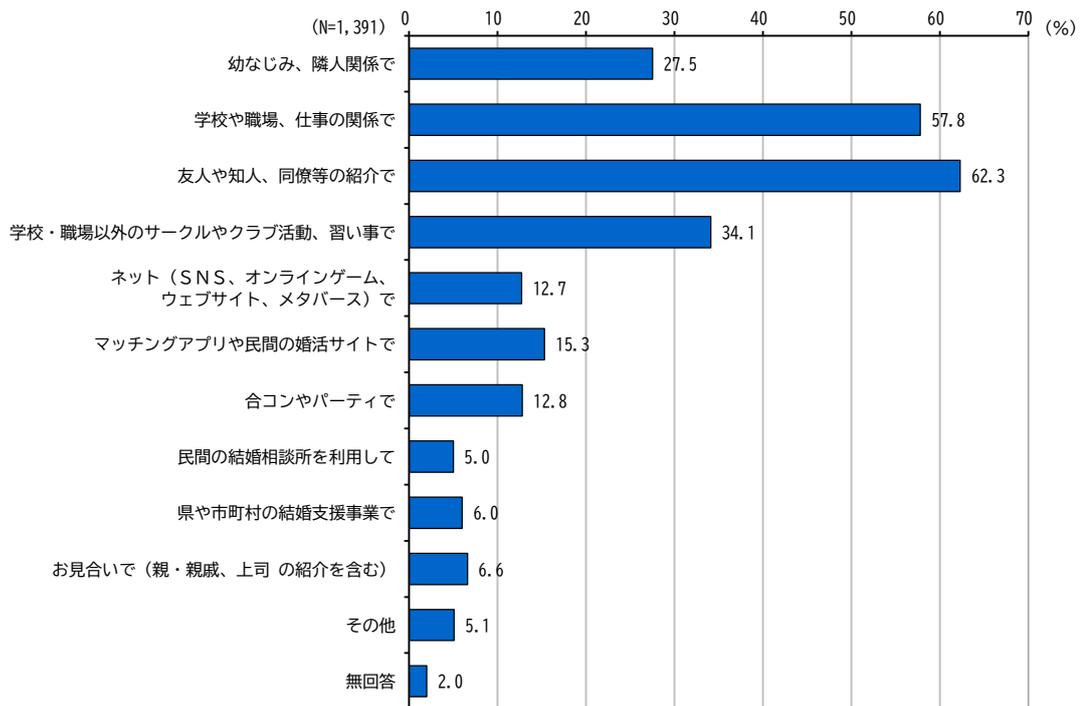


問7 全ての方にお伺いします。

結婚に向けた出会いを求める場合、どのようなきっかけで知り合いたいと思いますか。（もしくは、結婚相手とはどのようなきっかけで知り合いましたか。）あなたの考え・状況に近いものを全てお選びください。（あてはまるもの全てに○印）

【全体】

○「友人や知人、同僚等の紹介で」が62.3%と最も高く、次いで「学校や職場、仕事の関係で」57.8%、「学校・職場以外のサークルやクラブ活動、習い事で」34.1%と続いている。

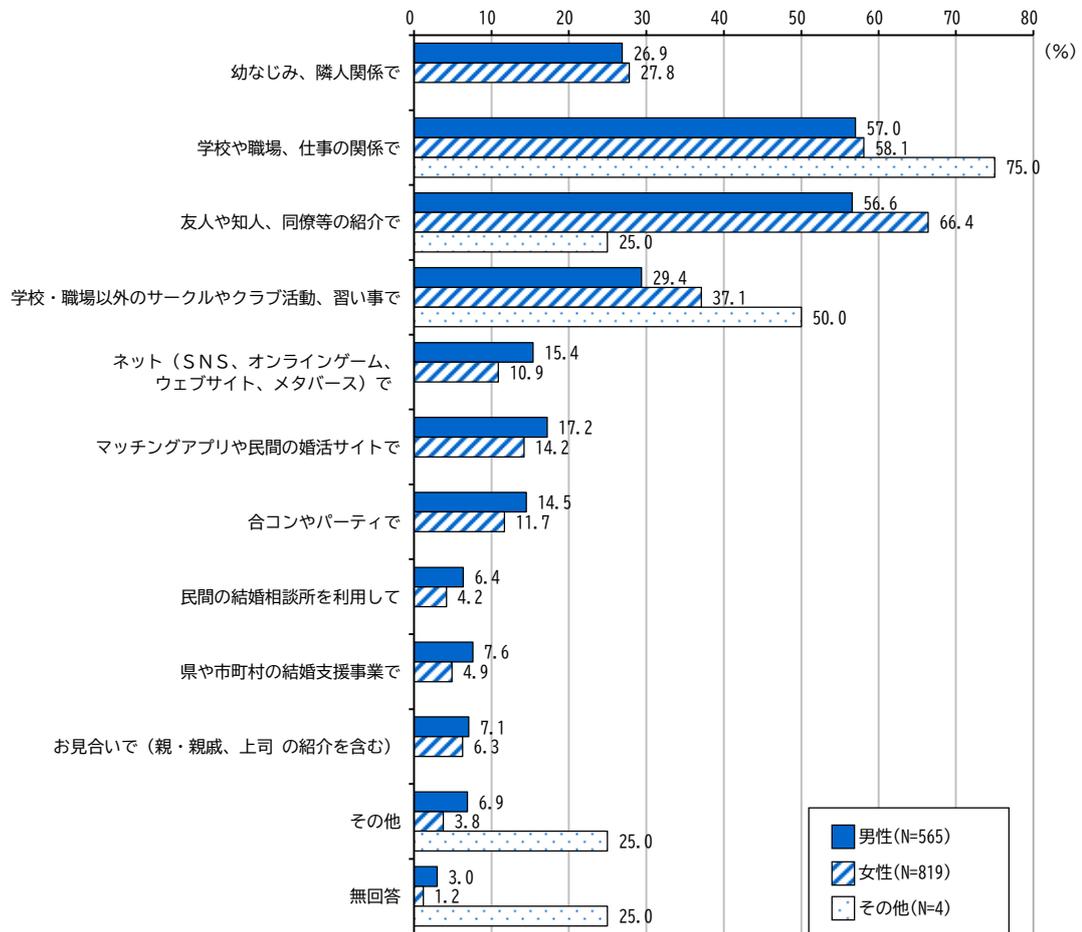


V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

○男性は、「学校や職場、仕事の関係で」57.0%、女性は、「友人や知人、同僚等の紹介で」66.4%が最も高くなっている。

○次いで男性は、「友人や知人、同僚等の紹介で」、女性は、「学校や職場、仕事の関係で」となっている。

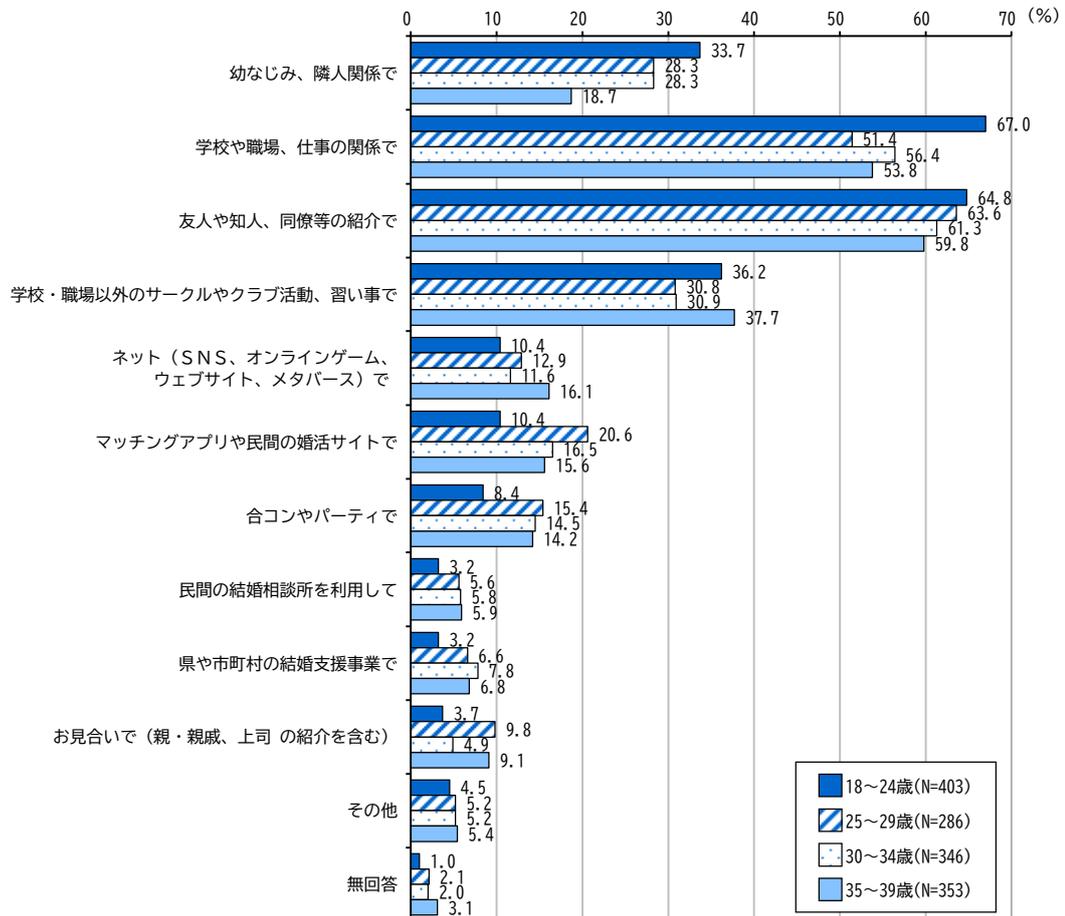


V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

○18歳～24歳は、「学校や職場、仕事の関係で」が最も高く、そのほかの年代は、「友人や知人、同僚等の紹介で」が最も高くなっている。

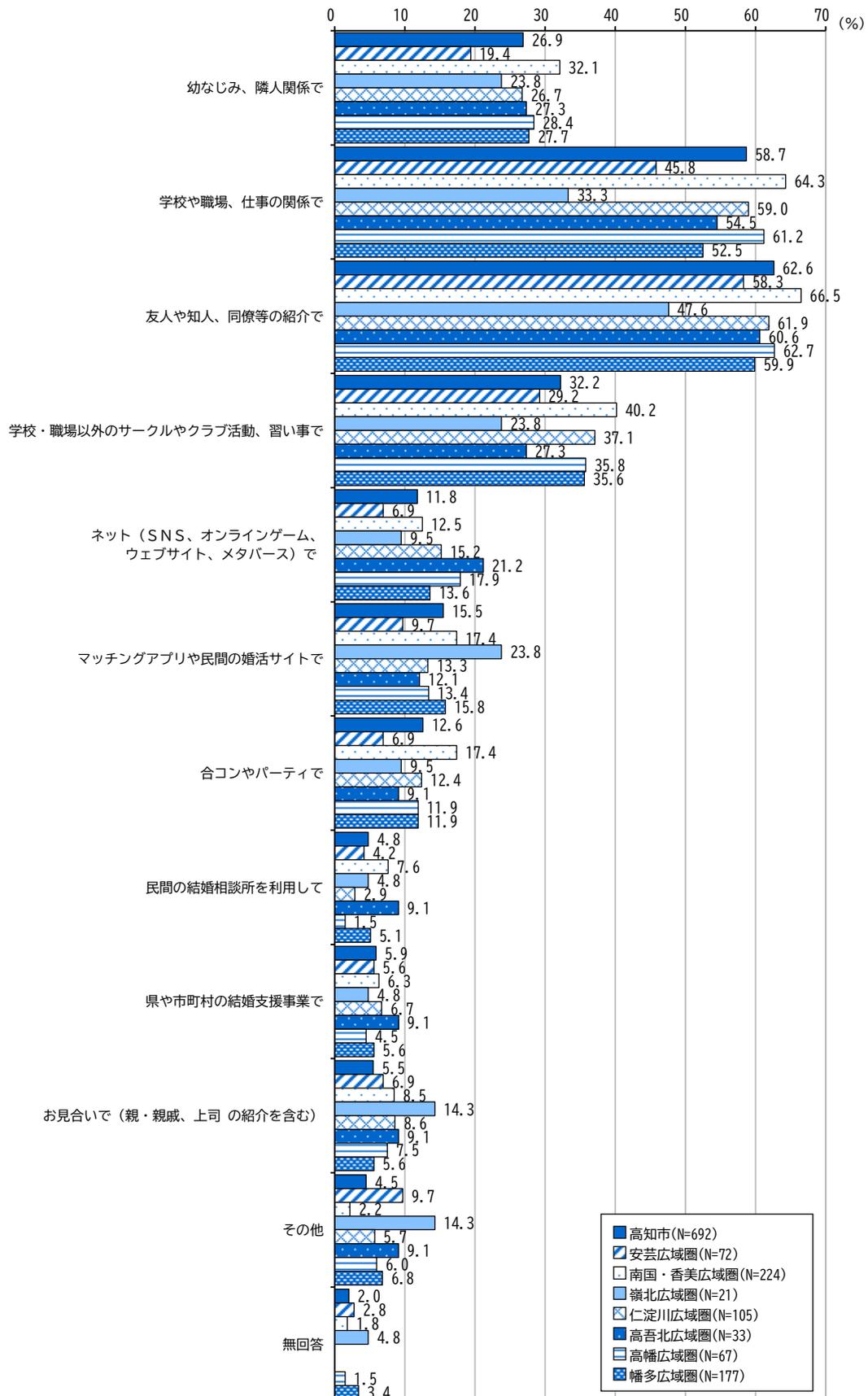
○次いで18歳～24歳は、「友人や知人、同僚等の紹介で」、そのほかの年代は、「学校や職場、仕事の関係で」となっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

○いずれの地域も、「友人や知人、同僚等の紹介で」が最も高く、次いで「学校や職場、仕事の関係で」と続いている。

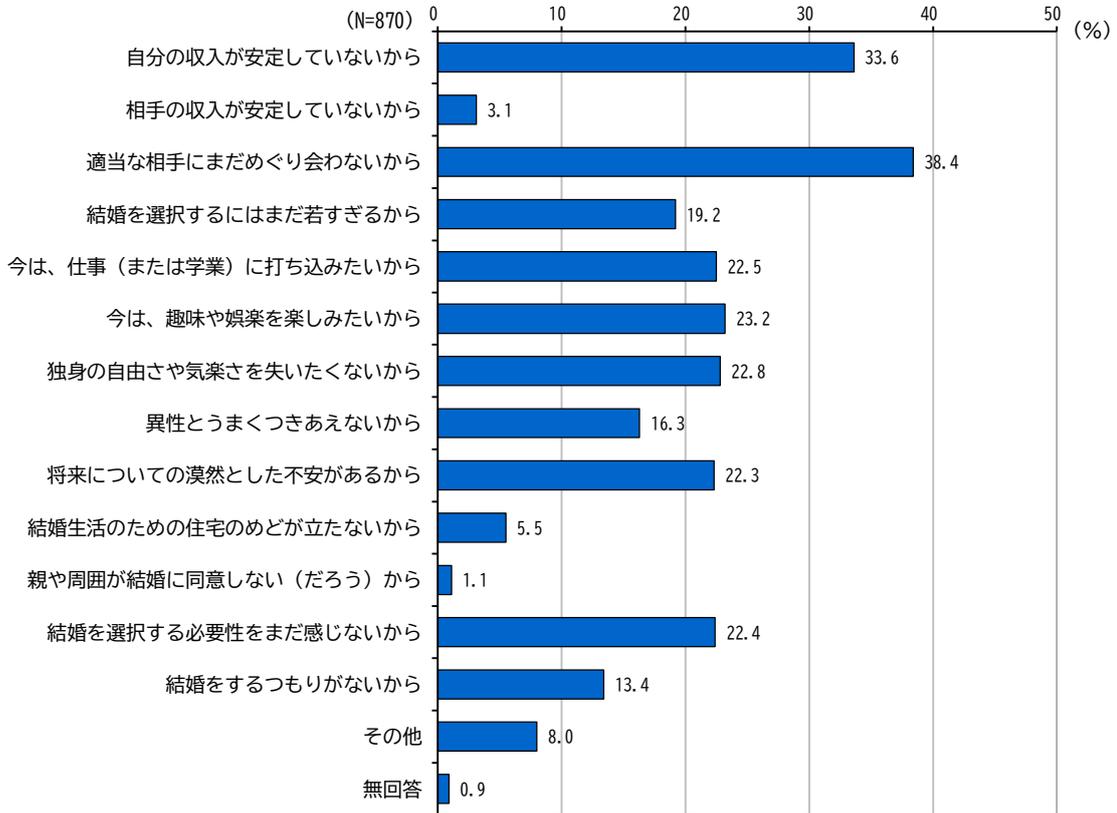


問8 現在未婚の方にお伺いします。

結婚していない理由として、あなたの考えに近いものを3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

○「適当な相手にまだめぐり合わないから」が38.4%と最も高く、次いで「自分の収入が安定していないから」33.6%、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」23.2%と続いている。

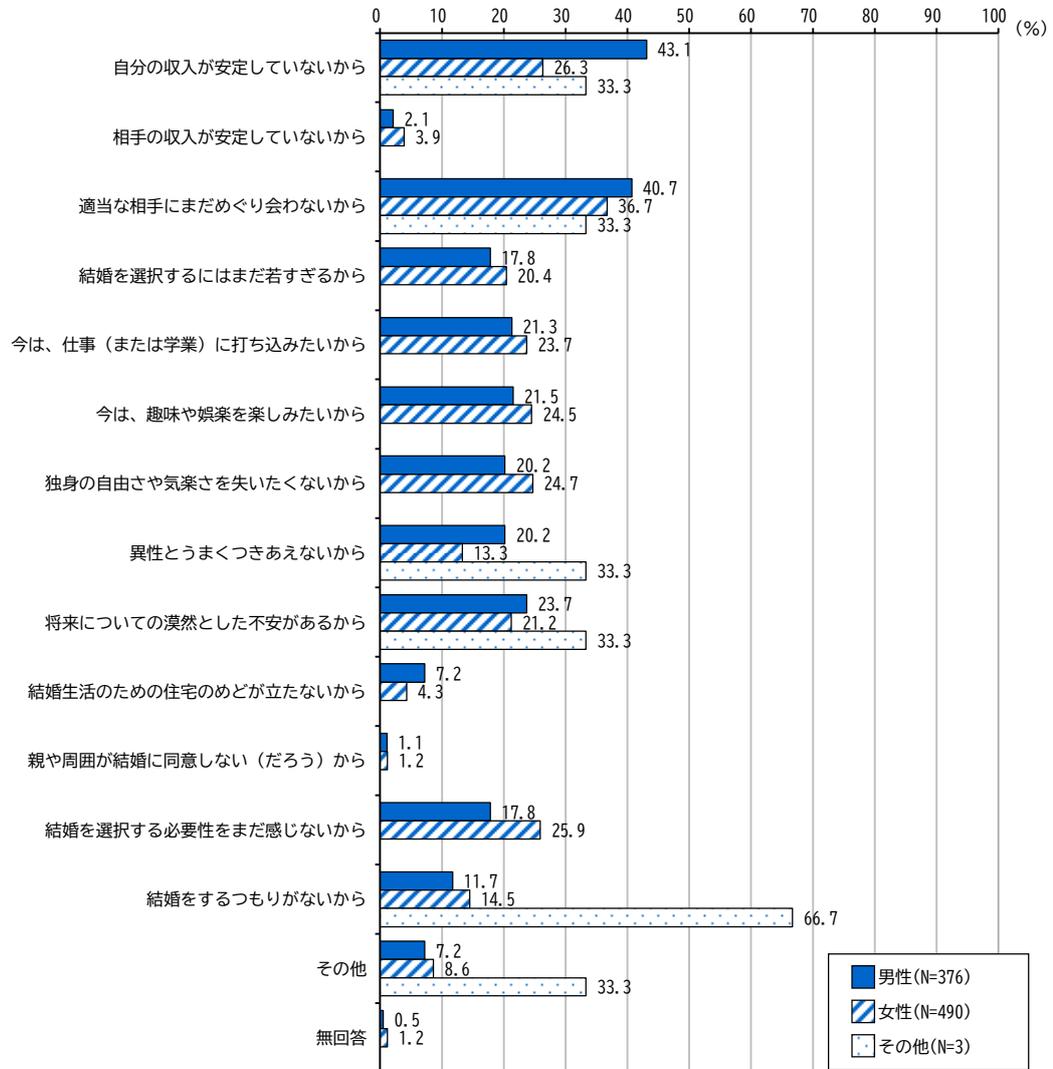


V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

○男性は、「自分の収入が安定していないから」、女性は、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高くなっている。

○次いで男性は、「適当な相手にまだめぐり会わないから」、女性は、「自分の収入が安定していないから」となっている。

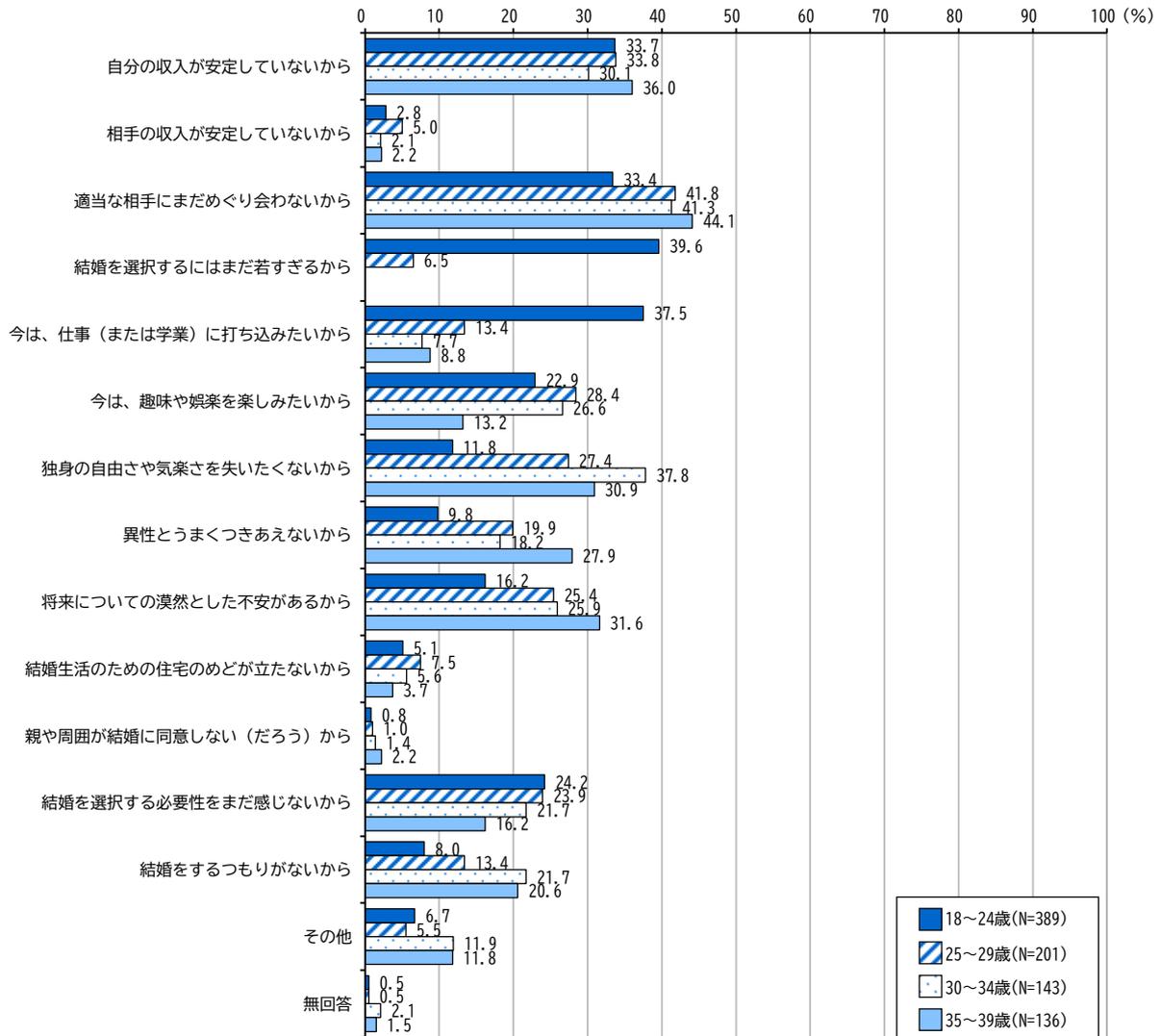


V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

○25歳～29歳、30歳～34歳及び35歳～39歳は、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高くなっている。

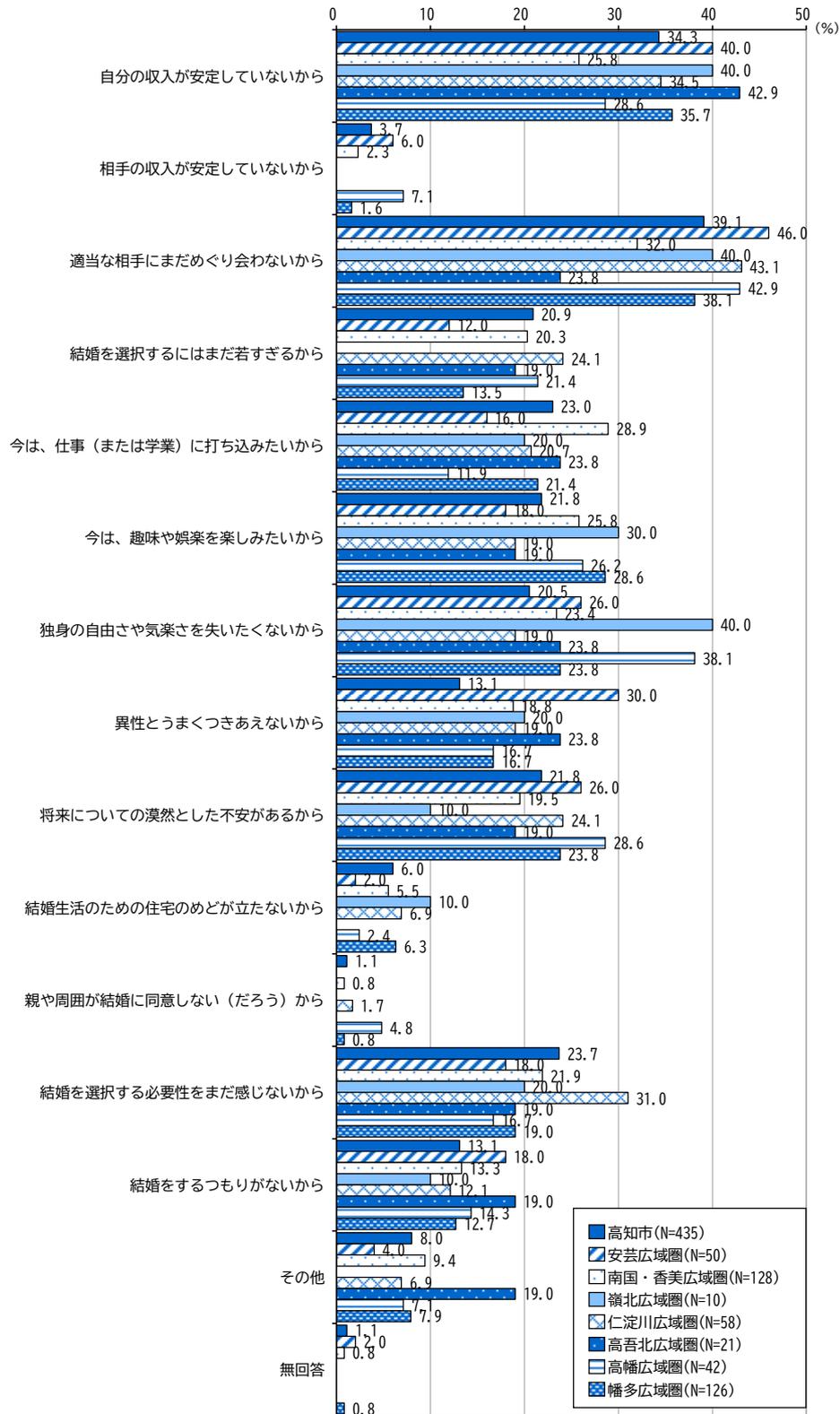
○18歳～24歳は、「結婚を選択するにはまだ若すぎるから」が最も高く、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」と続いている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

- 嶺北広域圏、高吾北広域圏を除くすべての地域で「適当な相手にまだめぐり合わないから」が最も高くなっている。
- 嶺北広域圏では「自分の収入が安定していないから」、「適当な相手にまだめぐり合わないから」、「独身の自由さや気軽さを失いたくないから」が同率で最も高く、高吾北広域圏では「自分の収入が安定していないから」が最も高くなっている。

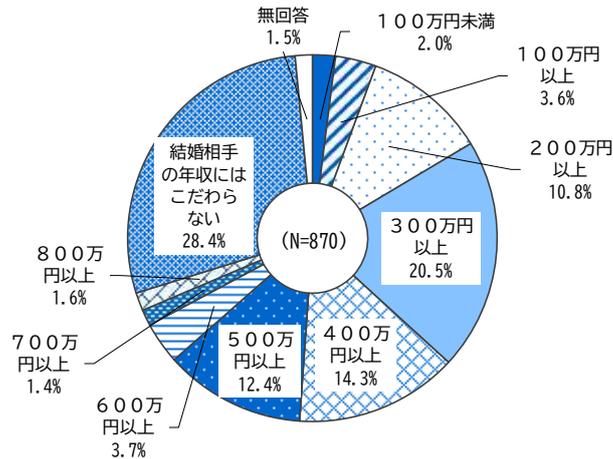


問9 現在未婚の方にお伺いします。

あなたが結婚相手に求める年収（課税前の年間総収入でボーナスを含む）の許容範囲はいくら以上ですか。（1つだけ○印）

【全体】

○「結婚相手の年収にはこだわらない」が28.4%と最も高く、次いで「300万円以上」20.5%、「400万円以上」14.3%と続いている。



【性別】

○男性は、「結婚相手の年収にはこだわらない」が最も高く、次いで「200万円以上」、「300万円以上」が同率で続いている。

○女性は、「300万円以上」が最も高く、次いで「400万円以上」となっている。

【年代別】

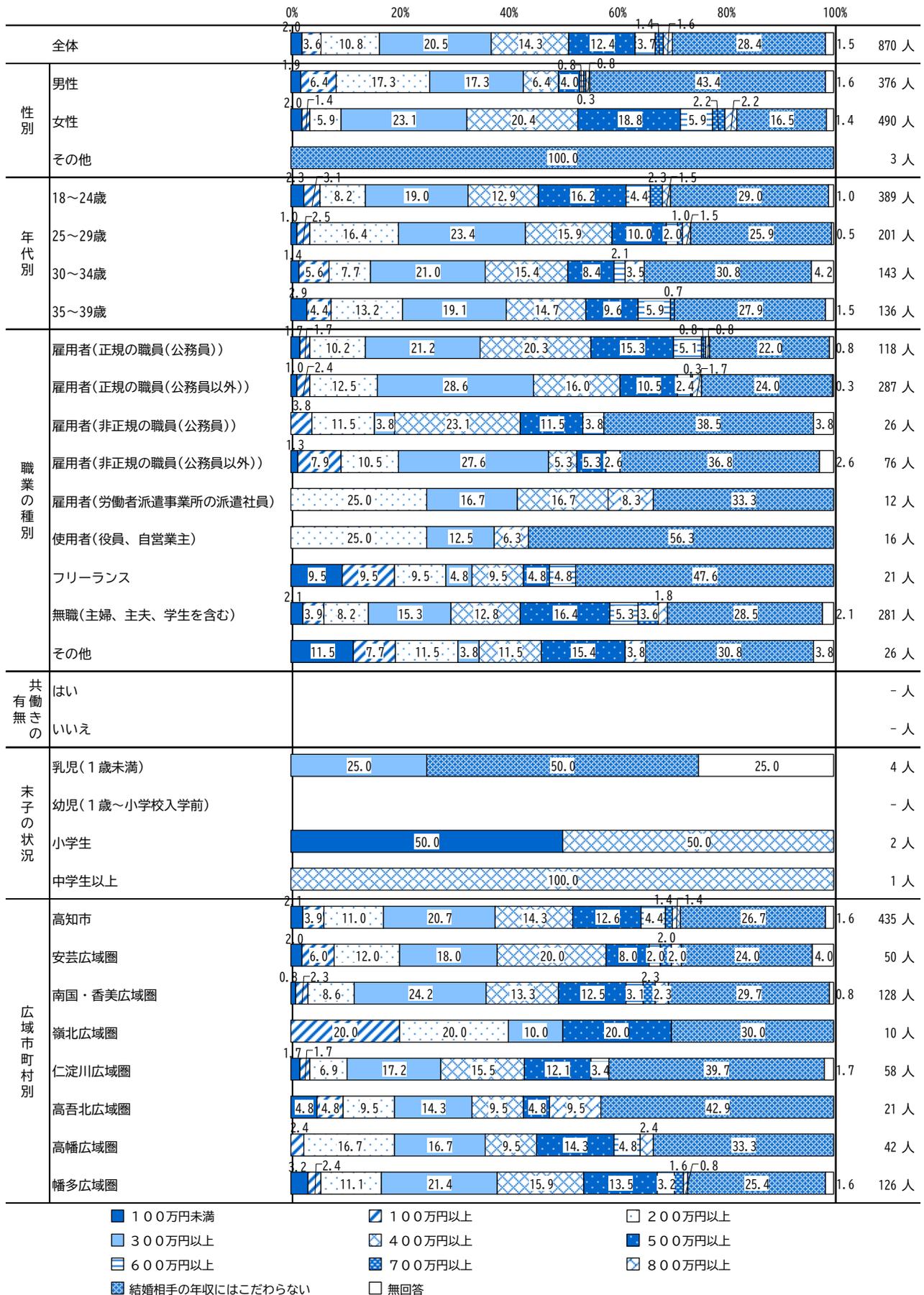
○すべての年代で、「結婚相手の年収にはこだわらない」が最も高い。

○次いで、いずれの年代も、「300万円以上」と続いている。

【地域別】

○いずれの地域も「結婚相手の年収にはこだわらない」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

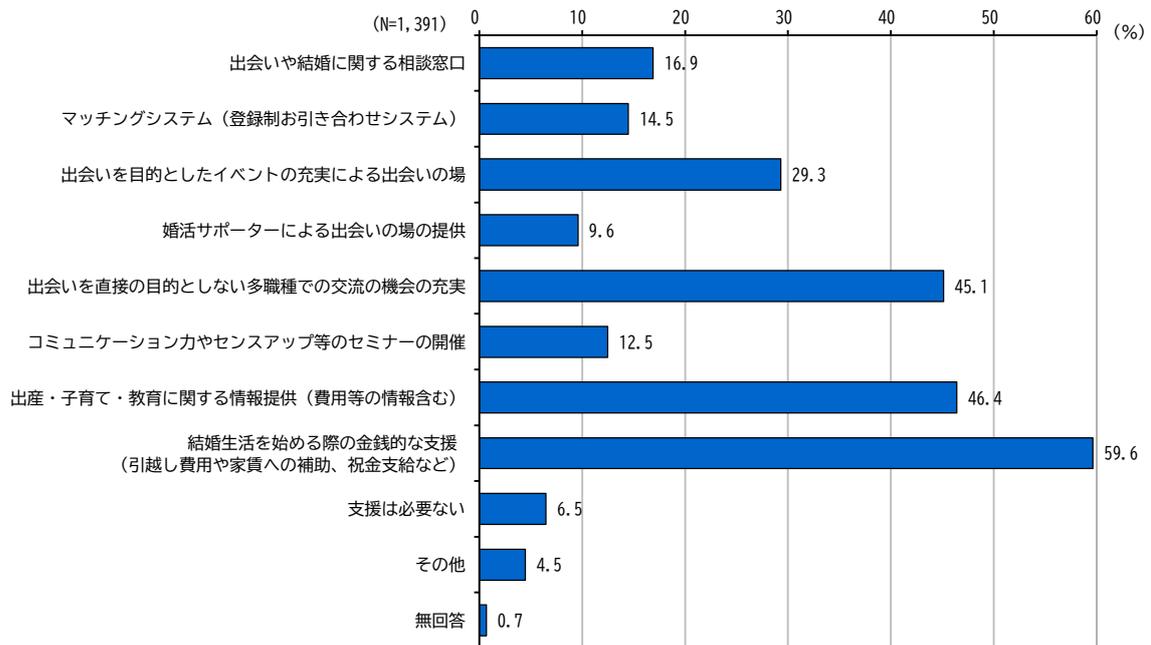


問10 全ての方にお聞きします。

出会いや結婚に関する行政の支援として、必要だと思うものは何ですか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

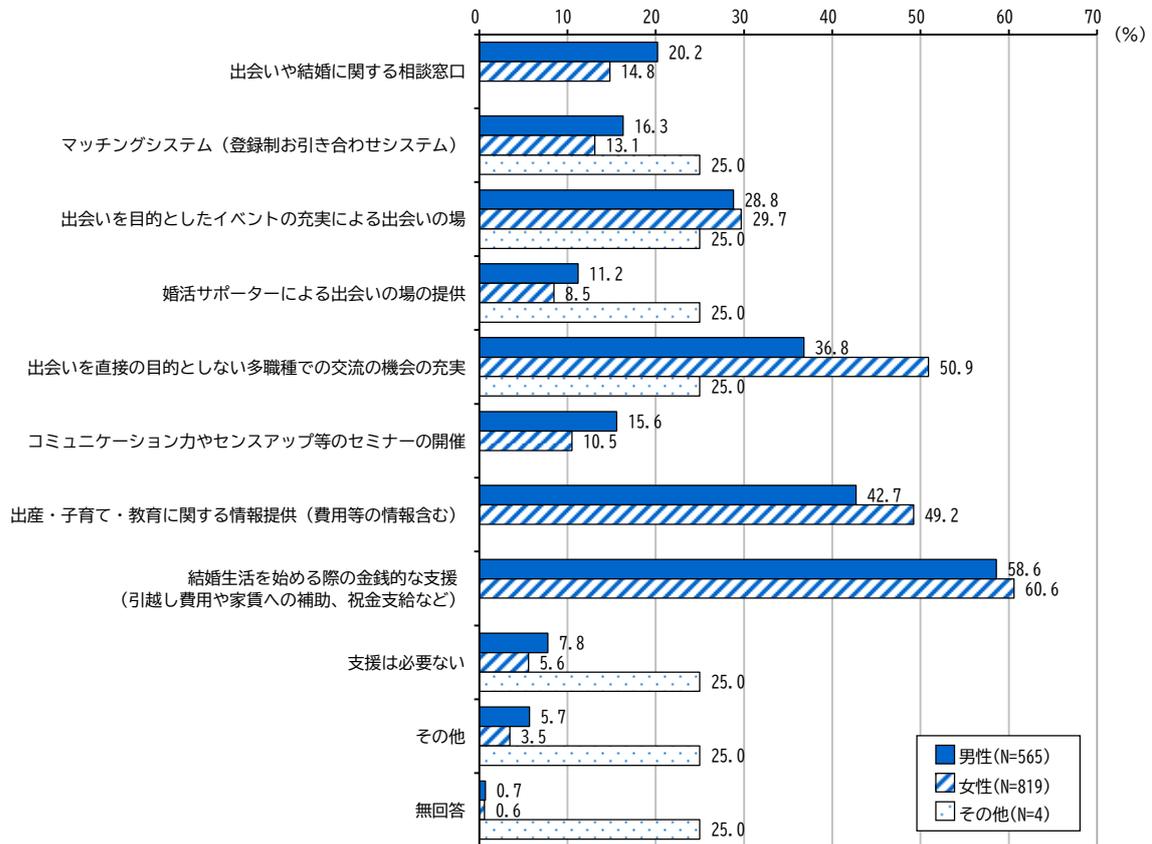
- 「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が59.6%と最も高く、次いで「出産・子育て・教育に関する情報提供（費用等の情報含む）」46.4%、「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」45.1%と続いている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

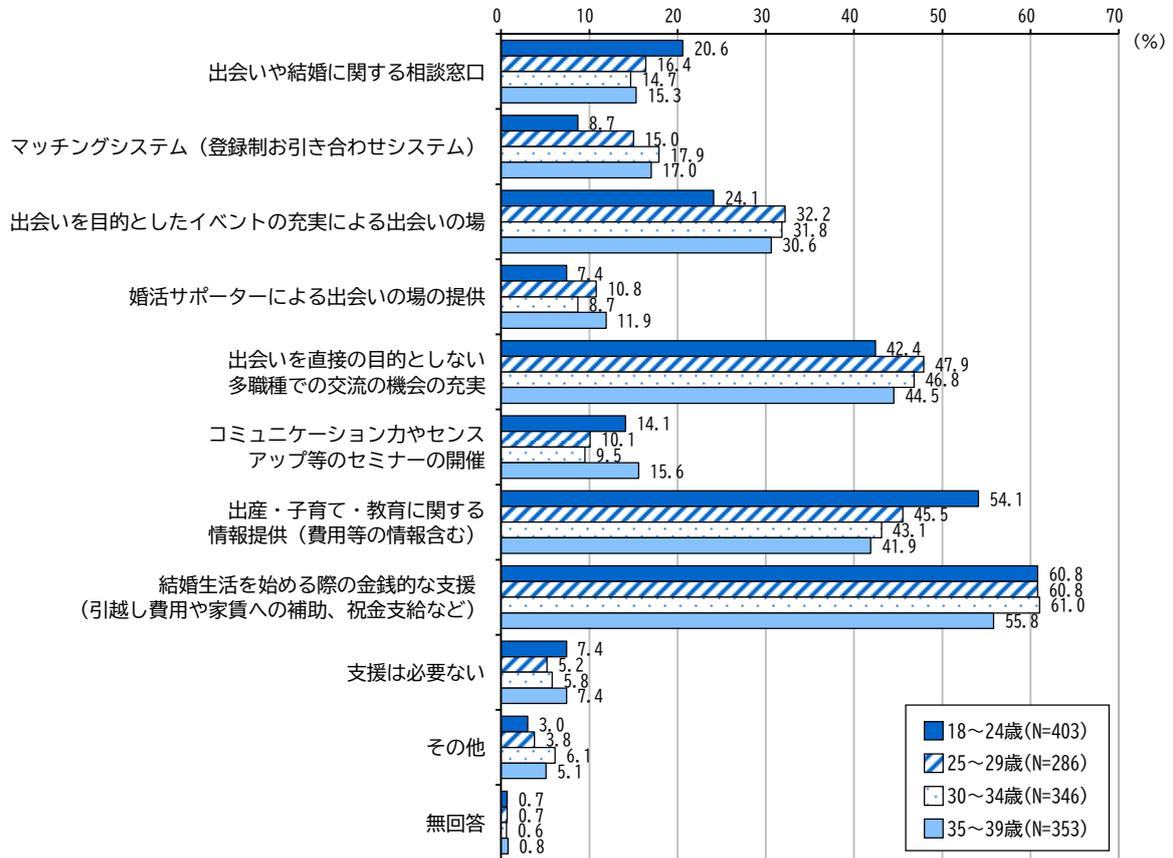
- 男女ともに、「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。
- 次いで男性は、「出産・子育て・教育に関する情報提供（費用等の情報含む）」、女性は、「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」となっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

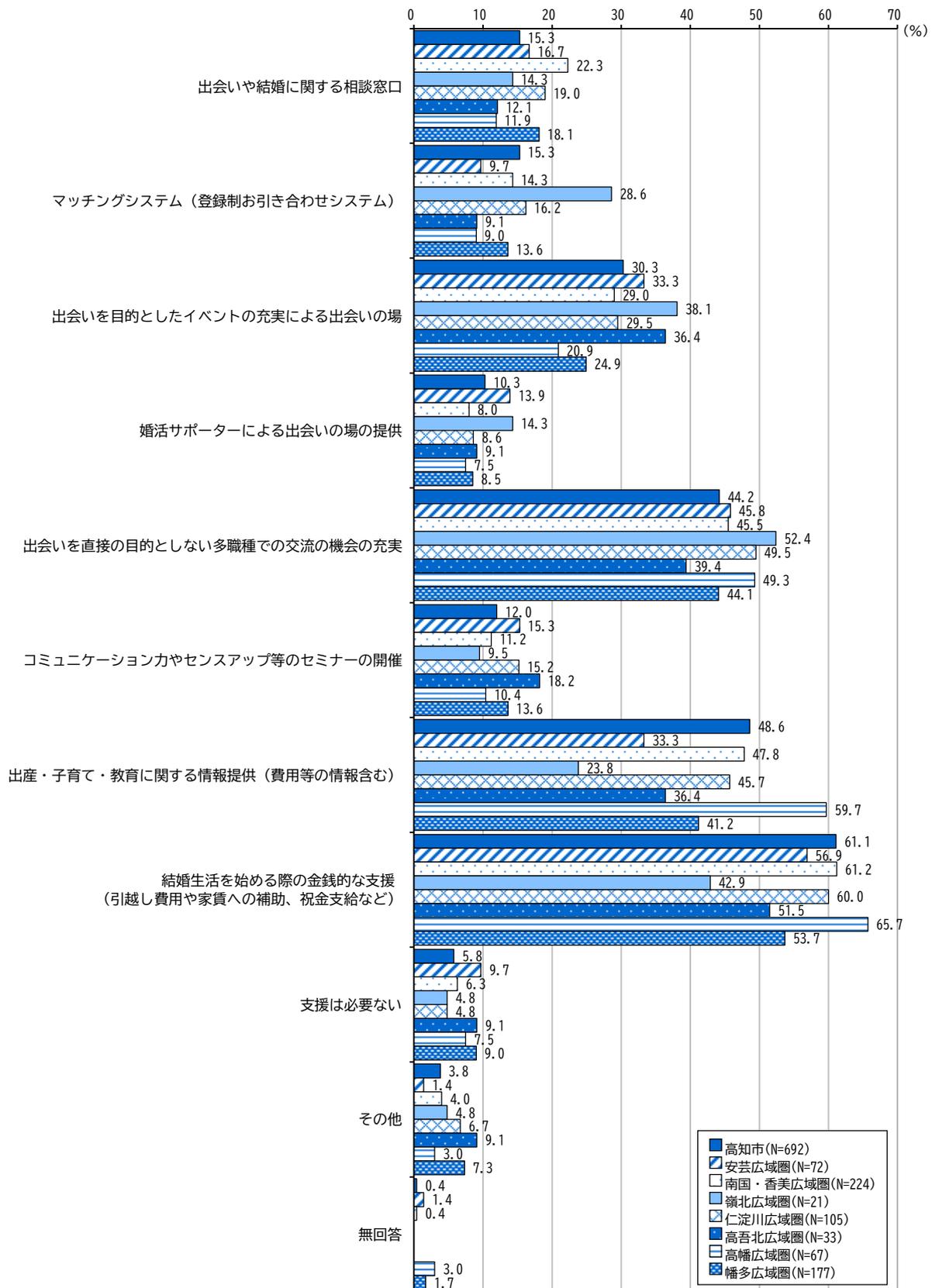
- すべての年代で「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。
- 次いで、18歳～24歳は、「出産・子育て・教育に関する情報提供（費用等の情報含む）」、そのほかの年代は「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」となっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

○嶺北広域圏では「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が最も高く、そのほかの地域では「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。



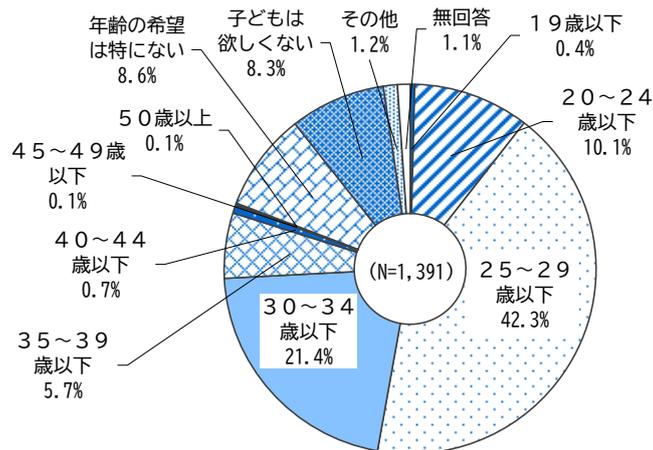
4 子育てについて

問11 あなたは、何歳までに第1子を産みたい（欲しい）と思いますか（もしくは、思っていましたか）。
（1つだけ○印）

※実際の年齢ではなく、あくまで理想とする（希望）年齢をお答えください。

【全体】

○「25～29歳以下」が42.3%と最も高く、次いで「30～34歳以下」21.4%、「20～24歳以下」10.1%と続いている。



【性別】

○男女ともに、「25～29歳以下」が最も高くなっている。

○次いで、男女ともに「30～34歳以下」となっている。

【年代別】

○すべての年代で「25～29歳以下」が最も高くなっている。

○次いで、いずれの年代も「30～34歳以下」となっている。

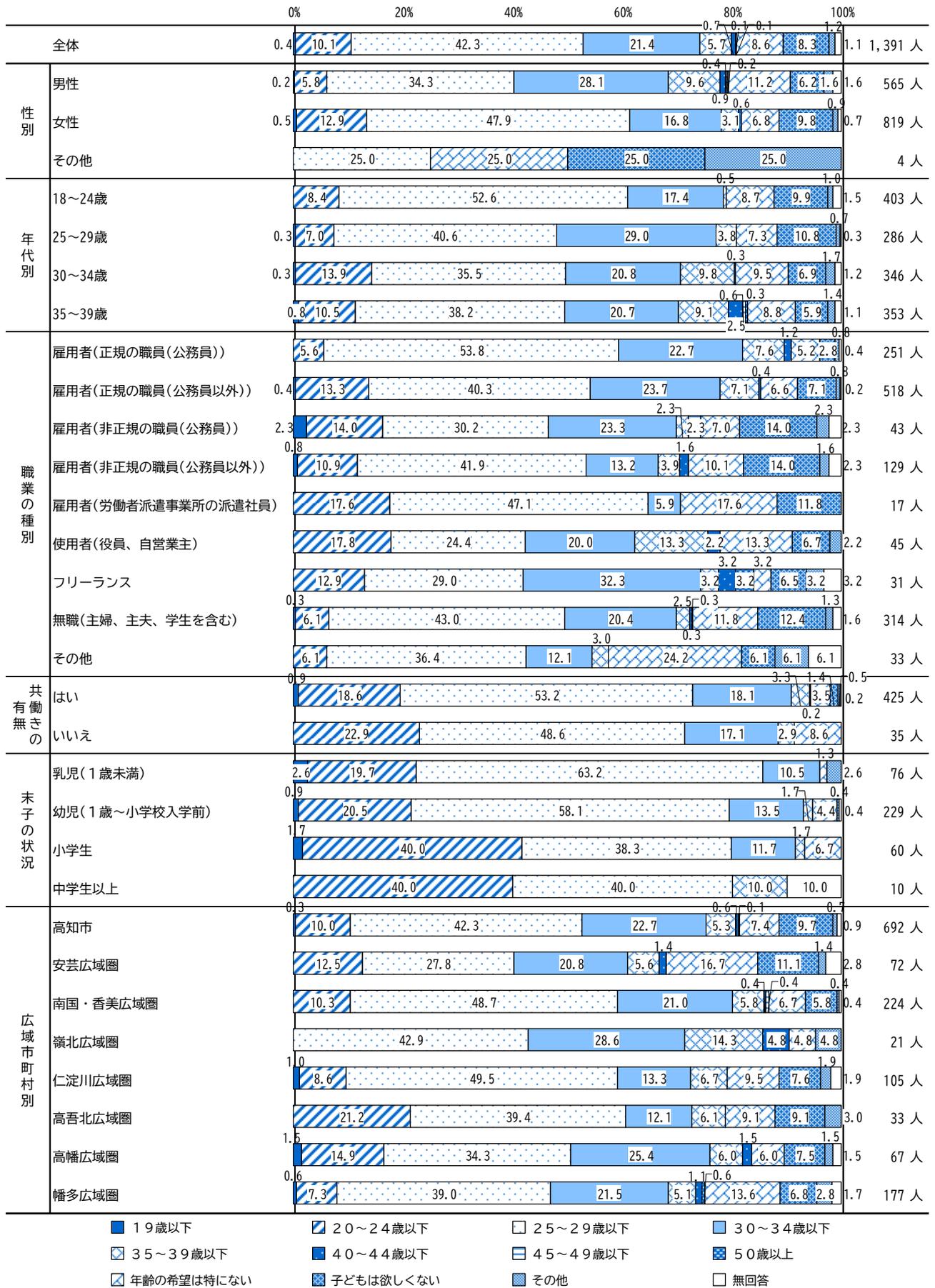
【地域別】

○いずれの地域も、「25～29歳以下」が最も高くなっている。

【参考】第1子を産みたい（欲しい）と思うまたは思っていた年齢（平均）

全体	18歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳
28.6歳	27.6歳	28.8歳	28.7歳	29.2歳

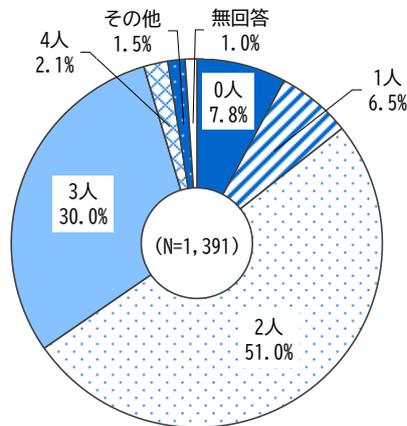
V 調査結果（解説・グラフ）



問12 あなたにとって理想的な子どもの数は何人ですか。（1つだけ○印）

【全体】

○「2人」が51.0%と最も高く、次いで「3人」30.0%、「0人」7.8%と続いている。



【性別】

- 男女ともに「2人」が最も高くなっている。
- 次いで、男女ともに「3人」となっている。

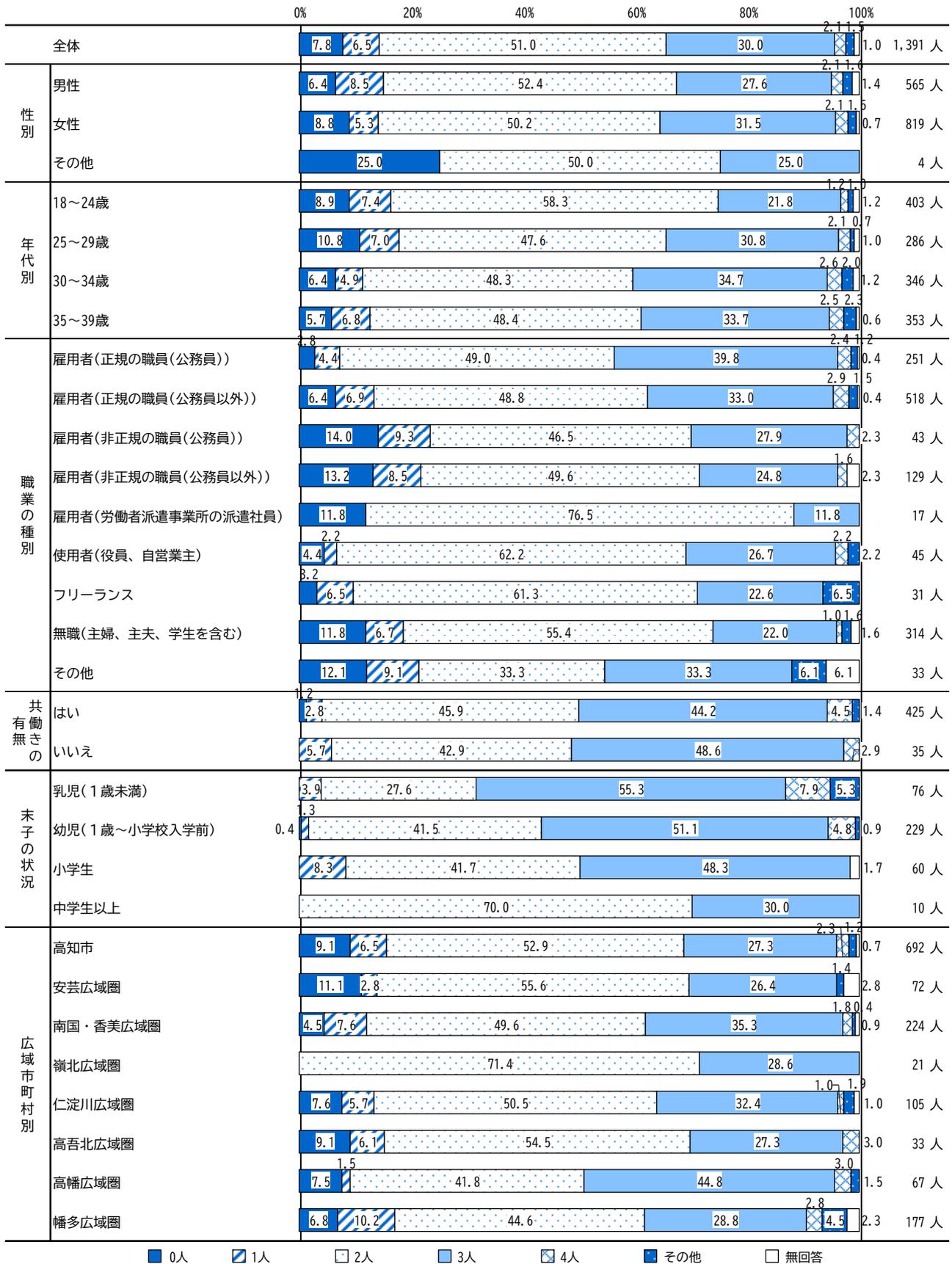
【年代別】

- すべての年代で「2人」が最も高くなっている。
- 次いで、いずれの年代も「3人」となっている。

【地域別】

- 高幡広域圏を除くすべての地域で、「2人」が最も高くなっている。
- 高幡広域圏では、「3人」が最も高くなっている。

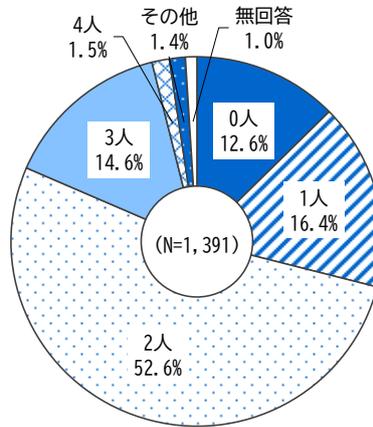
V 調査結果（解説・グラフ）



問13 あなたが、現実的に持ちたいと考えている子どもの人数は何人ですか。（現在の人数と今後持つつもりの人数の合計）（1つだけ○印）

【全体】

○「2人」が52.6%と最も高く、次いで「1人」16.4%、「3人」14.6%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、「2人」が最も高くなっている。
- 次いで、男女とも「1人」と続いている。

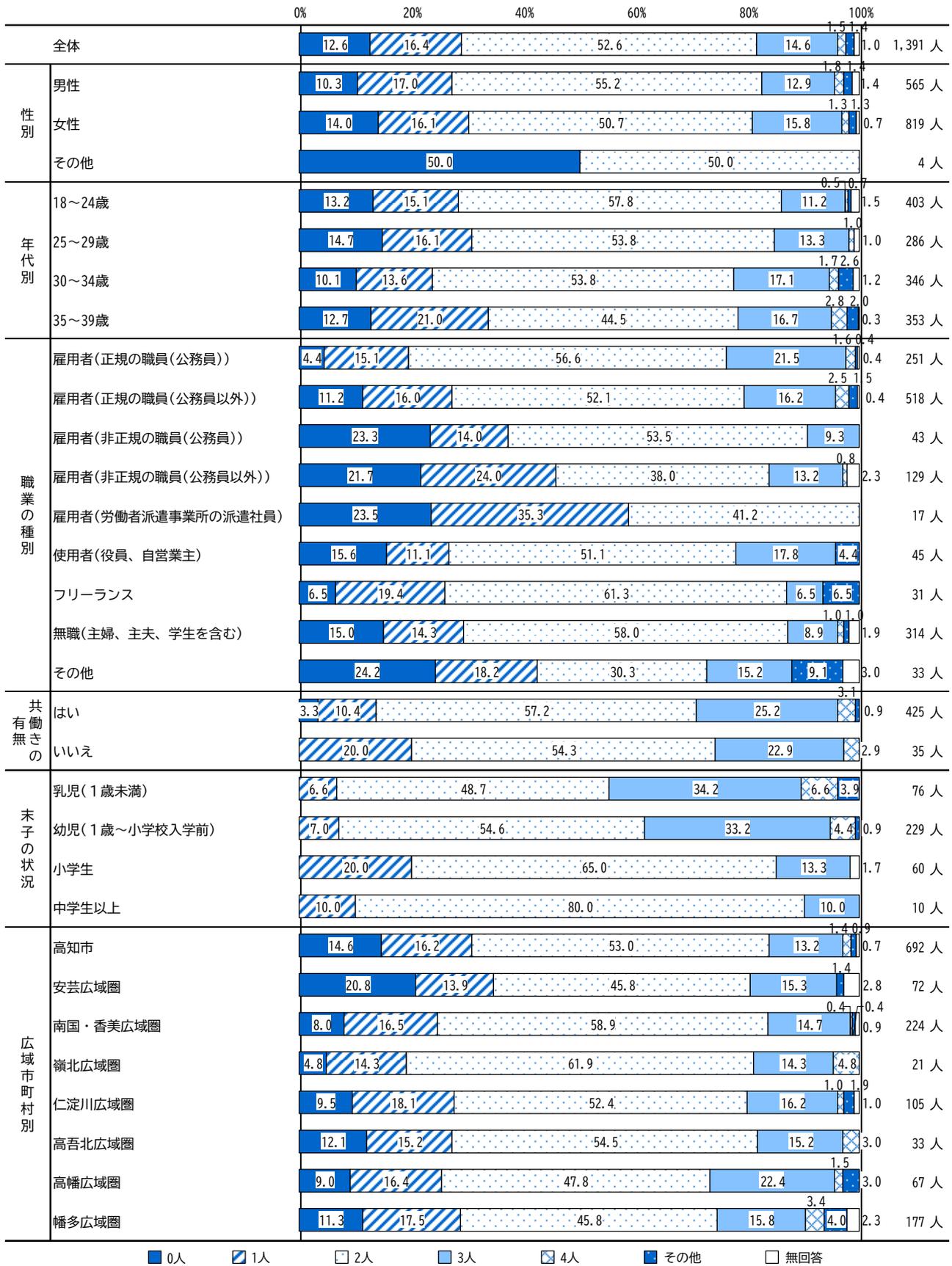
【年代別】

- すべての年代で「2人」が最も高くなっている。
- 次いで、30歳～34歳は「3人」、そのほかの年代は「1人」と続いている。

【地域別】

- すべての地域で、「2人」が最も高くなっている。
- 次いで、高知市、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏及び幡多広域圏では「1人」が続いている。

V 調査結果（解説・グラフ）

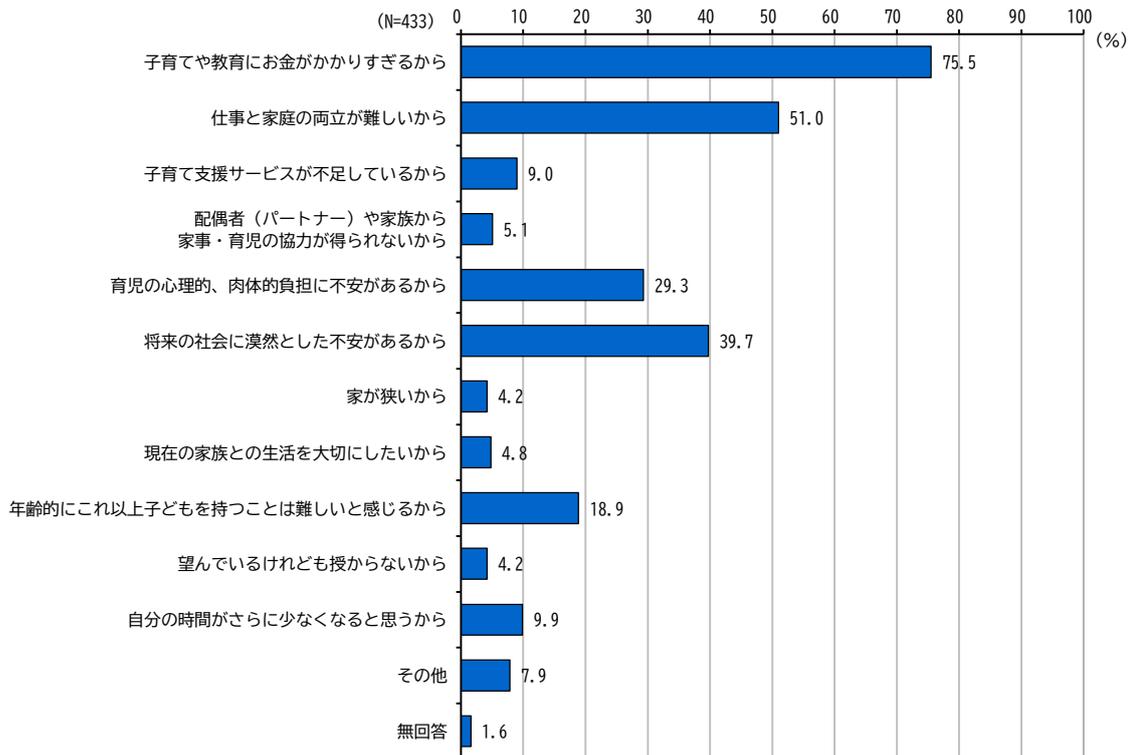


V 調査結果（解説・グラフ）

問 14 問 13 の人数が問 12 の人数より少ない方のみお答えください。理想的な人数の子どもを持たない理由について、あなたの考えに近いものを 3 つお選びください。（○印は 3 つまで）

【全体】

○「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 75.5%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立が難しいから」51.0%、「将来の社会に漠然とした不安があるから」39.7%と続いている。

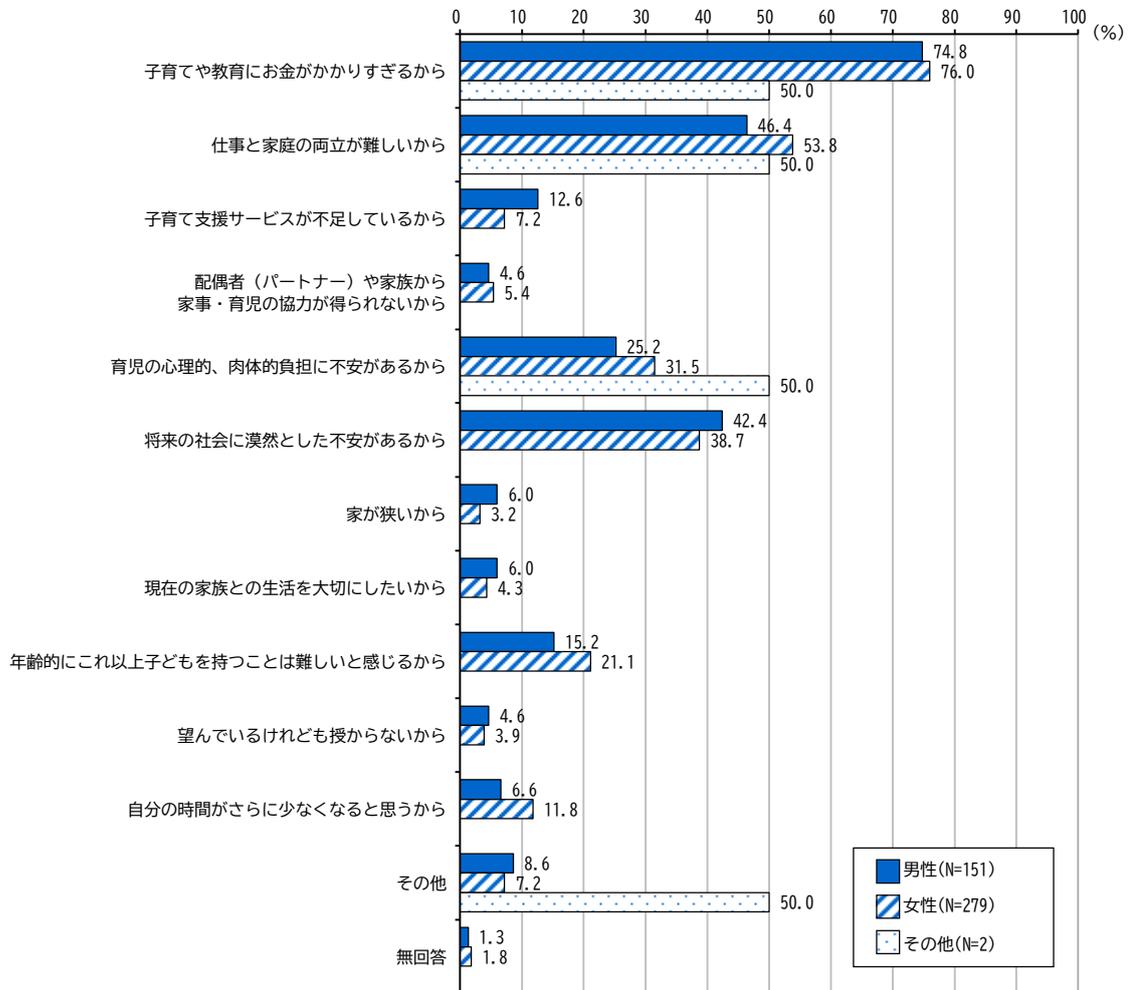


V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

○男女ともに、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。

○次いで、男女とも「仕事と家庭の両立がむずかしいから」と続いている。

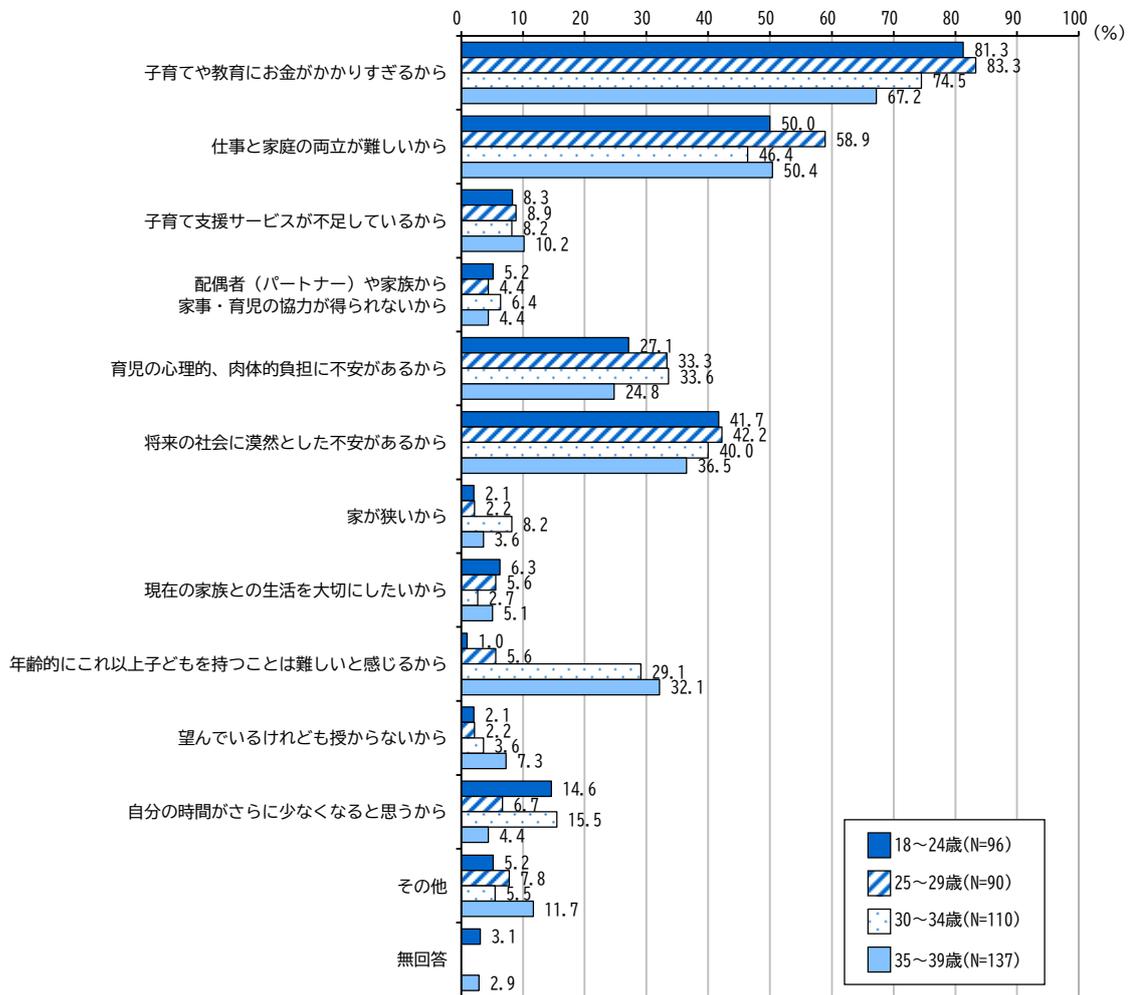


V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

○すべての年代で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。

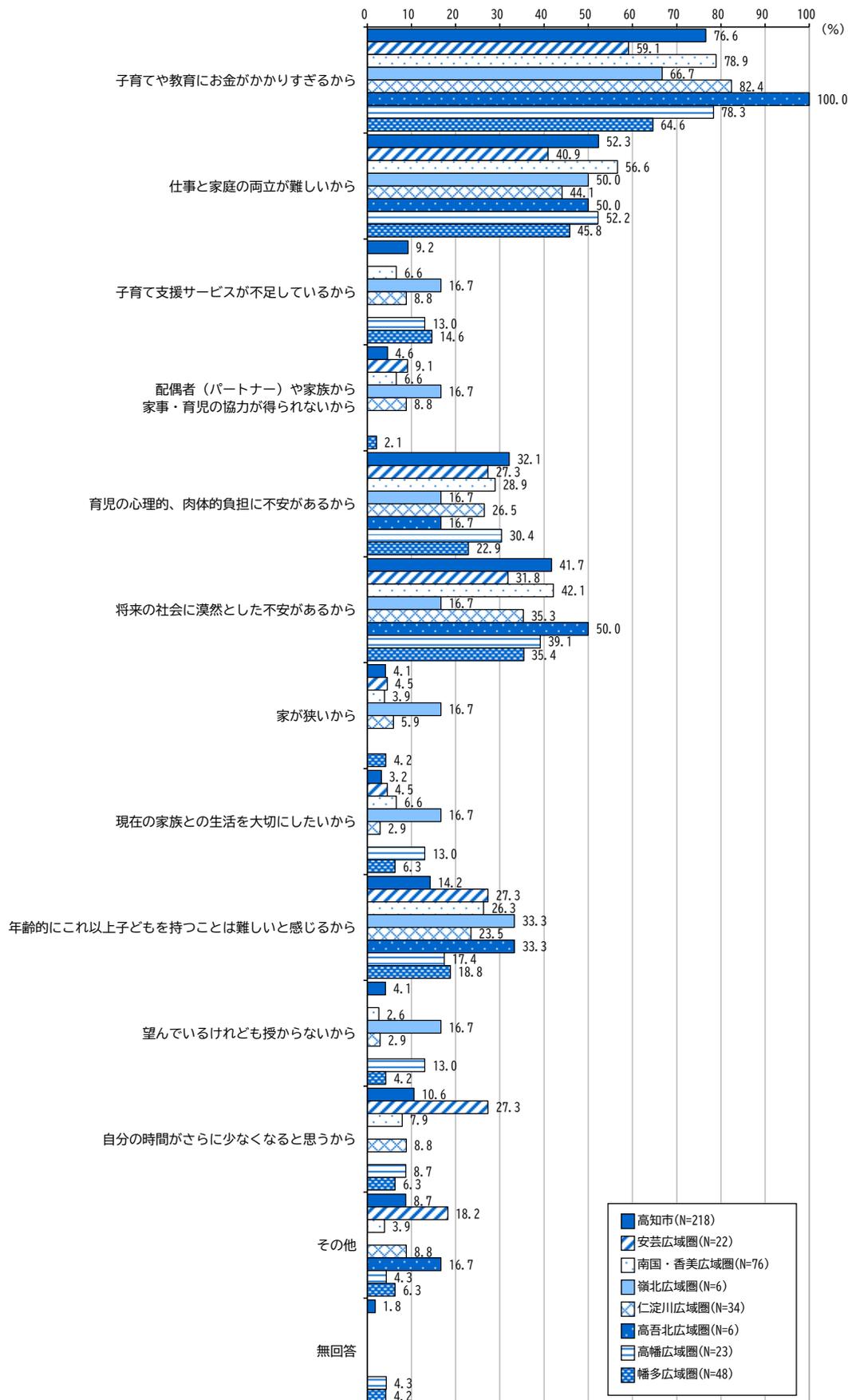
○次いで、いずれの年代も「仕事と家庭の両立が難しいから」が高くなっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

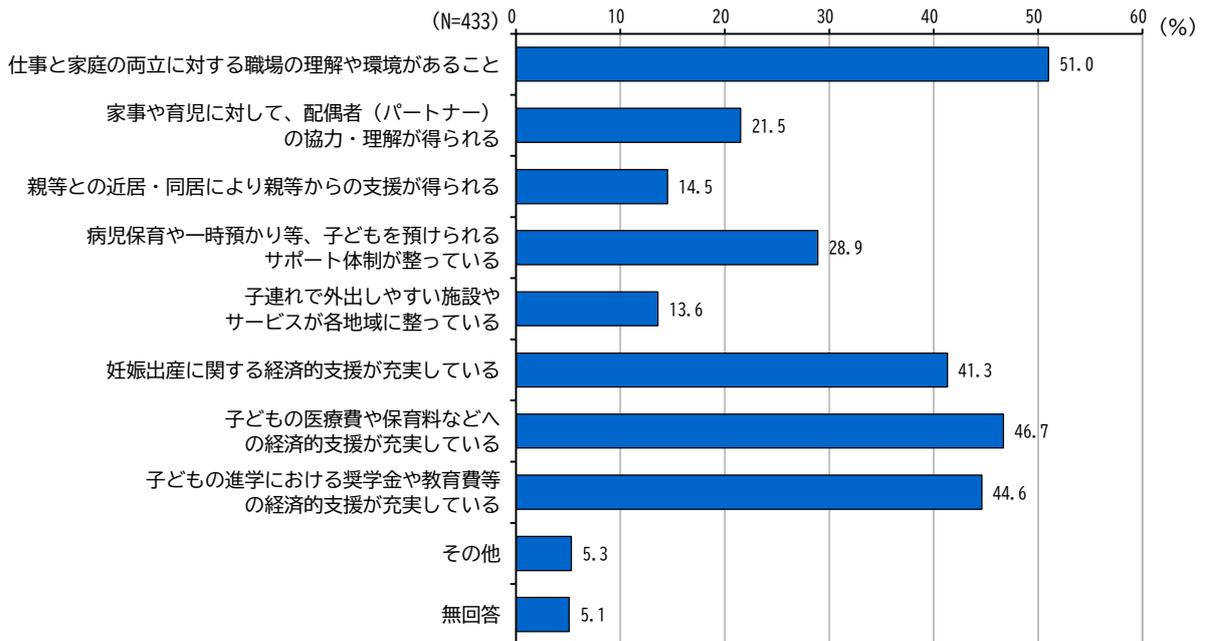
○すべての地域で、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。



問15 問13の人数が問12の人数より少ない方のみお答えください。どのような環境があれば理想の数だけ子どもを持つことが可能になると思いますか。あなたの考えに近いものを3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

○「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」が51.0%と最も高く、次いで「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」46.7%、「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」44.6%と続いている。

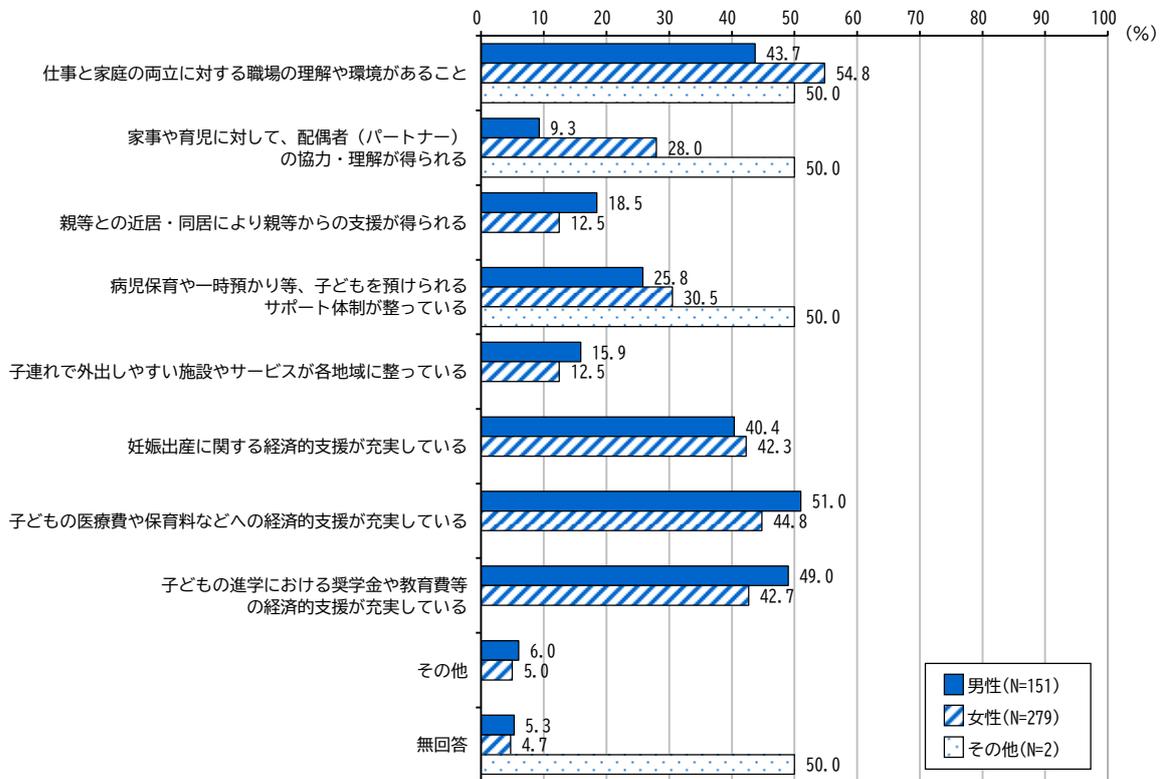


V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

○男性は「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が最も高く、女性は「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」が最も高くなっている。

○次いで、男性は「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」、女性は「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」となっている。

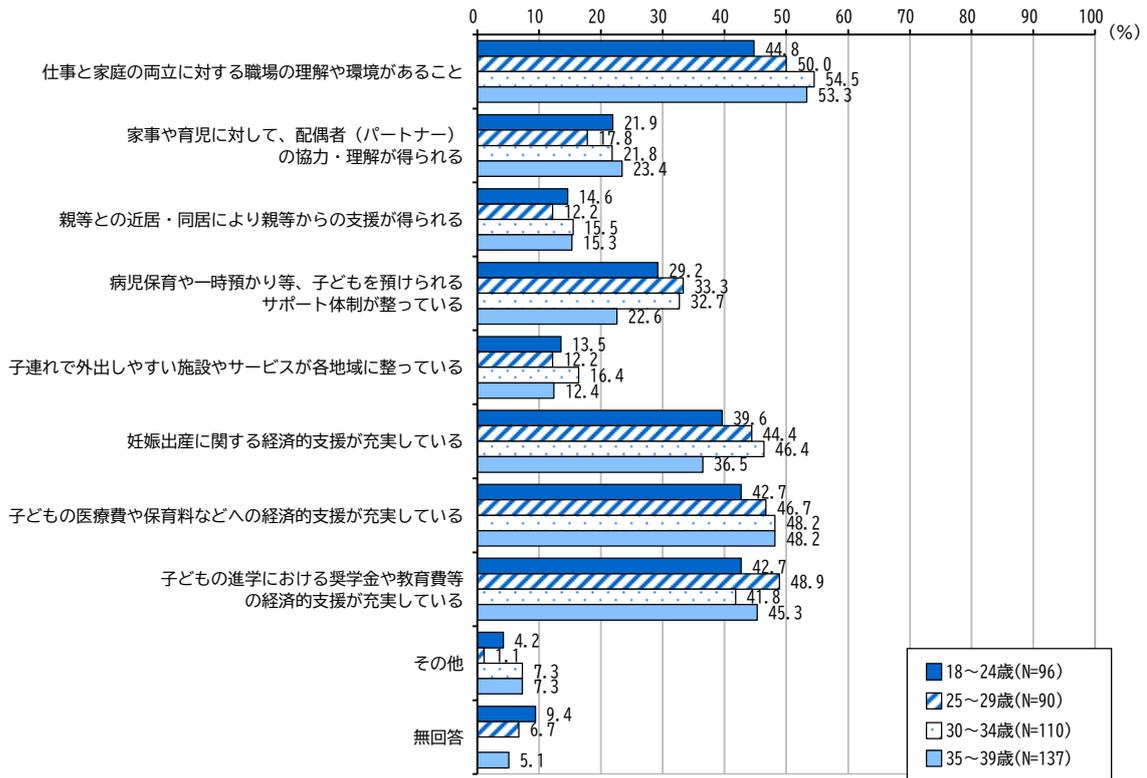


V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

○いずれの年代も、「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」が最も高くなっている。

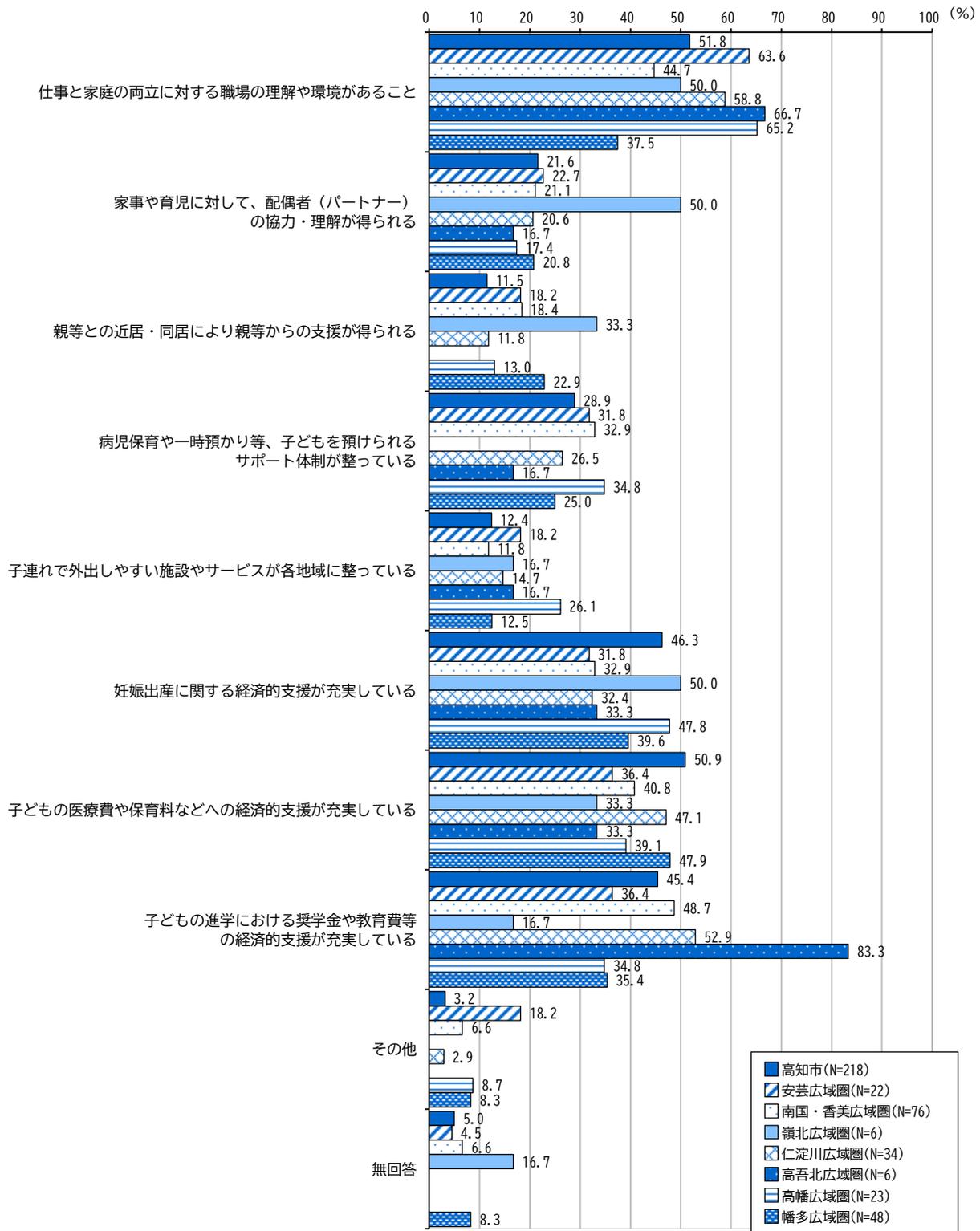
○次いで、18歳～24歳は、「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」、「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が同率で、25歳～29歳は「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」、そのほかの年代は、「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」となっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

○高知市、安芸広域圏、仁淀川広域圏及び高幡広域圏では「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」が最も高くなっている。

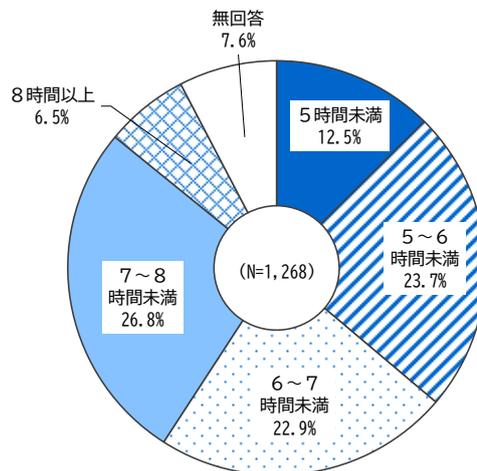


V 調査結果（解説・グラフ）

問 16 問 12 で「1人以上」と回答した方のみお答えください。理想的な人数の子どもを持つためには、自身の労働時間は何時間がよいと思いますか。（1つだけ○印）

【全体】

- 「7～8時間未満」が26.8%と最も高く、次いで「5～6時間未満」23.7%、「6～7時間未満」22.9%と続いている。



【性別】

- 男性は「7～8時間未満」が最も高く、女性は「5～6時間未満」が最も高くなっている。
○次いで、男女ともに「6～7時間未満」が高くなっている。

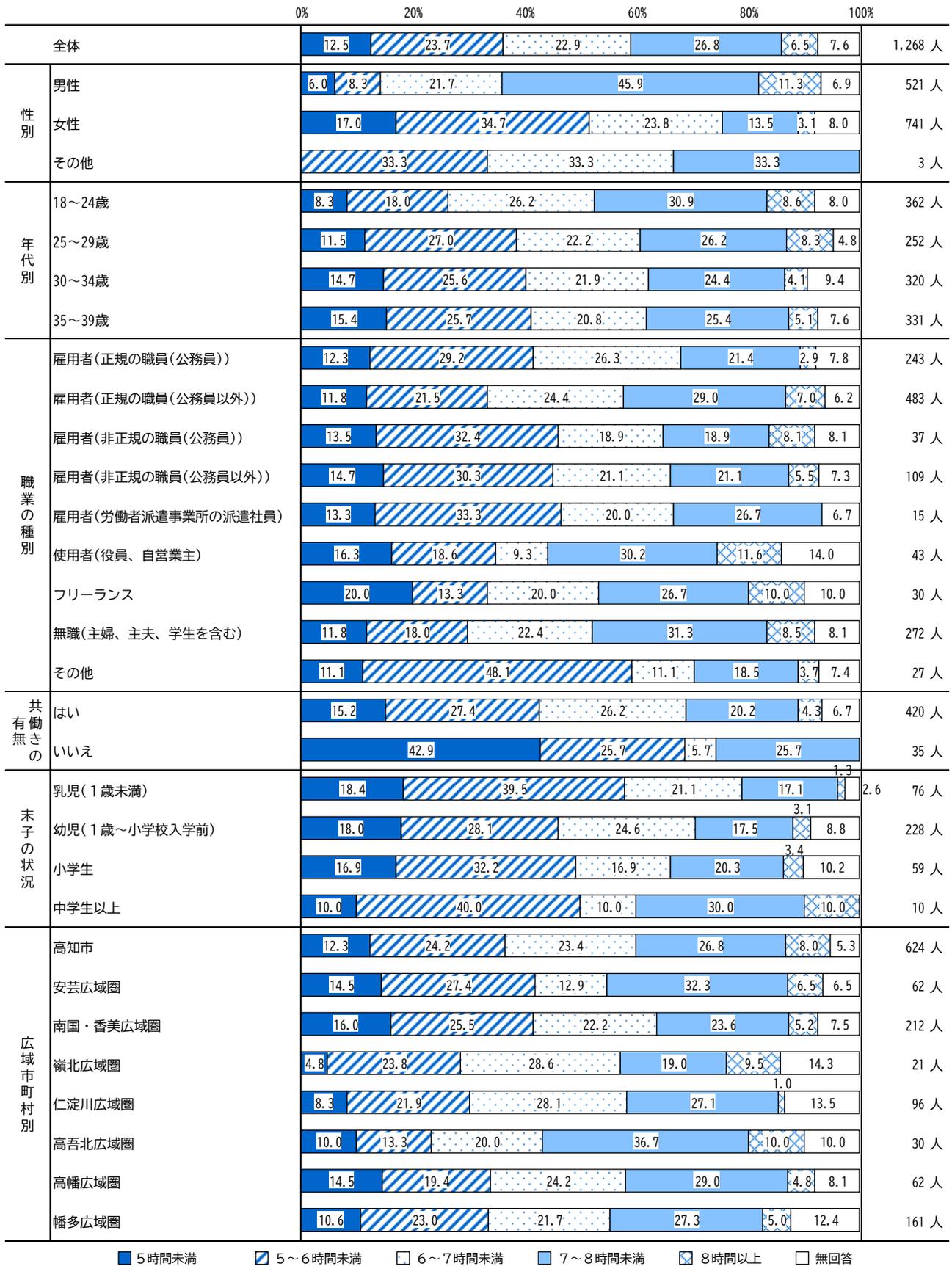
【年代別】

- 18歳～24歳は「7～8時間未満」が最も高く、そのほかの年代は、「5～6時間未満」が最も高い結果となっている。
○次いで、18歳～24歳は、「6～7時間未満」、そのほかの年代は、「7～8時間未満」が高くなっている。

【地域別】

- 南国・香美広域圏では、「5～6時間未満」が最も高く、嶺北広域圏、仁淀川広域圏では「6～7時間未満」が最も高くなっている。
○そのほかの地域では「7～8時間未満」が最も高くなっている。

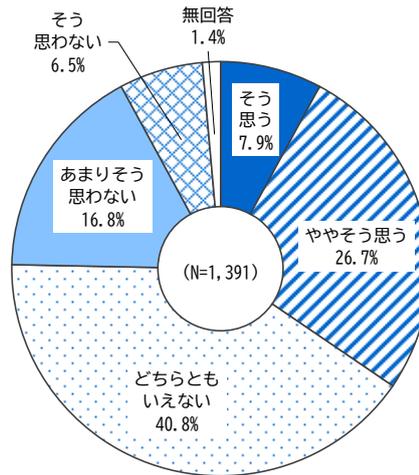
V 調査結果（解説・グラフ）



問17 高知県の保育所・幼稚園・認定こども園など子育てを支える施設は充実していると思いますか。
（1つだけ○印）

【全体】

- 「どちらともいえない」が40.8%と最も高く、次いで「ややそう思う」26.7%、「あまりそう思わない」16.8%と続いている。
- 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【思う】の割合は、34.6%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【思わない】の割合は23.3%となっている。



【性別】

- 男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 【思う】の割合は、男性が32.2%、女性が36.3%と女性のほうがわずかに高くなっている。

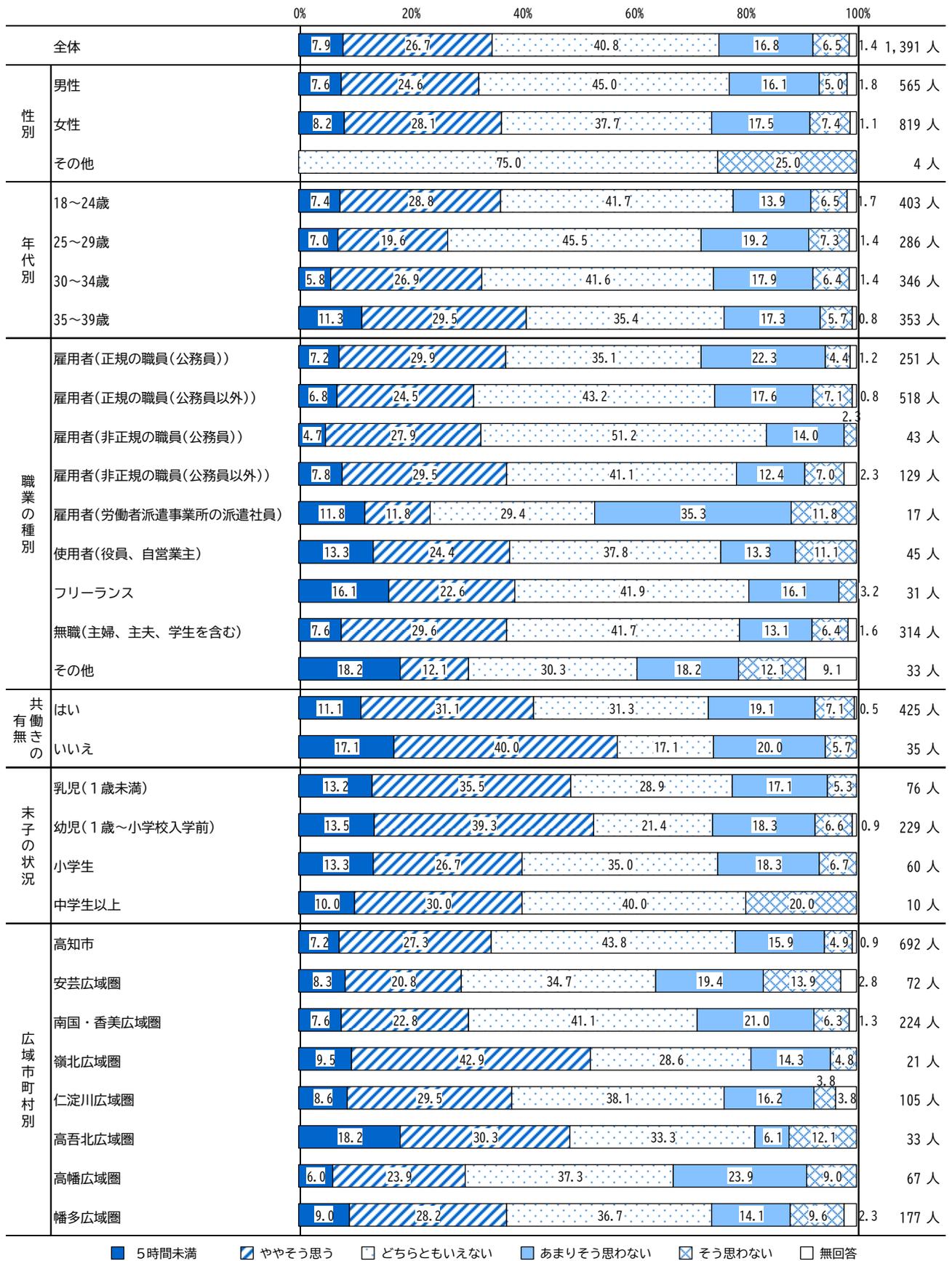
【年代別】

- すべての年代で「どちらともいえない」が最も高く、次いで「ややそう思う」となっている。
- 【思う】の割合は、35歳～39歳が40.8%と最も高く、25歳～29歳が26.6%と最も低い結果となっている。

【地域別】

- 嶺北広域圏では「ややそう思う」が最も高く、そのほかの地域は「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 安芸広域圏及び高幡広域圏では【思わない】の割合が【思う】を上回っており、そのほかの地域は【思う】の割合が上回っている。

V 調査結果（解説・グラフ）



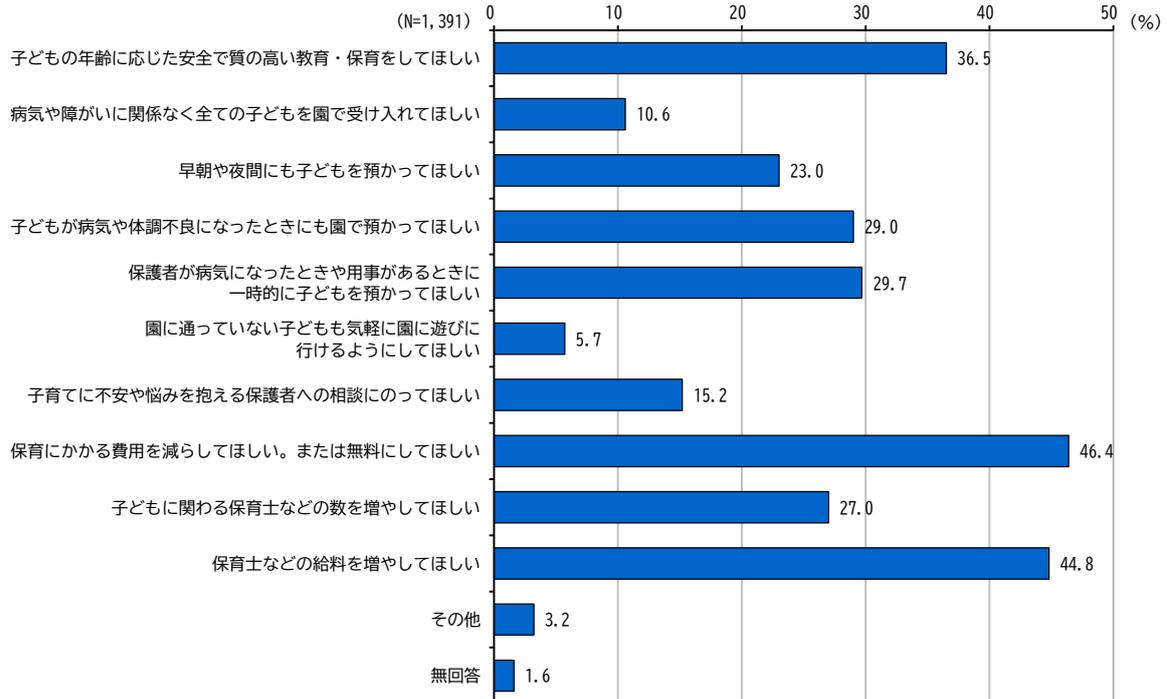
5時間未満
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない
 無回答

V 調査結果（解説・グラフ）

問 18 高知県の子育てを支えるため、これらの施設にもっと力を入れてほしいことは何ですか。あなたの考えに近いものを3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

- 「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が46.4%と最も高く、次いで「保育士などの給料を増やしてほしい」44.8%、「子どもの年齢に応じた安全で質の高い教育・保育をしてほしい」36.5%と続いている。

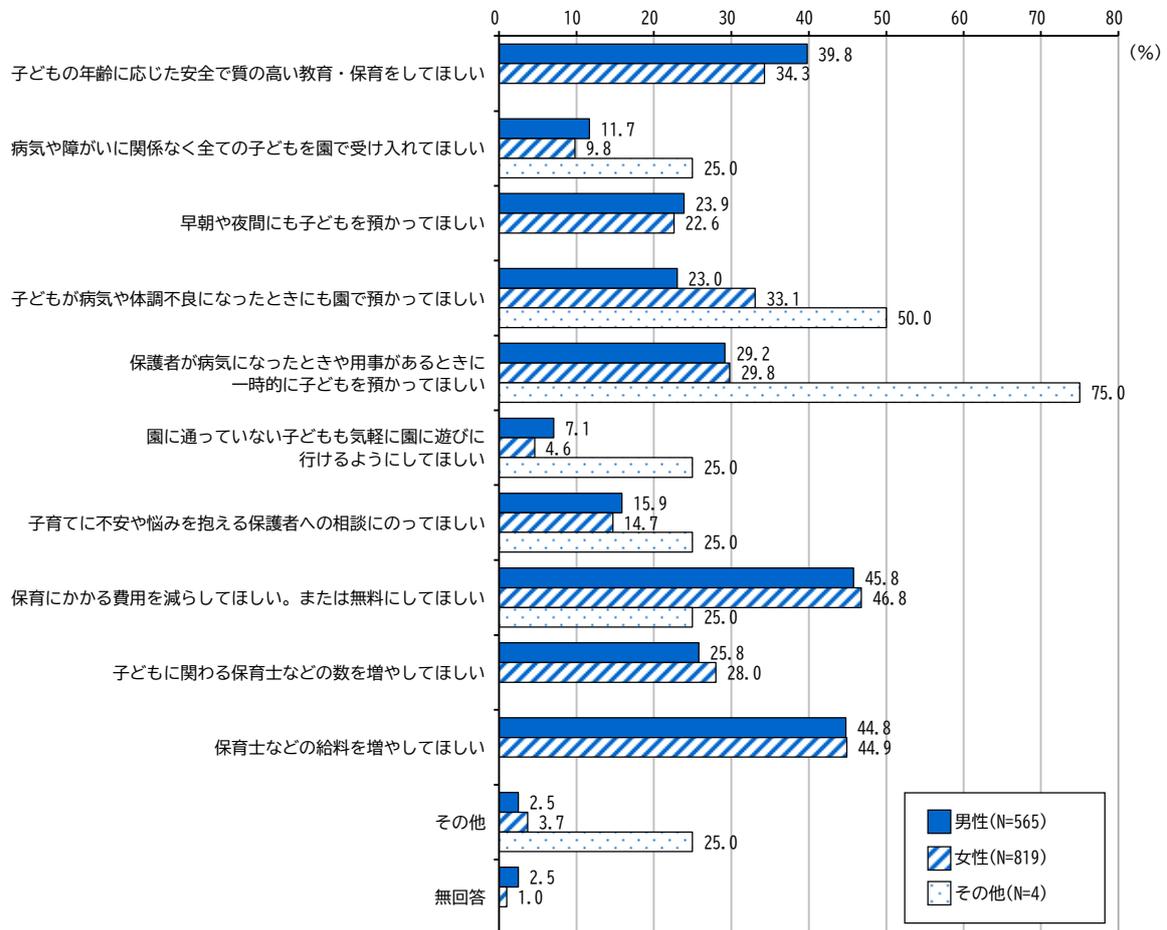


V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

○男女ともに、「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が最も高くなっている。

○次いで、男女ともに「保育士などの給料を増やしてほしい」が高くなっている。

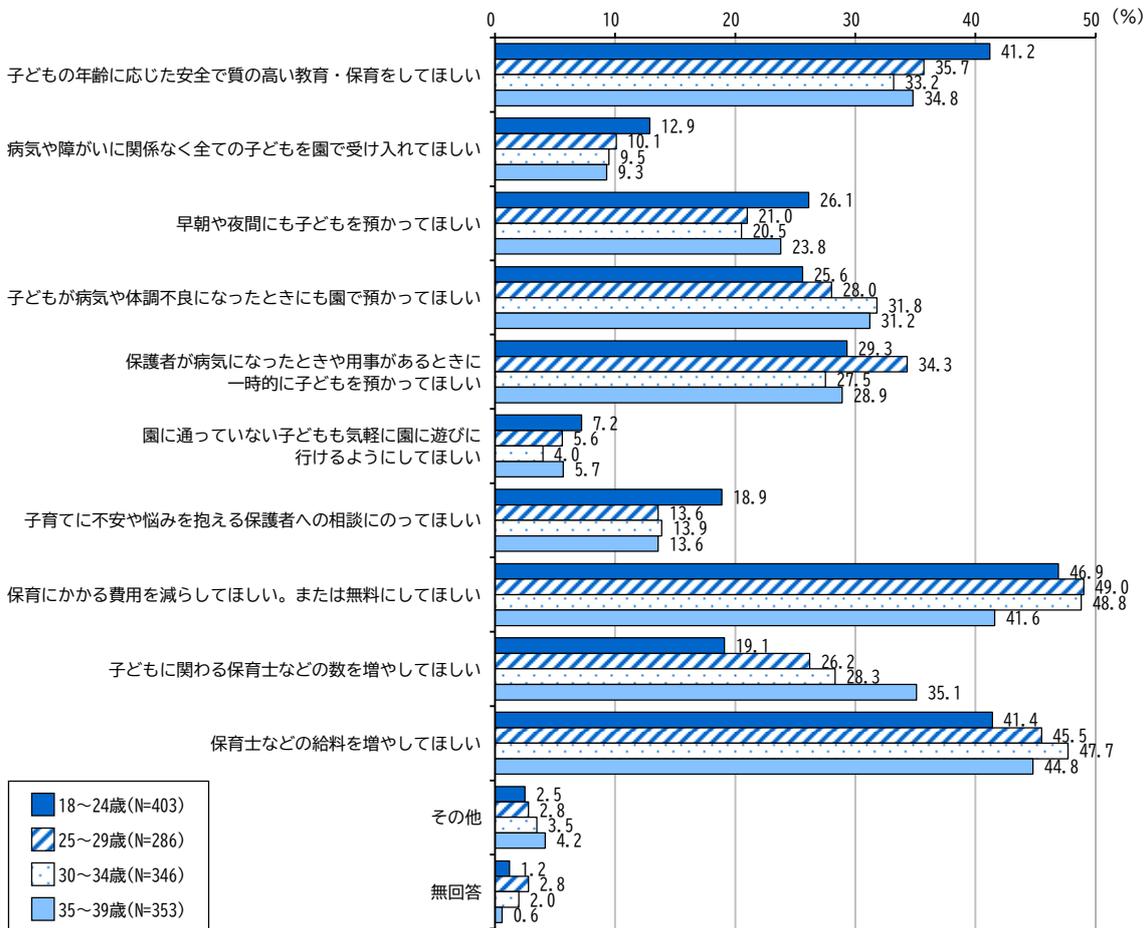


V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

○35歳～39歳は、「保育士などの給料を増やしてほしい」が最も高く、そのほかの年代は、「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が最も高くなっている。

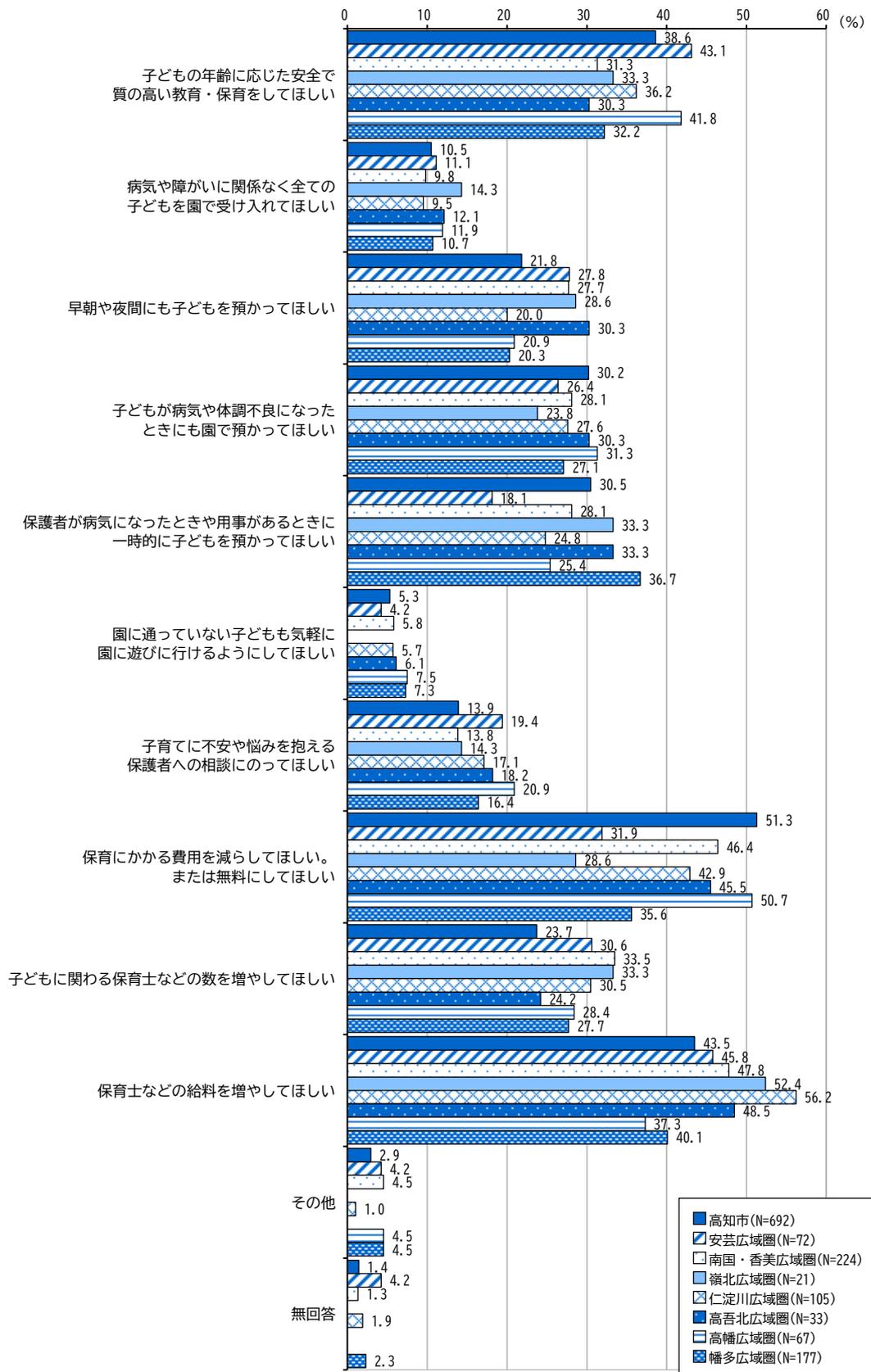
○次いで、35歳～39歳は「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」、そのほかの年代は「保育士などの給料を増やしてほしい」が高くなっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

○高知市、高幡広域圏では、「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が最も高く、他の地域では「保育士などの給料を増やしてほしい」が最も高くなっている。

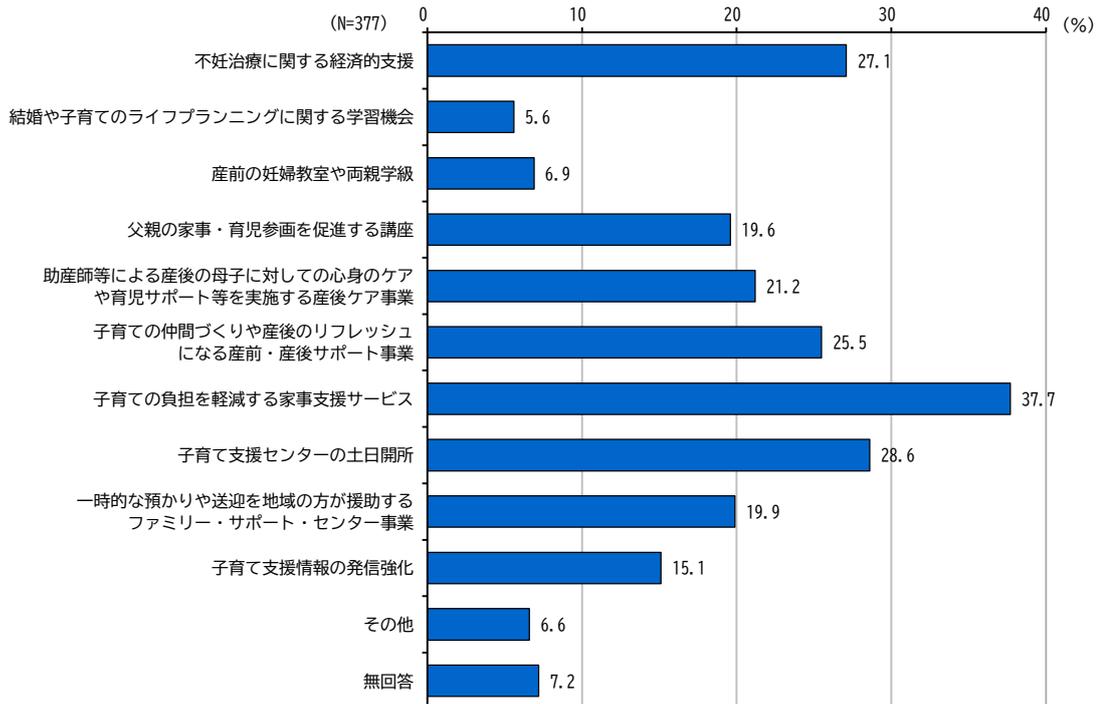


V 調査結果（解説・グラフ）

問19 現在、子育て中の方のみお答えください。妊娠に向けた支援から乳幼児期の子育て支援に関する下記の取り組みのうち、今後、もっと充実してほしい取り組みについて、あなたの考えに近いものを、3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

○「子育ての負担を軽減する家事支援サービス」が37.7%と最も高く、次いで「子育て支援センターの土日開所」28.6%、「不妊治療に関する経済的支援」27.1%と続いている。

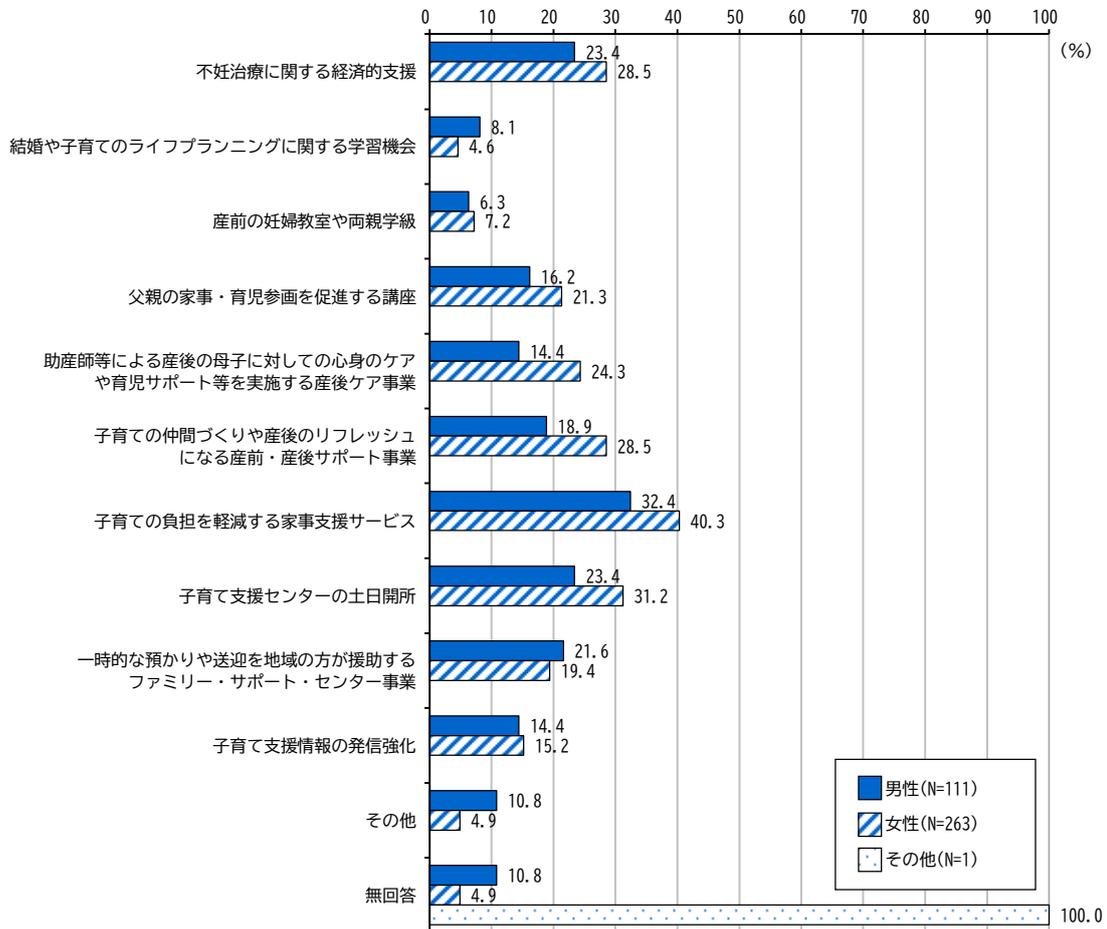


V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

○男女ともに、「子育ての負担を軽減する家事支援サービス」が最も高くなっている。

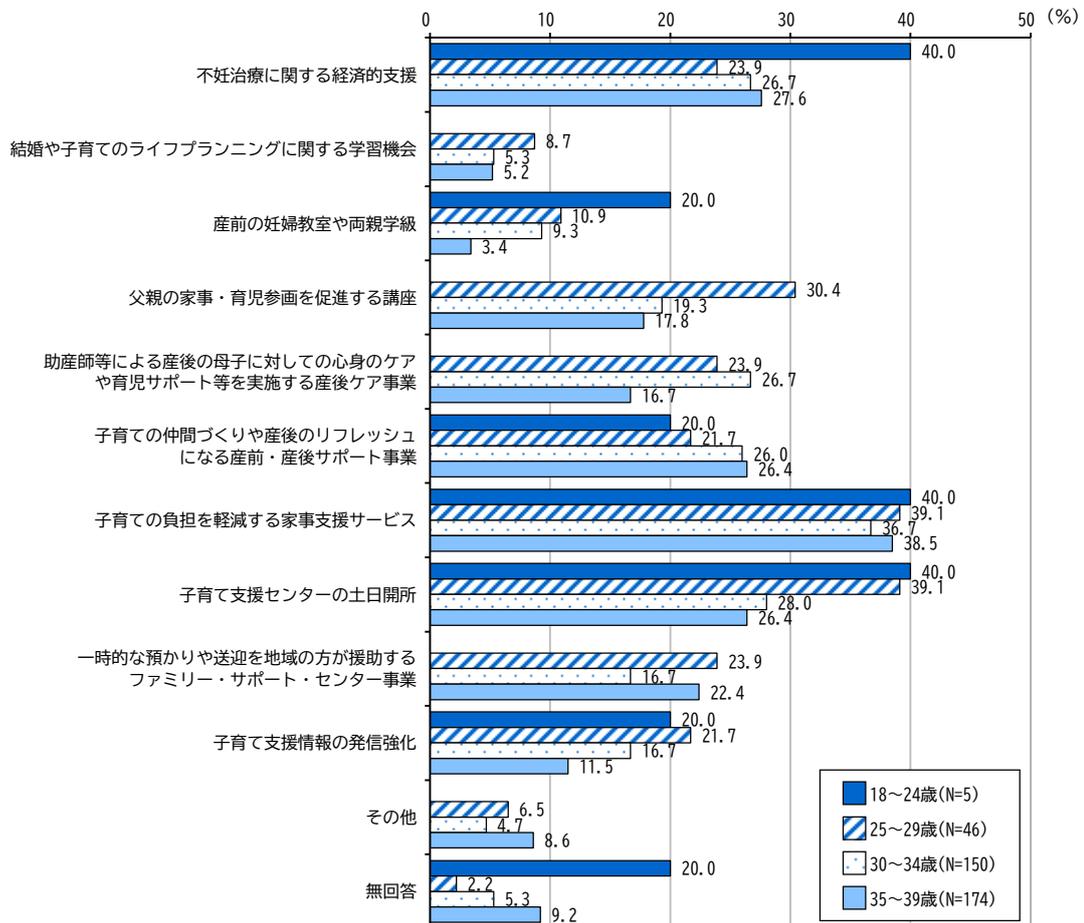
○次いで、男女とも、「子育て支援センターの土日開所」が高くなっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

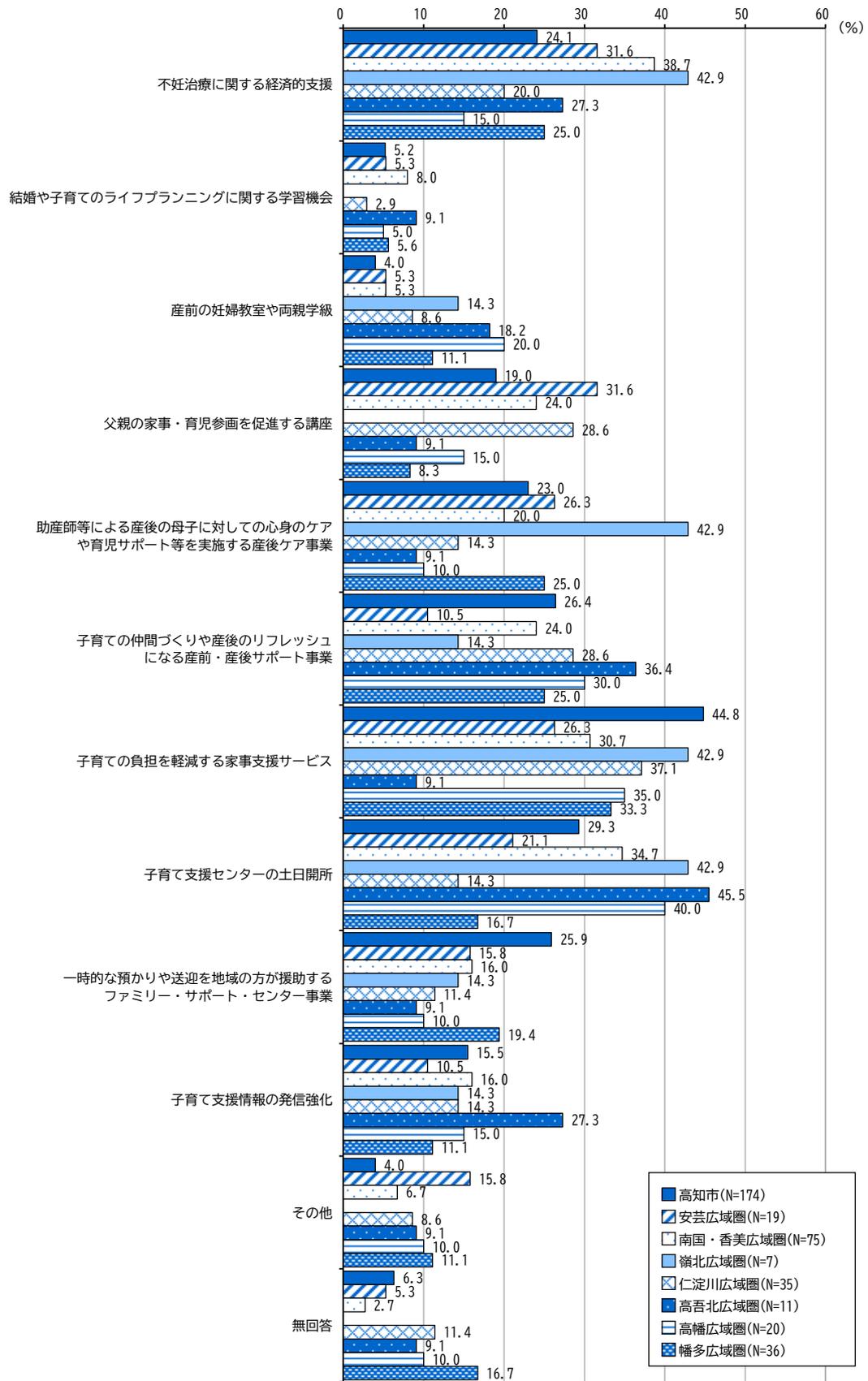
○18歳～24歳では「不妊治療に関する経済的支援」、「子育ての負担を軽減する家事支援サービス」、「子育て支援センターの土日開所」が同率で、25歳～29歳では「子育ての負担を軽減する家事支援サービス」、「子育て支援センターの土日開所」が同率で最も高く、そのほかの年代は「子育ての負担を軽減する家事支援サービス」が最も高くなっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

○高知市、仁淀川広域圏及び幡多広域圏では「子育ての負担を軽減する家事支援サービス」が最も高くなっている。

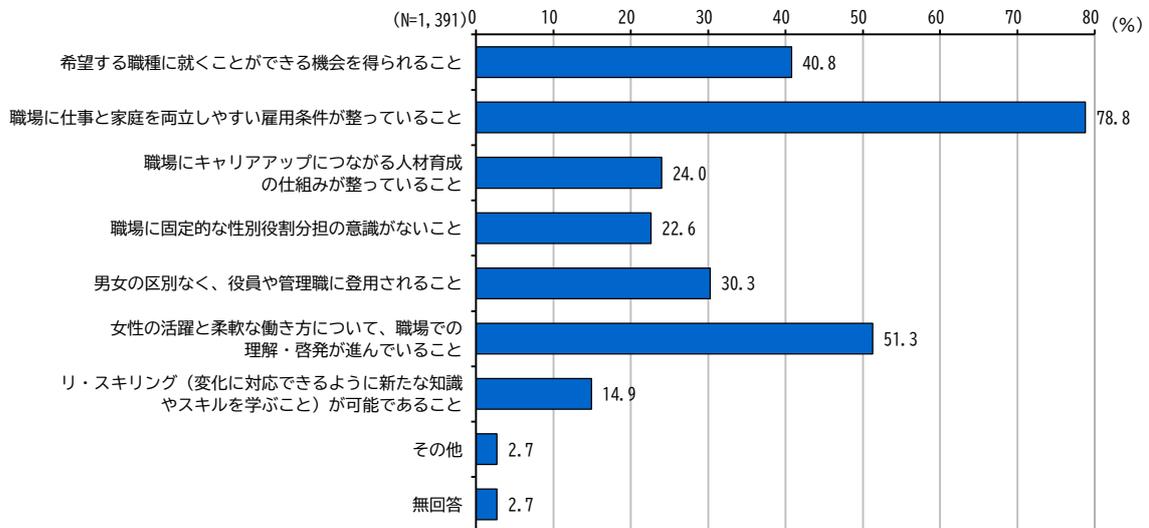


5 女性の活躍とワークライフバランスについて

問 20 女性が職場で活躍していくために、必要だと思うものは何ですか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

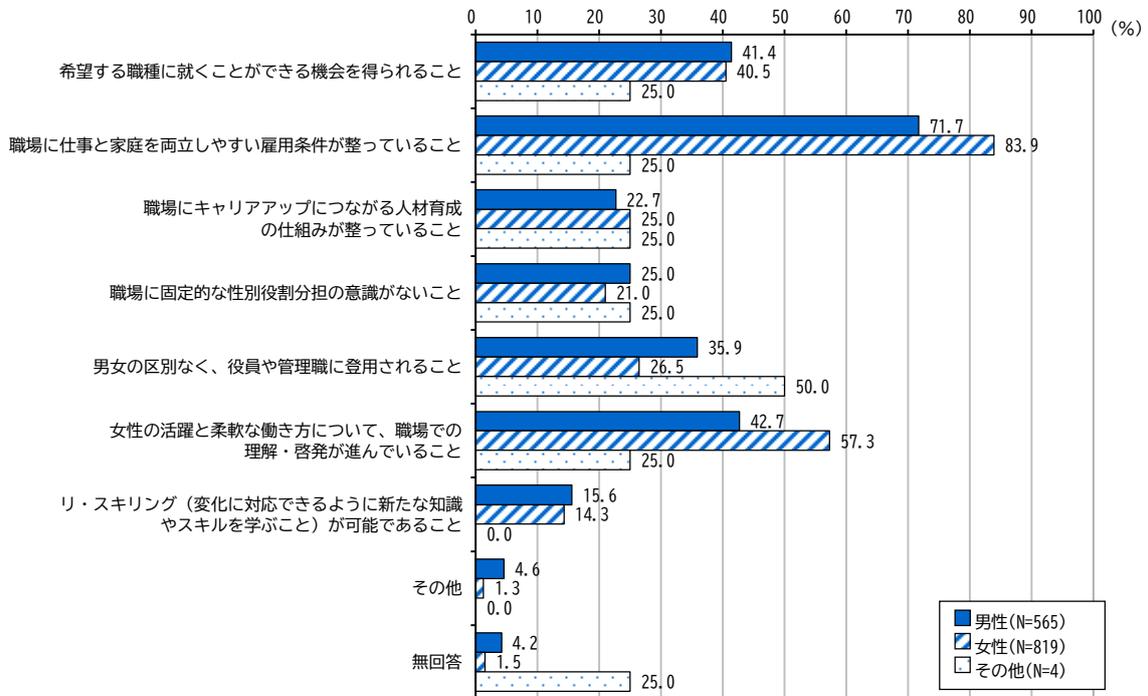
○「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が78.8%と最も高く、次いで「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」51.3%、「希望する職種に就くことができる機会を得られること」40.8%と続いている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

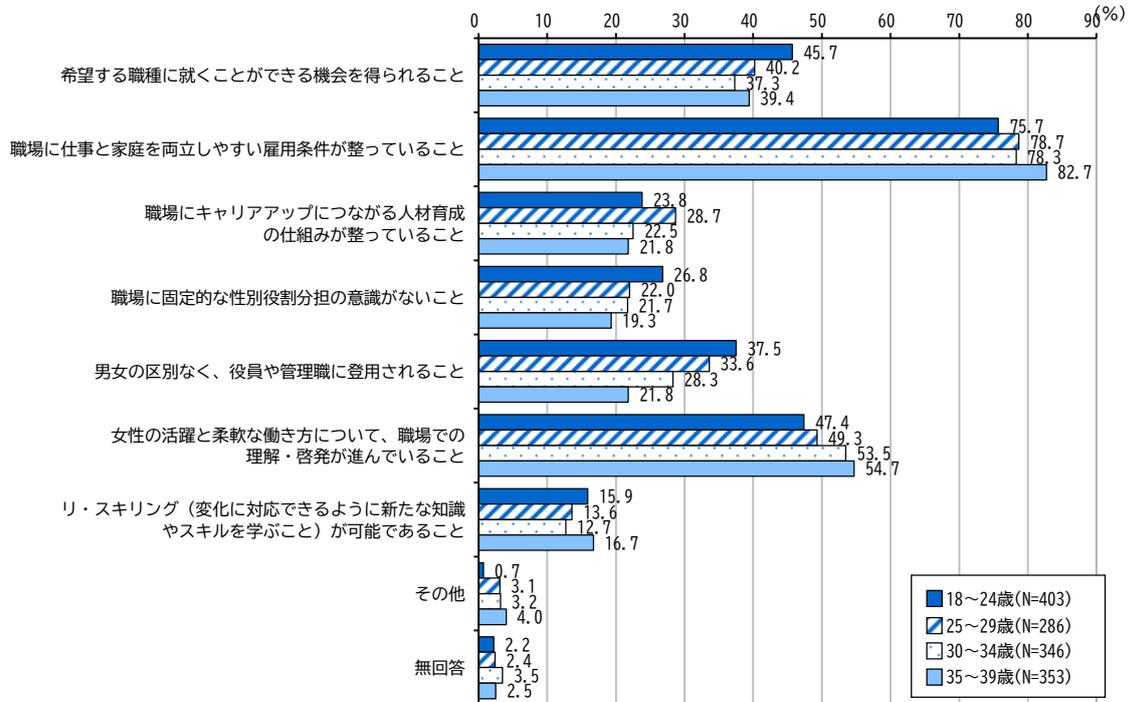
- 男女ともに、「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。
- 次いで、男女とも、「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」と続いている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

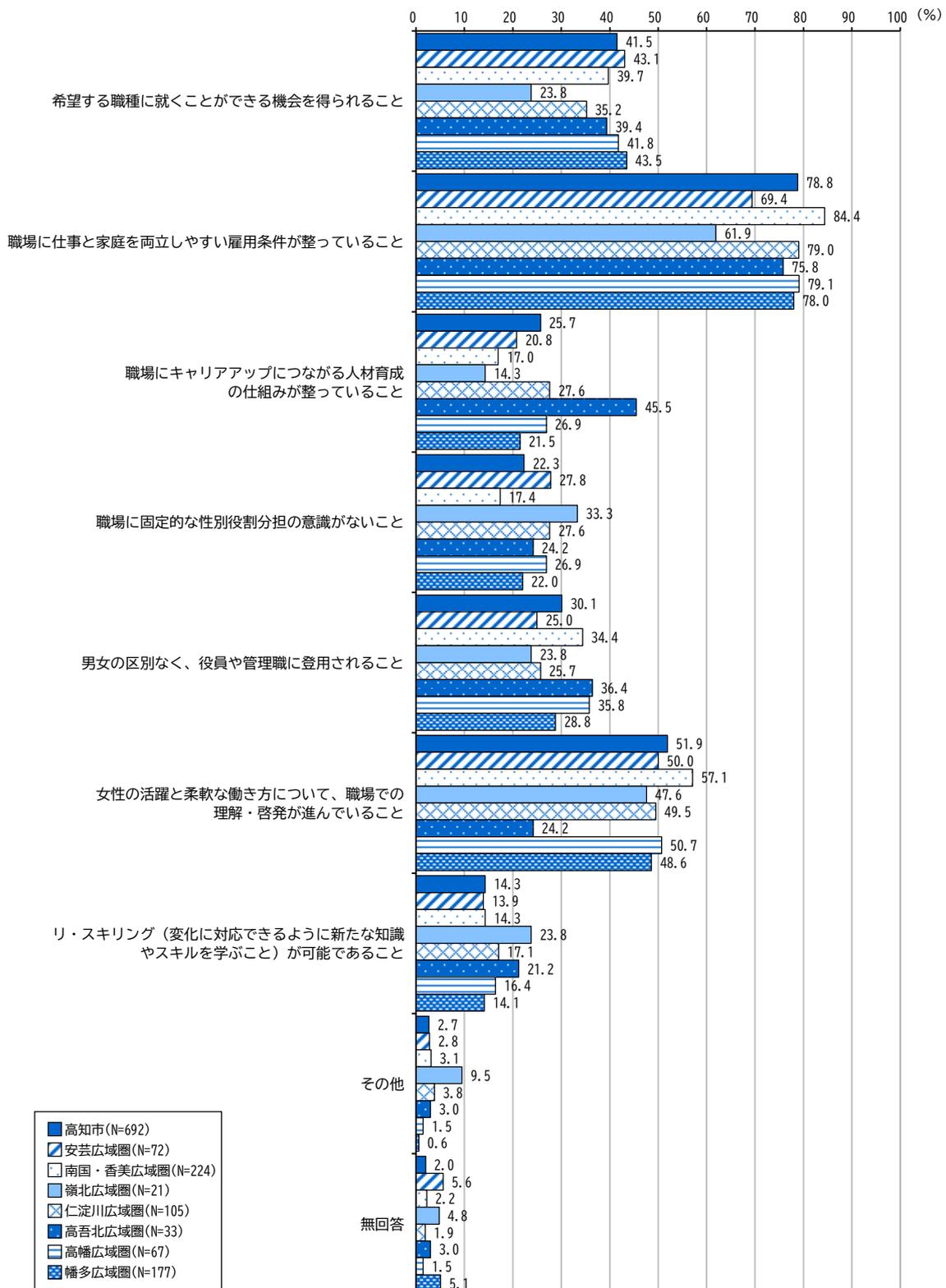
- すべての年代で「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。
- 次いで、すべての年代で「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」と続いている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

- すべての地域で、「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。
- 次いで、高吾北広域圏は「職場にキャリアアップにつながる人材育成の仕組みが整っていること」、そのほかの地域は、「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」となっている。

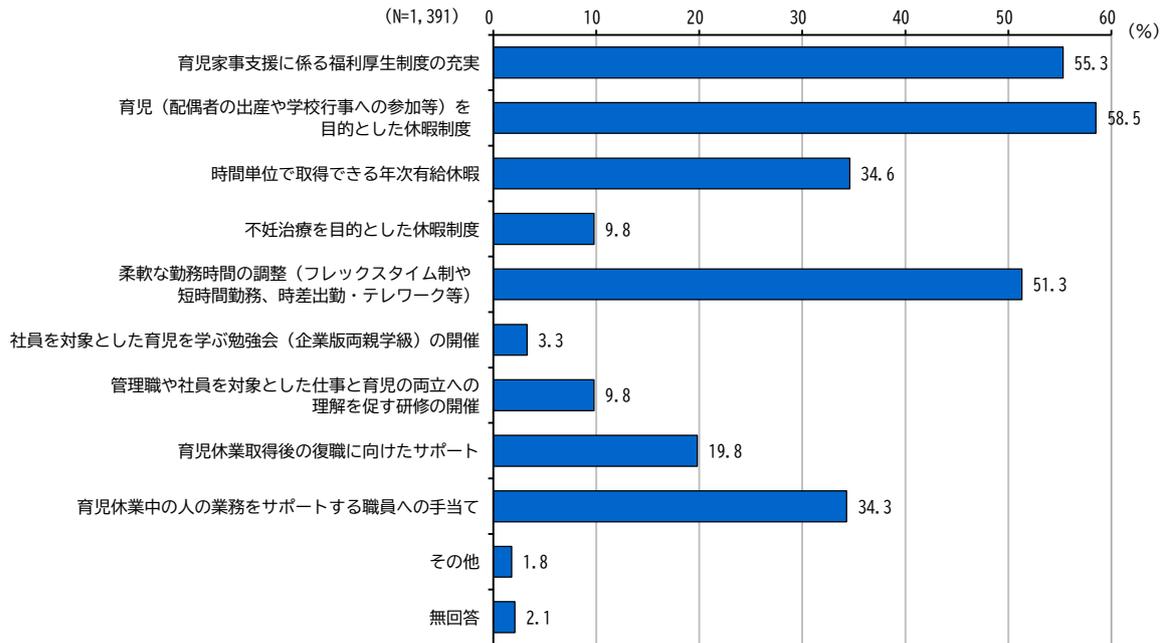


V 調査結果（解説・グラフ）

問21 男女を問わず、働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために、職場にどんな支援があると良いと思いますか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

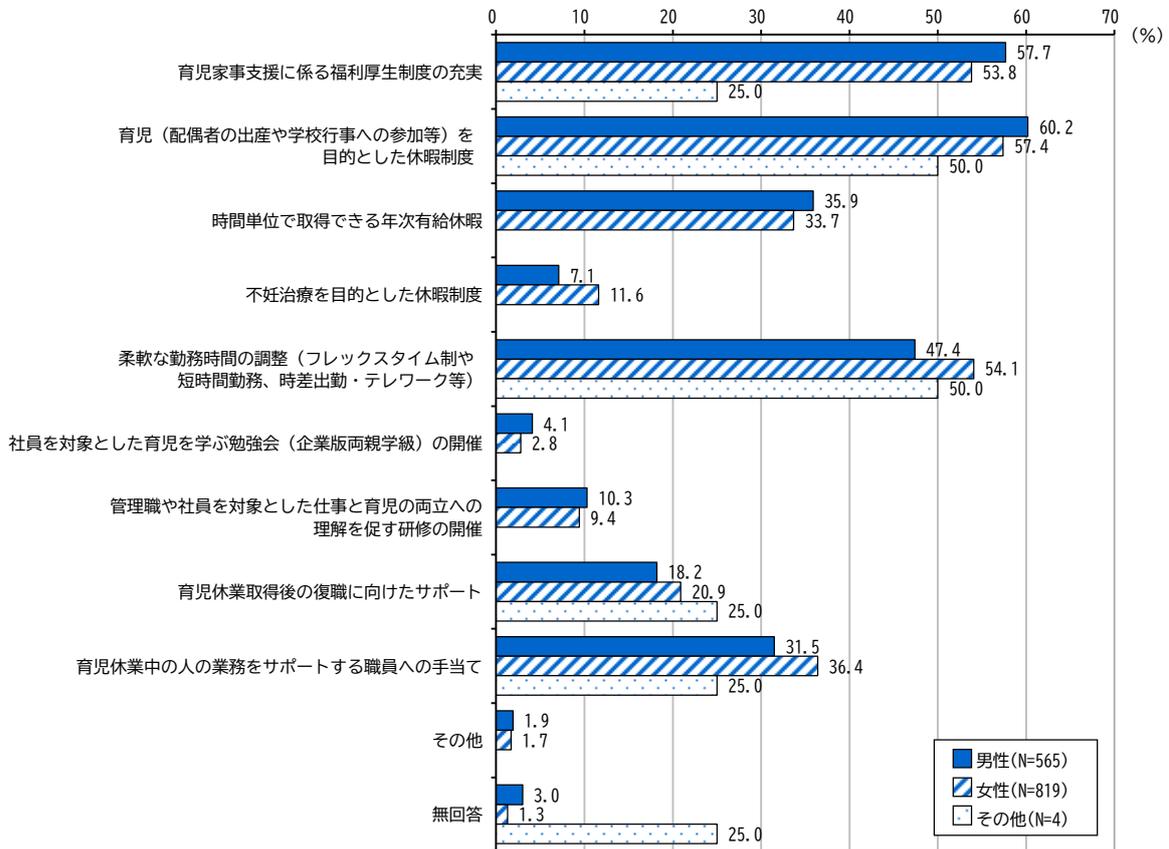
○「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が58.5%と最も高く、次いで「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」55.3%、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」51.3%と続いている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

- 男女ともに、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が最も高くなっている。
- 次いで、男性は「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」、女性は、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」となっている。

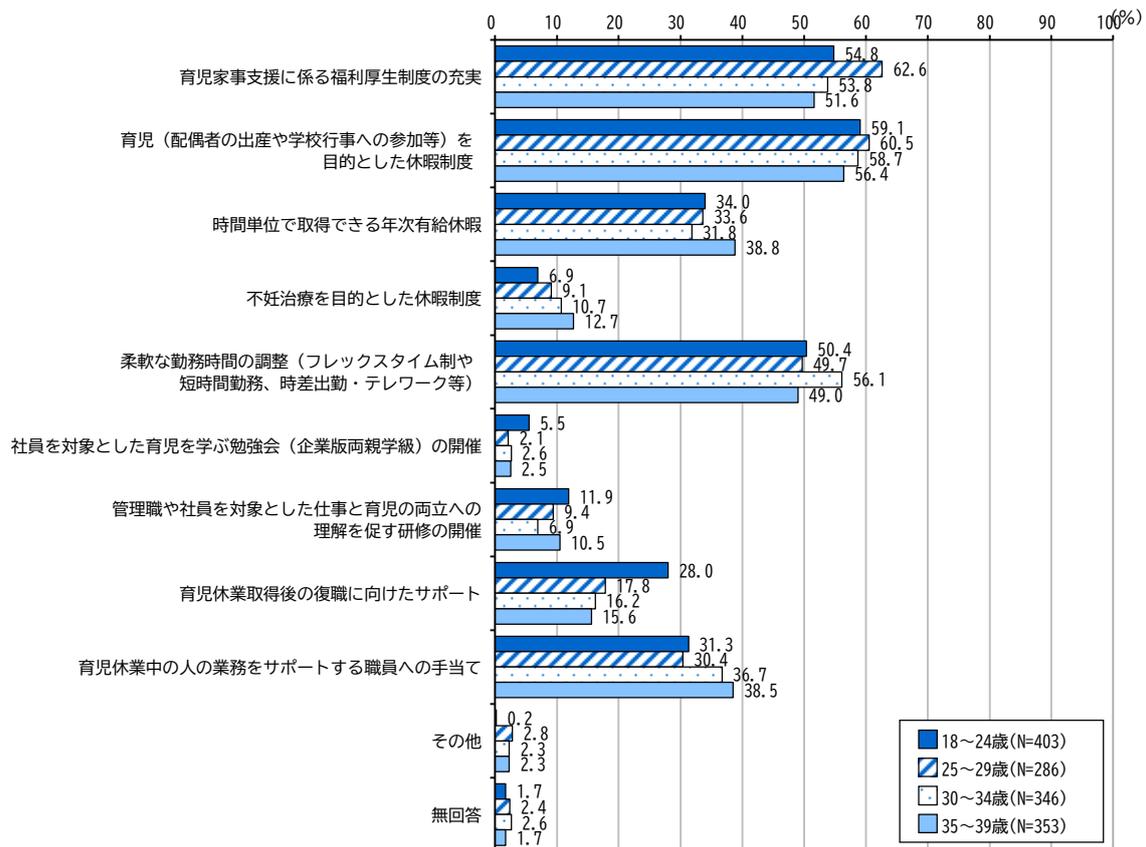


V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

○25歳～29歳では「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」が最も高く、そのほかの年代は「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が最も高くなっている。

○次いで、18歳～24歳、35歳～39歳は「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」、25歳～29歳は「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」、30歳～34歳は「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制度や時短勤務、時差出勤、テレワーク等）」となっている。

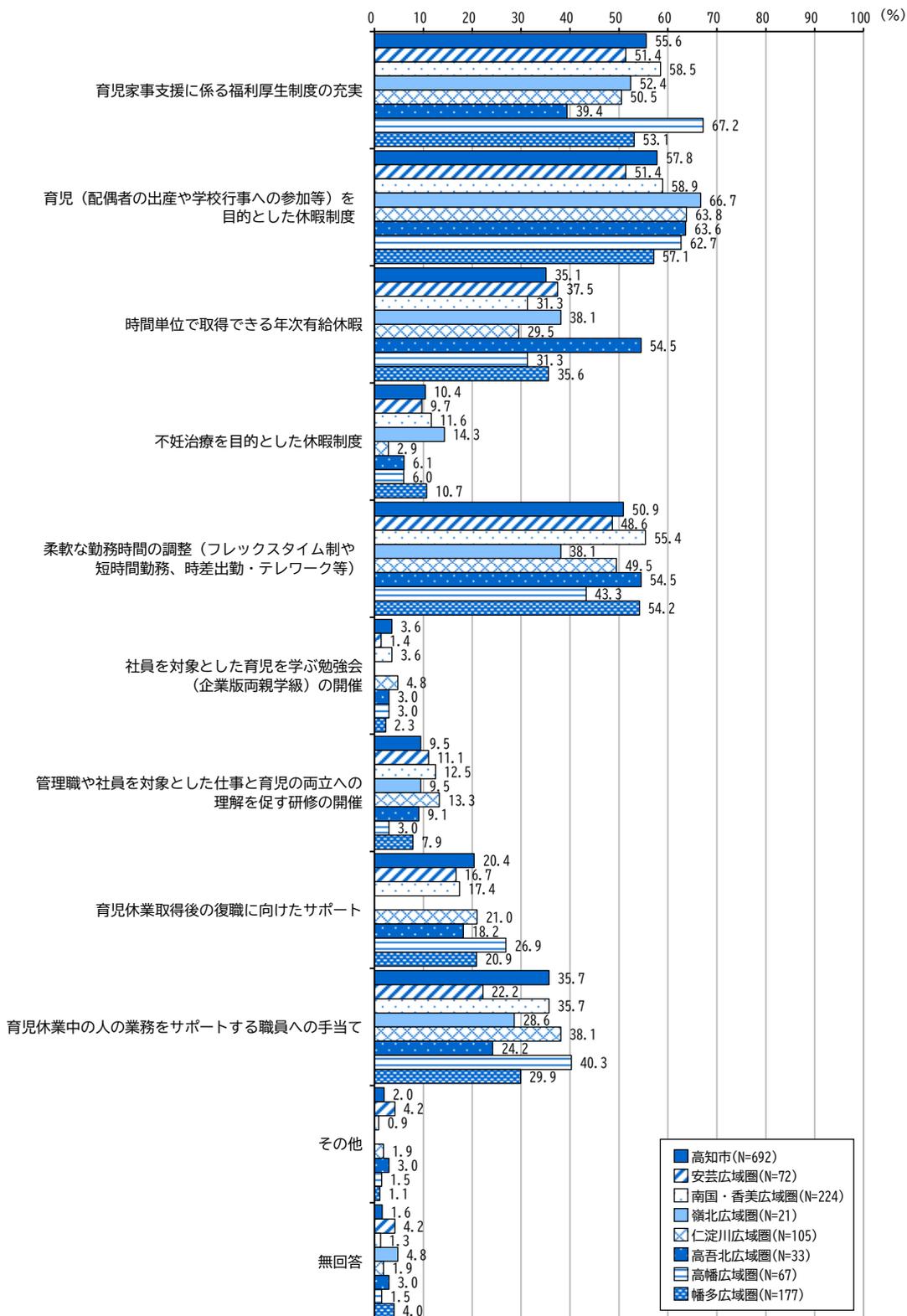


V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

○安芸広域圏では「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が同率で最も高く、高幡広域圏では「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」が最も高くなっている。

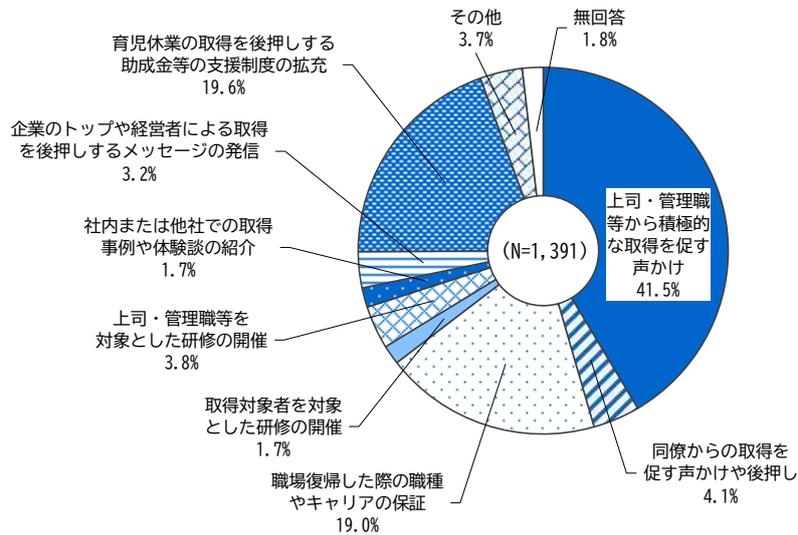
○そのほかの地域では「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が最も高くなっている。



問 22 男性の育児休業取得率を向上させるために、職場でどのような支援があれば良いと思いますか。
あなたの考えに近いものを、1つお選びください。（1つだけ○印）

【全体】

- 「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が41.5%と最も高く、次いで「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」19.6%、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」19.0%と続いている。



【性別】

- 男女ともに、「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。
○次いで、男性が「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」、女性は、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」となっている。

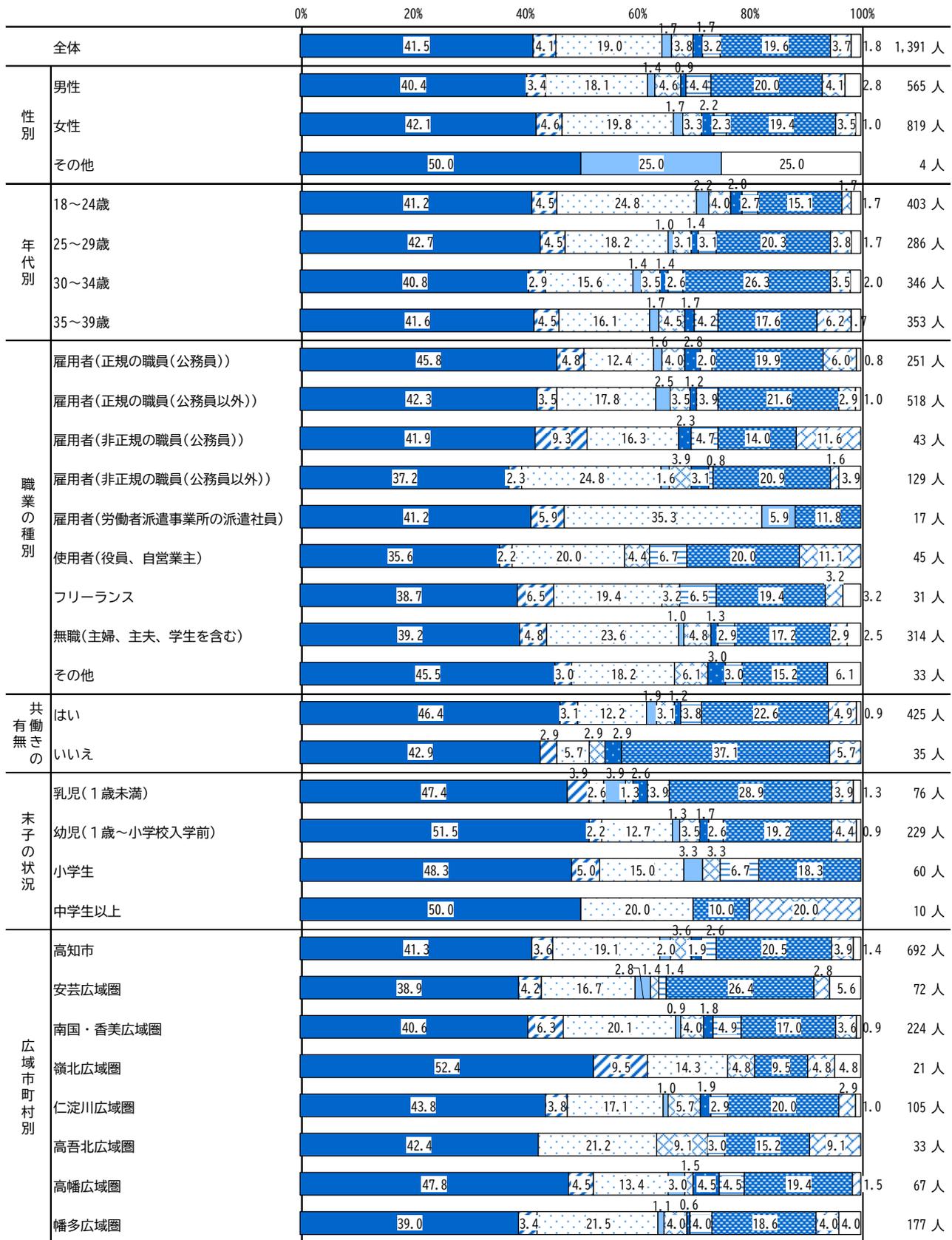
【年代別】

- すべての年代で「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。
○次いで、18歳～24歳は「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」、そのほかの年代は「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」となっている。

【地域別】

- すべての地域で「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。
○次いで、南国・香美広域圏、嶺北広域圏、高吾北広域圏及び幡多広域圏は「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」、そのほかの地域は「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」となっている。

V 調査結果（解説・グラフ）



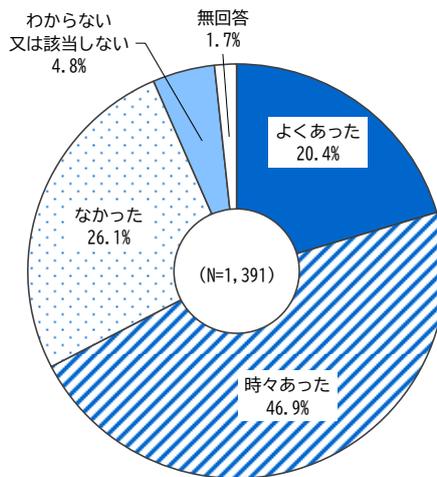
- 上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ
- 同僚からの取得を促す声かけや後押し
- 職場復帰した際の職種やキャリアの保証
- 取得対象者を対象とした研修の開催
- 上司・管理職等を対象とした研修の開催
- 社内または他社での取得事例や体験談の紹介
- 企業のトップや経営者による取得を後押しするメッセージの発信
- 育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充
- その他
- 無回答

問23 「男性は仕事、女性は家庭」等のように、個人の能力ではなく性別を理由に役割を分ける性別役割分担意識について、あなたの経験にあてはまるものをお選びください。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

① 小さい頃から食事や洗濯などの家事の手伝いをしている

【全体】

- 「時々あった」が46.9%と最も高く、次いで「なかった」26.1%、「よくあった」20.4%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は67.3%となっている。



【性別】

- 男女ともに「時々あった」が最も高くなっている。
- 【あった】は、女性が7割を超えている。

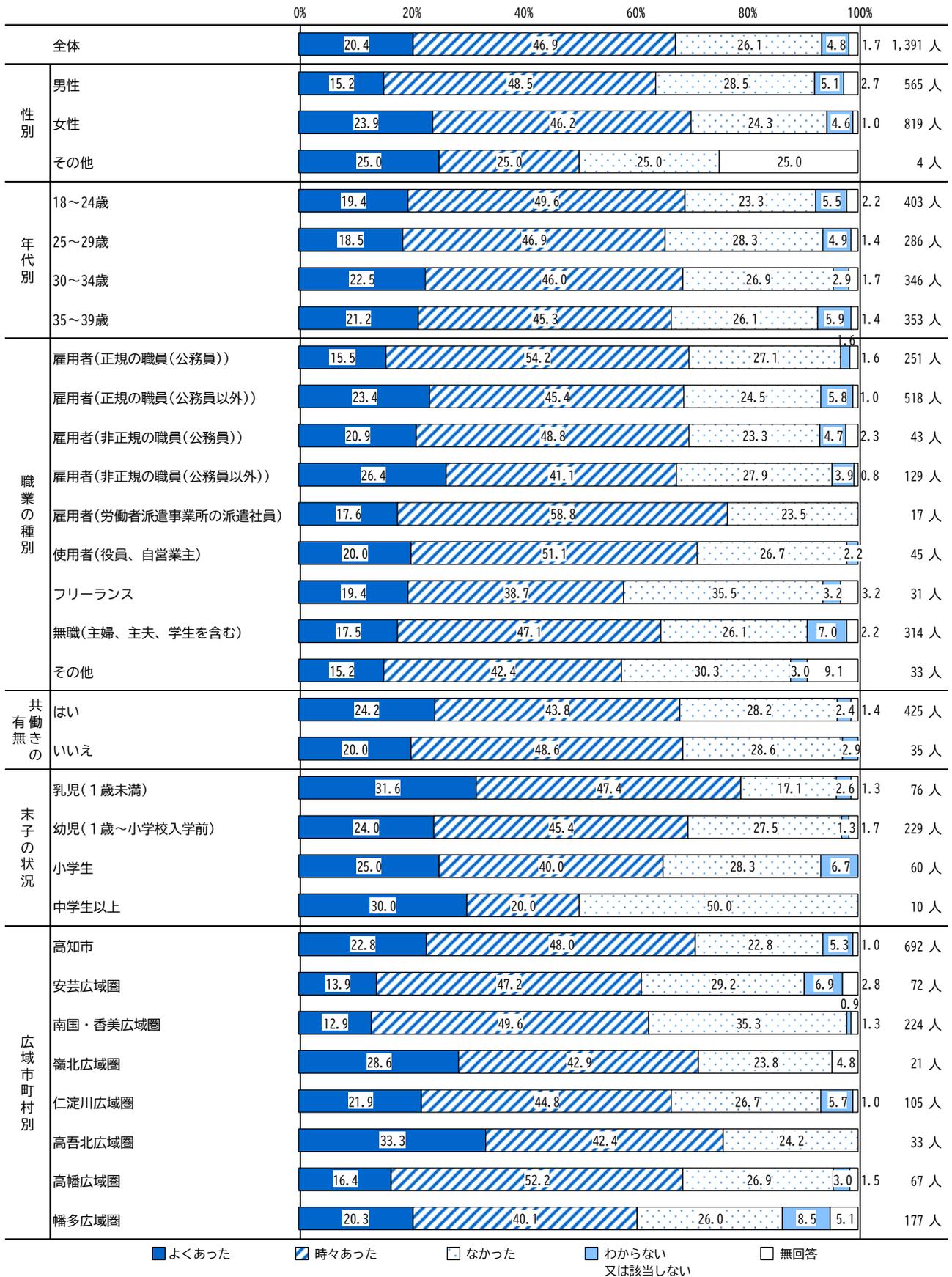
【年代別】

- いずれの年代も、「時々あった」が最も高くなっている。
- 【あった】はすべての年代で6割を超えており、18歳～24歳で69.0%と高くなっている。

【地域別】

- すべての地域で「時々あった」が最も高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

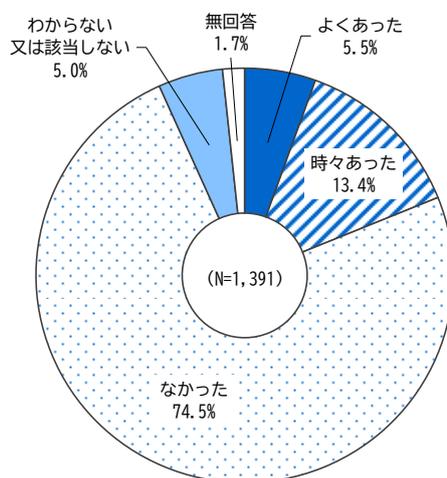


V 調査結果（解説・グラフ）

② 親や親戚などから進学先について反対されたり制限されたりする

【全体】

- 「なかった」が74.5%と最も高く、次いで「時々あった」13.4%、「よくあった」5.5%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は18.9%となっている。



【性別】

- 男女ともに、「なかった」が最も高くなっている。
- 【あった】は、女性が19.8%で、男性の17.5%に比べてやや高くなっている。

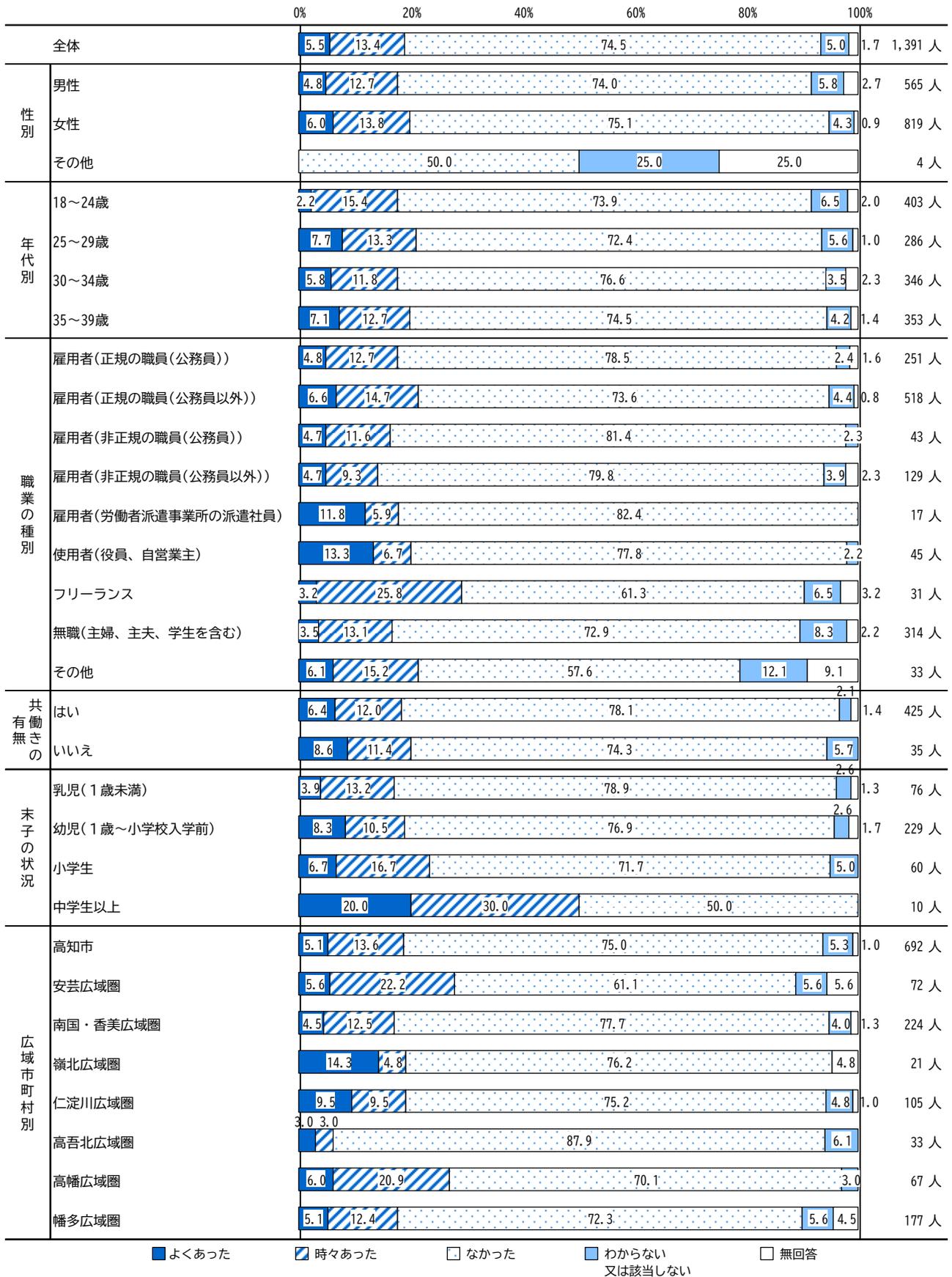
【年代別】

- いずれの年代も、「なかった」が最も高くなっている。
- 【あった】は、25歳～29歳が2割を超え、ほかの年代に比べてやや高くなっている。

【地域別】

- すべての地域で、「なかった」が最も高くなっている。

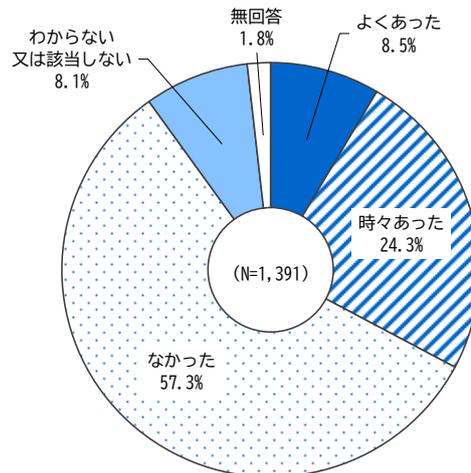
V 調査結果（解説・グラフ）



③ 親戚や地域の宴会で食事の支度やお酌をする

【全体】

- 「なかった」が57.3%と最も高く、次いで「時々あった」24.3%、「よくあった」8.5%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は32.8%となっている。



【性別】

- 男女ともに「なかった」が最も高くなっている。
- 【あった】は、男性よりも女性のほうが高くなっている。

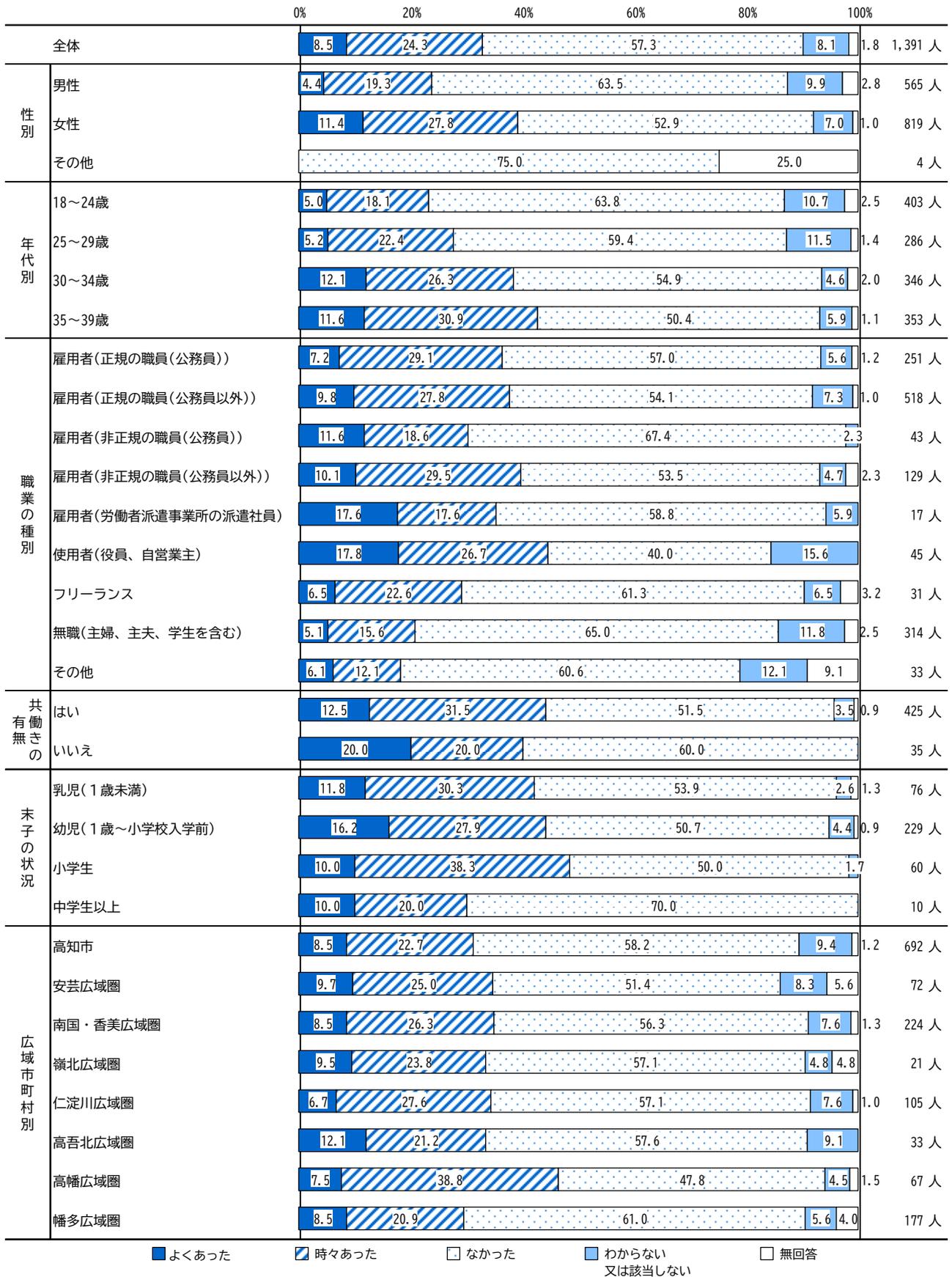
【年代別】

- すべての年代で「なかった」が最も高くなっているが、その割合は年齢が上がるにつれて低くなっている。
- 35歳～39歳は、【あった】が4割を超えている。

【地域別】

- すべての地域で「なかった」が最も高くなっている。
- 高幡広域圏で唯一【あった】が4割を超えている。

V 調査結果（解説・グラフ）

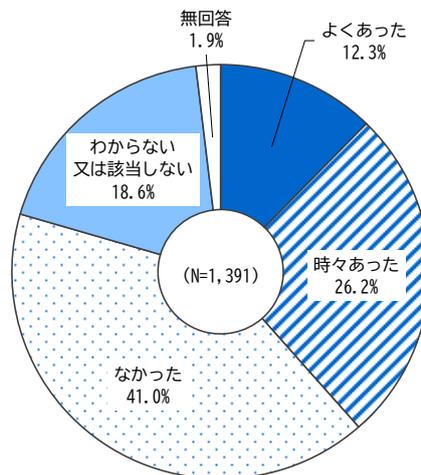


V 調査結果（解説・グラフ）

④ 恋人とのデート代を相手の分も負担する

【全体】

- 「なかった」が41.0%と最も高く、次いで「時々あった」26.2%、「わからない又は該当しない」18.6%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は38.5%となっている。



【性別】

- 男性は、「時々あった」が最も高く、【あった】は53.3%となっている。
- 女性は、「なかった」が最も高くなっている。

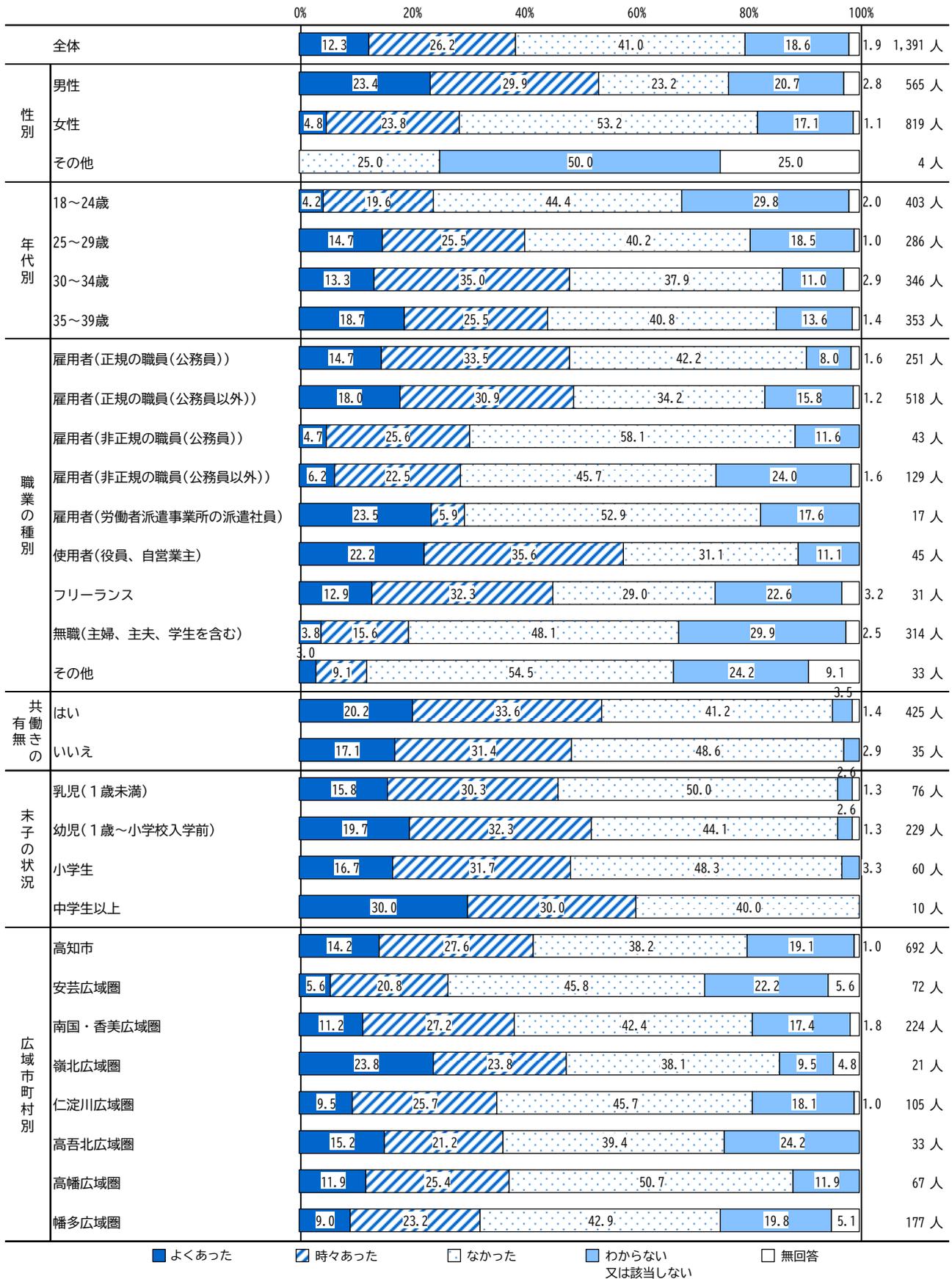
【年代別】

- いずれの年代も、「なかった」が最も高くなっているが、30歳～34歳、35歳～39歳では【あった】の割合が「なかった」より高くなっている。

【地域別】

- すべての地域で「なかった」が最も高くなっている。

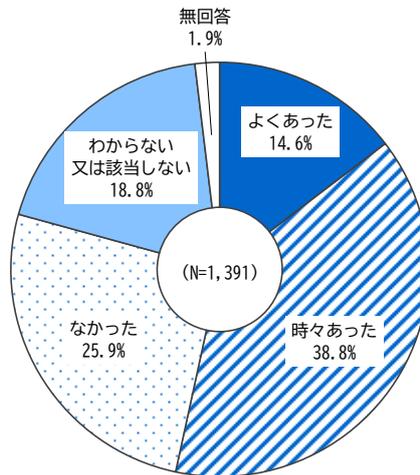
V 調査結果（解説・グラフ）



⑤ 職場の飲み会で料理の取り分けやお酌をする

【全体】

- 「時々あった」が38.8%と最も高く、次いで「なかった」25.9%、「わからない又は該当しない」18.8%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は53.4%となっている。



【性別】

- 男女ともに「時々あった」が最も高く、【あった】は男女ともに約半数を占める結果となっている。

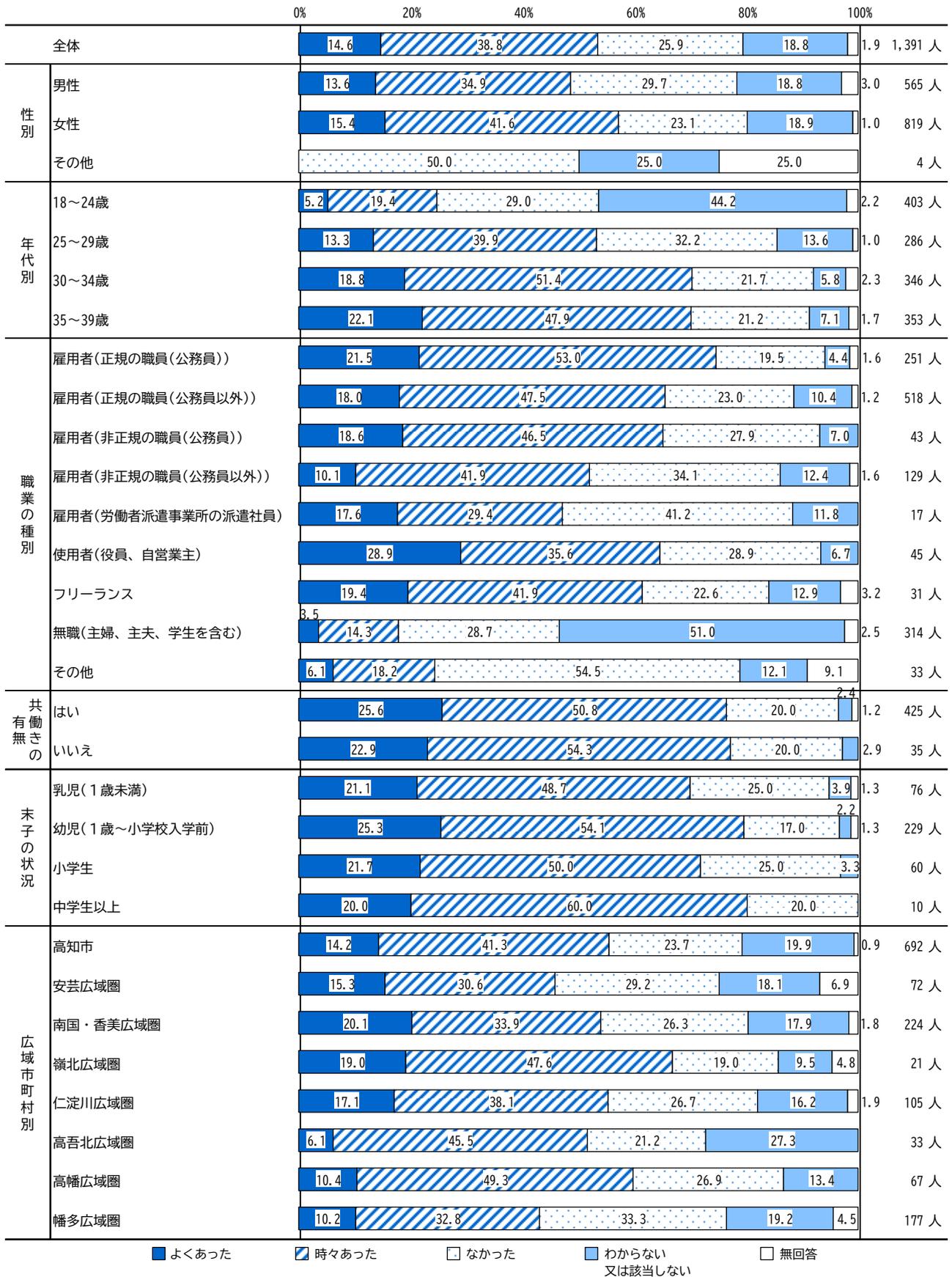
【年代別】

- 18歳～24歳は「わからない又は該当しない」が最も高く、そのほかの年代は「時々あった」が最も高くなっている。
- 【あった】は30歳～34歳及び35歳～39歳で7割を超えている。

【地域別】

- 幡多広域圏は「なかった」が最も高く、そのほかの地域は「時々あった」が最も高くなっている。
- 【あった】は、嶺北広域圏で6割を超えている。

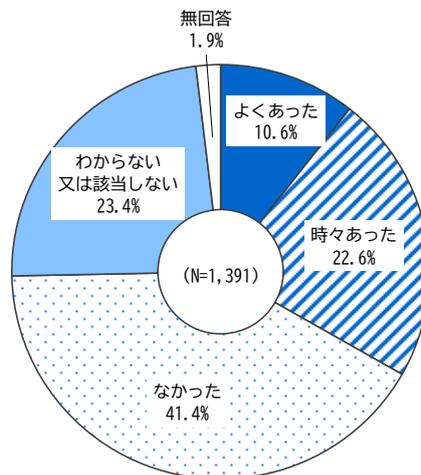
V 調査結果（解説・グラフ）



⑥ 職場で社員の食器類の片付けをする

【全体】

- 「なかった」が41.4%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」23.4%、「時々あった」22.6%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は33.2%となっている。



【性別】

- 男女ともに「なかった」が最も高くなっている。
- 【あった】の割合は、男性よりも女性のほうがやや高くなっている。

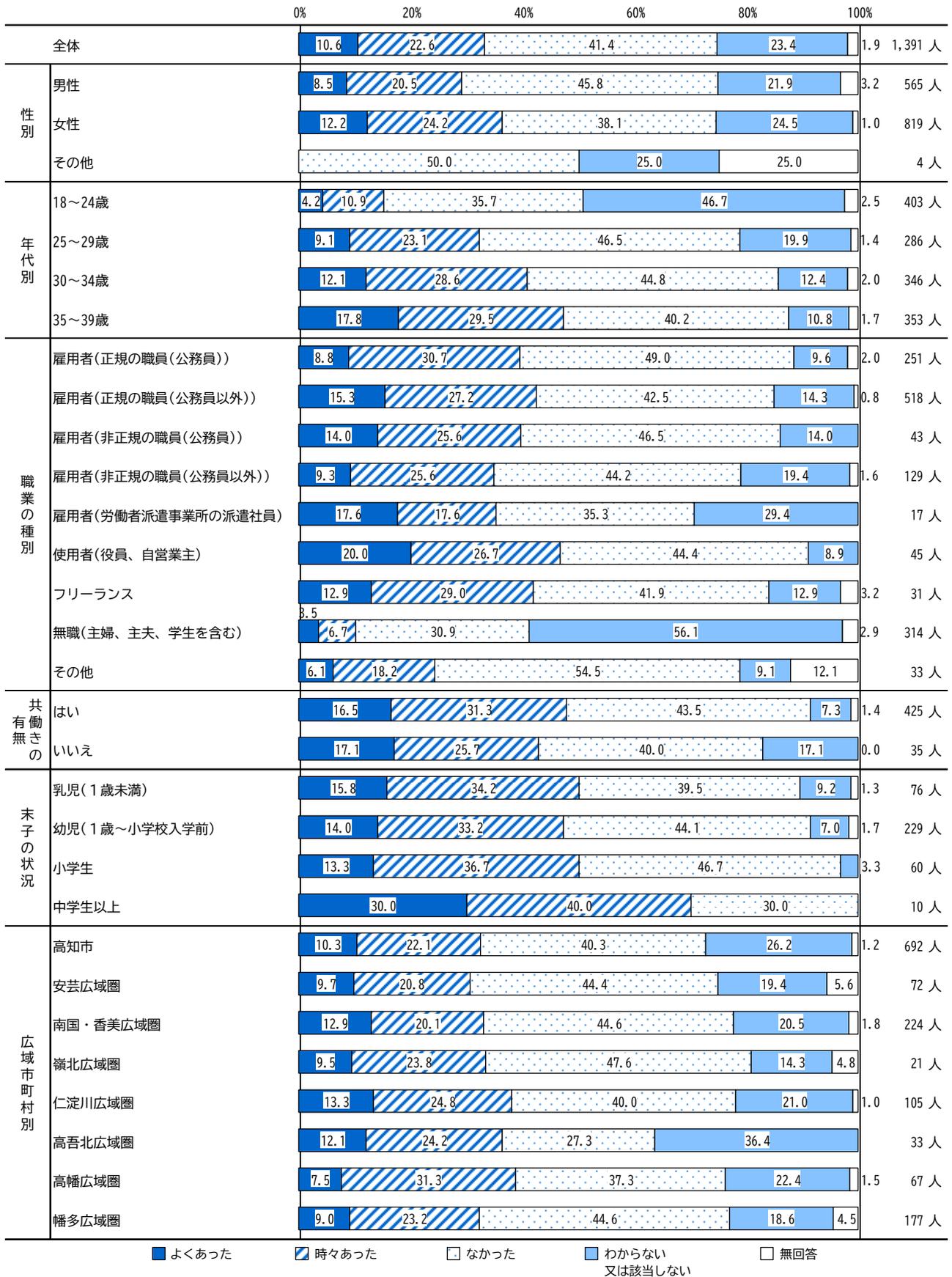
【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」46.7%が最も高くなっている。
- そのほかの年代は「なかった」が最も高いが、35歳～39歳は【あった】が47.3%とほかの年代より高くなっている。

【地域別】

- 高吾北広域圏は「わからない又は該当しない」が最も高く、そのほかの地域は「なかった」が最も高くなっている。
- 【あった】は、高吾北広域圏、高幡広域圏で「なかった」より高くなっている。

V 調査結果（解説・グラフ）

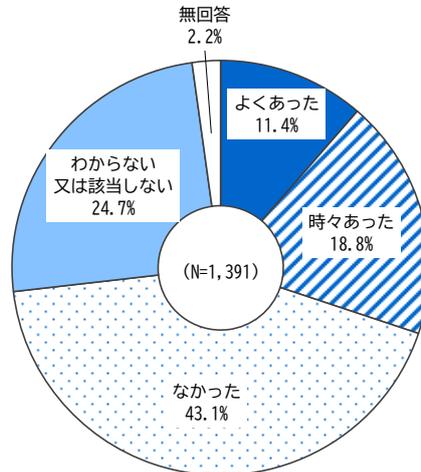


V 調査結果（解説・グラフ）

⑦ 職場で来客にお茶を出す

【全体】

- 「なかった」が43.1%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」24.7%、「時々あった」18.8%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は30.2%となっている。



【性別】

- 男女ともに「なかった」が最も高くなっている。
- 【あった】は男性よりも女性のほうがやや高くなっている。

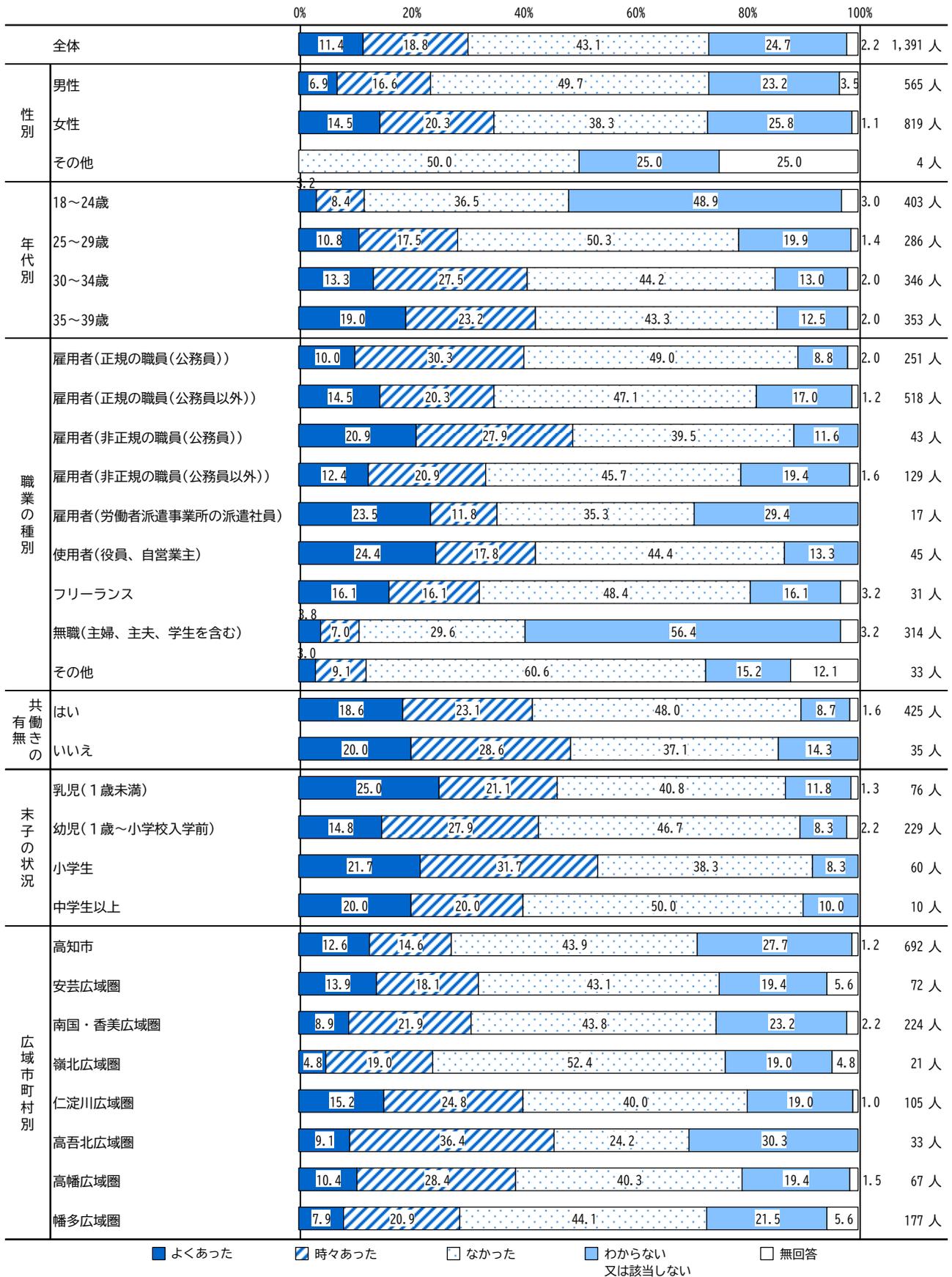
【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」が最も高く、そのほかの年代は「なかった」が最も高い。
- 【あった】は年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、35歳～39歳では42.2%とほかの年代より高くなっている。

【地域別】

- 高吾北広域圏を除くすべての地域で「なかった」が最も高くなっている。

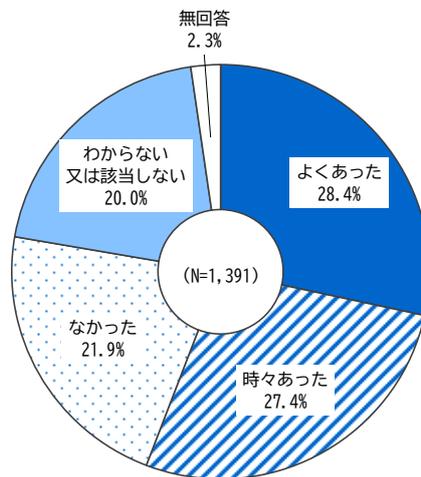
V 調査結果（解説・グラフ）



⑧ 職場の掃除をする

【全体】

- 「よくあった」が28.4%と最も高く、次いで「時々あった」27.4%、「なかった」21.9%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は55.8%となっている。



【性別】

- 男性は、「時々あった」が最も高く、女性は、「よくあった」が最も高くなっている。
- 【あった】は、男女ともに半数を超え、男性のほうが女性よりもやや高くなっている。

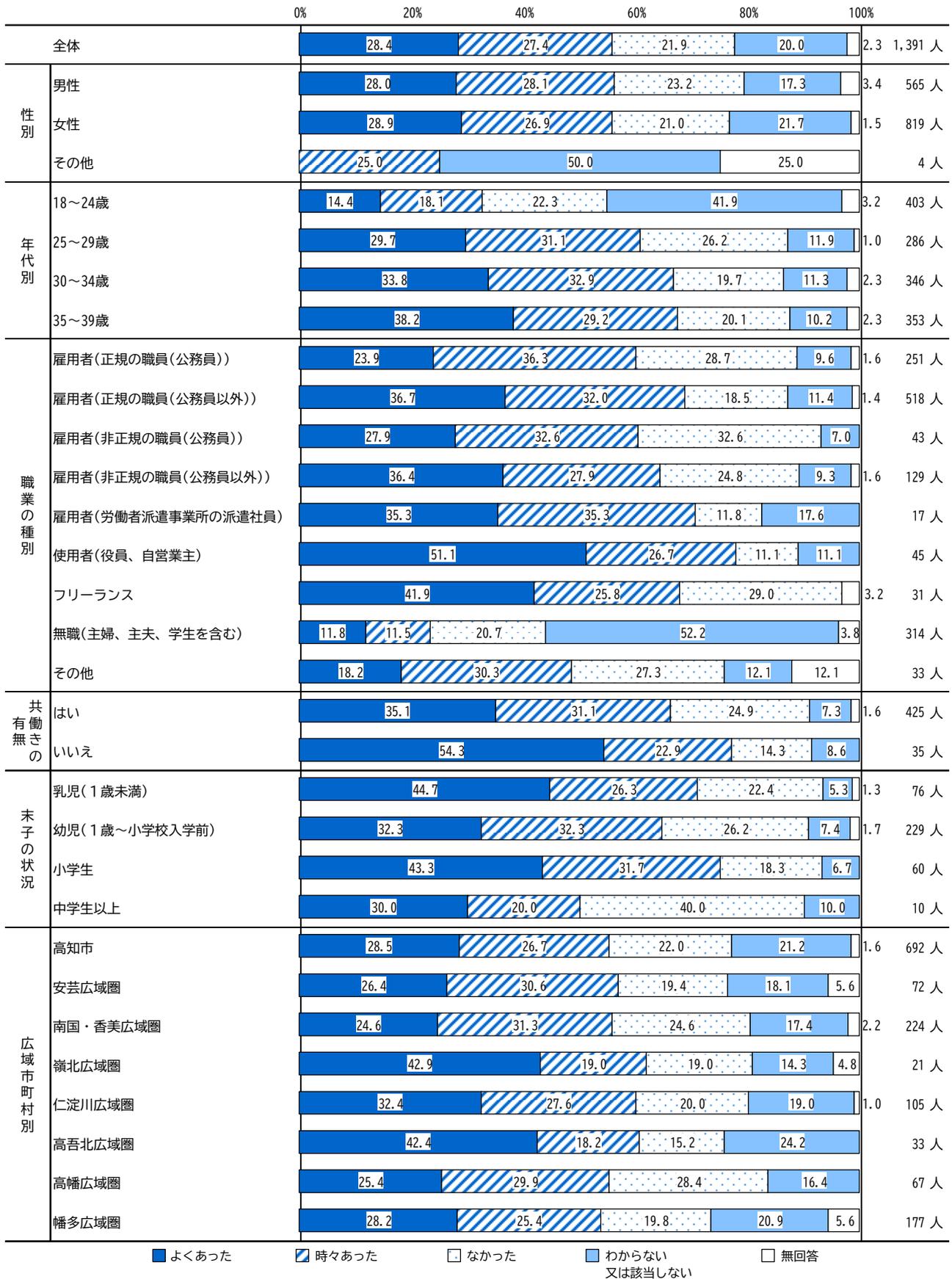
【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」が最も高く、25歳～29歳は、「時々あった」、そのほかの年代は「よくあった」が最も高くなっている。
- 【あった】は35歳～39歳で67.4%とほかの年代より高くなっている。

【地域別】

- 安芸広域圏、南国・香美広域圏及び高幡広域圏では「時々あった」が最も高く、ほかの地域では「よくあった」が最も高くなっている。
- すべての地域で、【あった】が50%以上となっている。

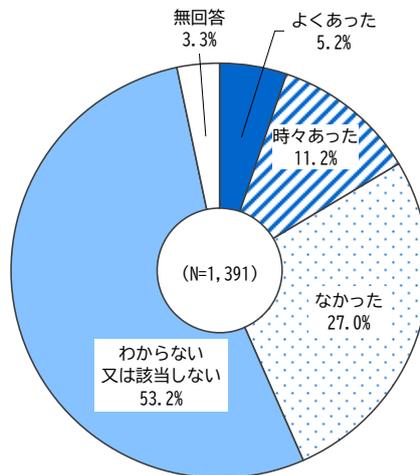
V 調査結果（解説・グラフ）



⑨ 職場で、育児中であることを理由に早く帰宅した方が良いと言われる

【全体】

- 「わからない又は該当しない」が53.2%と最も高く、次いで「なかった」27.0%、「時々あった」11.2%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は16.4%となっている。



【性別】

- 男女ともに「わからない又は該当しない」が最も高くなっている。
- 【あった】は、女性が男性をやや上回る結果となっている。

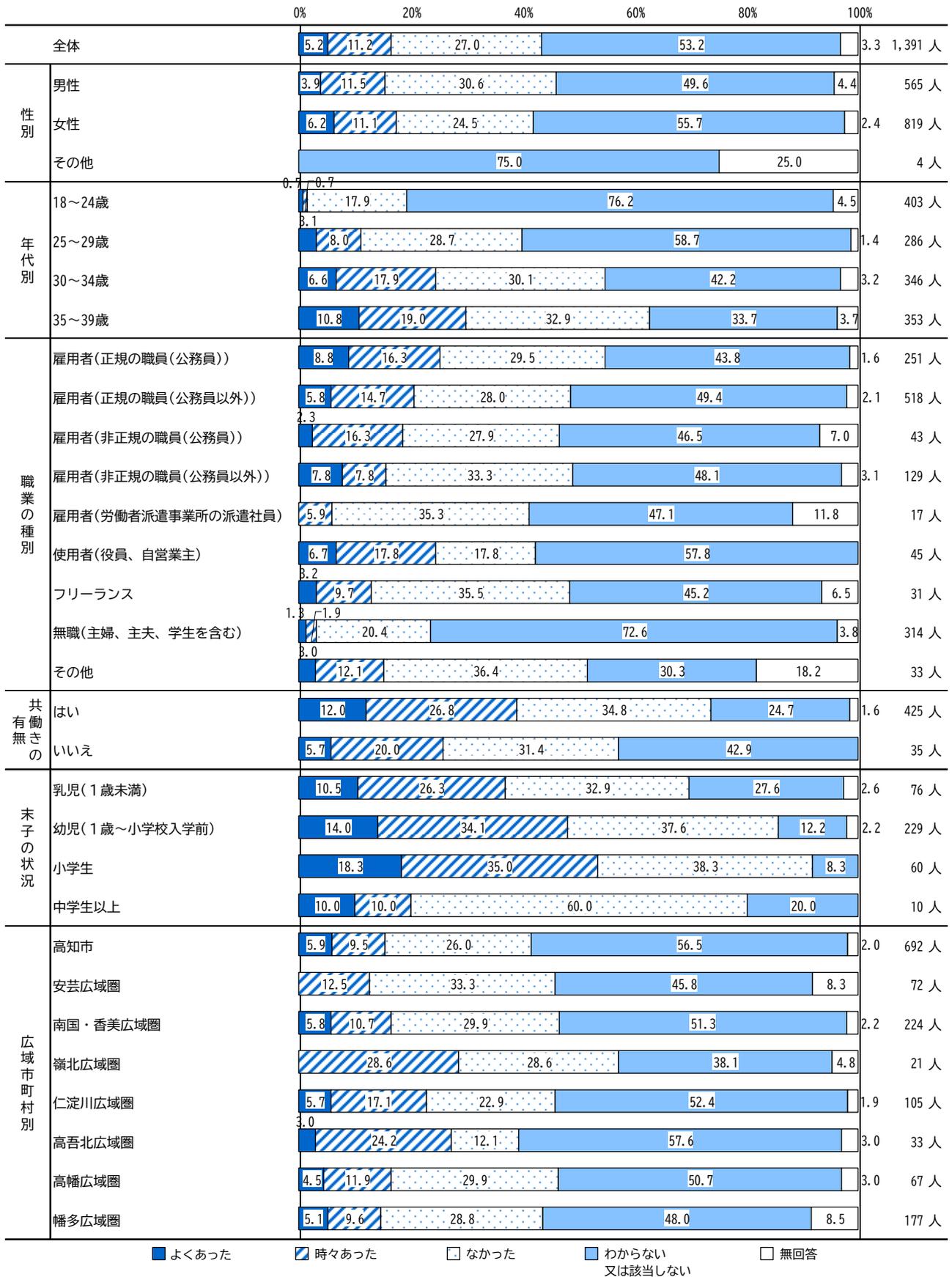
【年代別】

- すべての年代で、「わからない又は該当しない」が最も高く、年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。
- 【あった】は、年代が上がるにつれて高くなっており、35歳～39歳は3割に迫っている。

【地域別】

- すべての地域で、「わからない又は該当しない」が最も高くなっている。

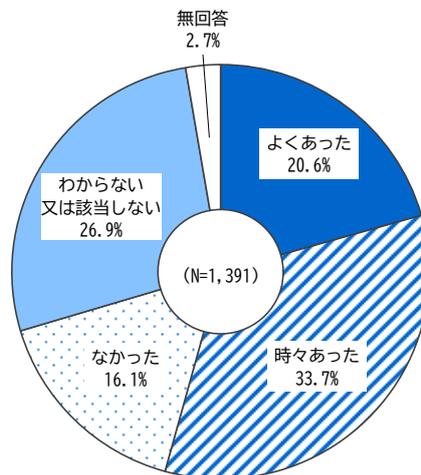
V 調査結果（解説・グラフ）



⑩ 職場で成長できるような機会や助言をもらえる

【全体】

- 「時々あった」が33.7%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」26.9%、「よくあった」20.6%と続いている。
- 「よくあった」と「時々あった」を合わせた【あった】の割合は54.3%となっている。



【性別】

- 男女ともに、「時々あった」が最も高くなっている。
- 【あった】は男女ともに半数を超えている。

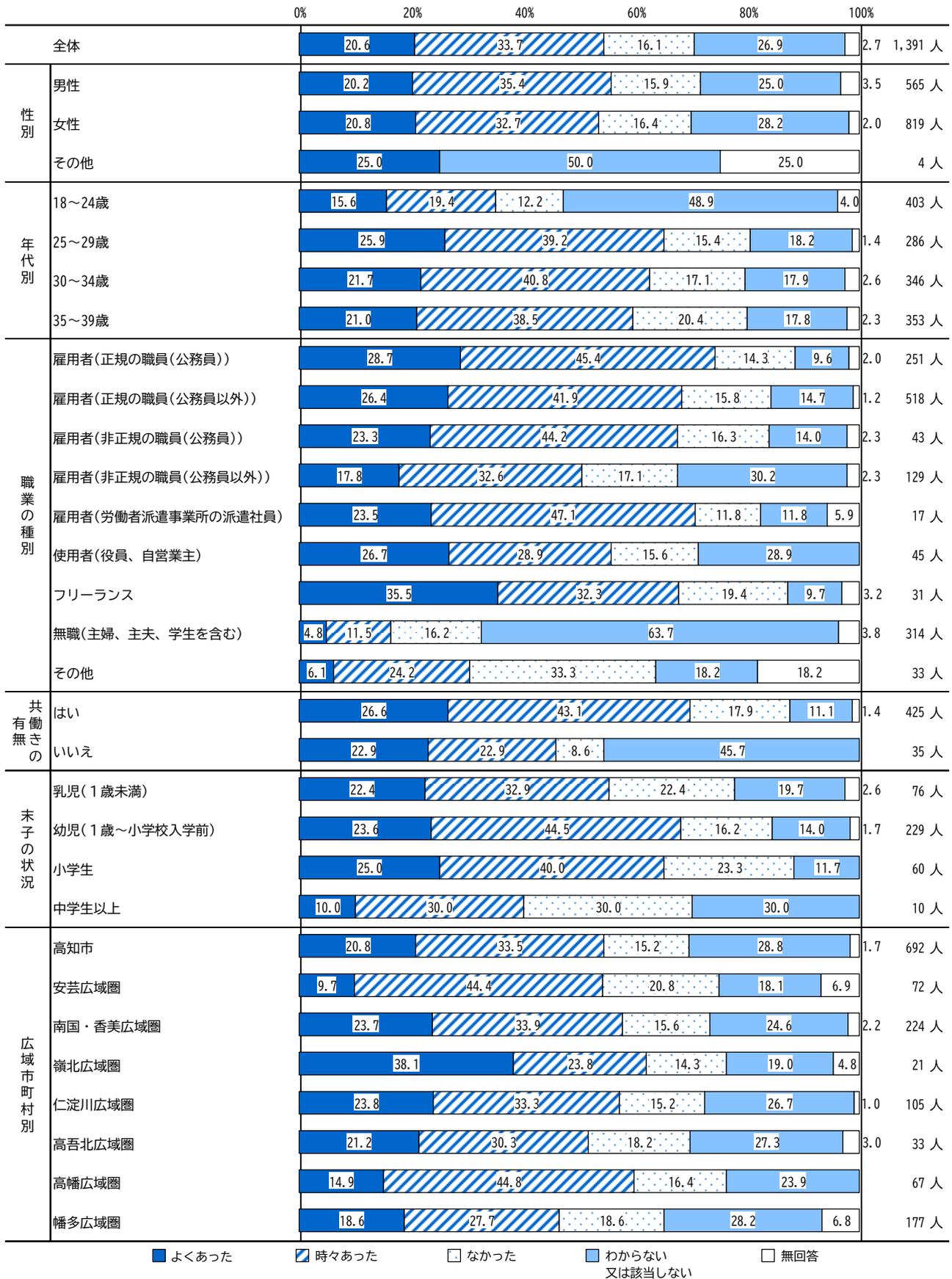
【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」が最も高く、そのほかの年代は「時々あった」が最も高くなっている。
- 18歳～24歳を除いて【あった】の割合が半数を超えている。

【地域別】

- 嶺北広域圏は「よくあった」が最も高く、幡多広域圏は「わからない又は該当しない」、そのほかの地域は「時々あった」が最も高くなっている。
- 幡多広域圏を除いて【あった】の割合が半数を超えている。

V 調査結果（解説・グラフ）

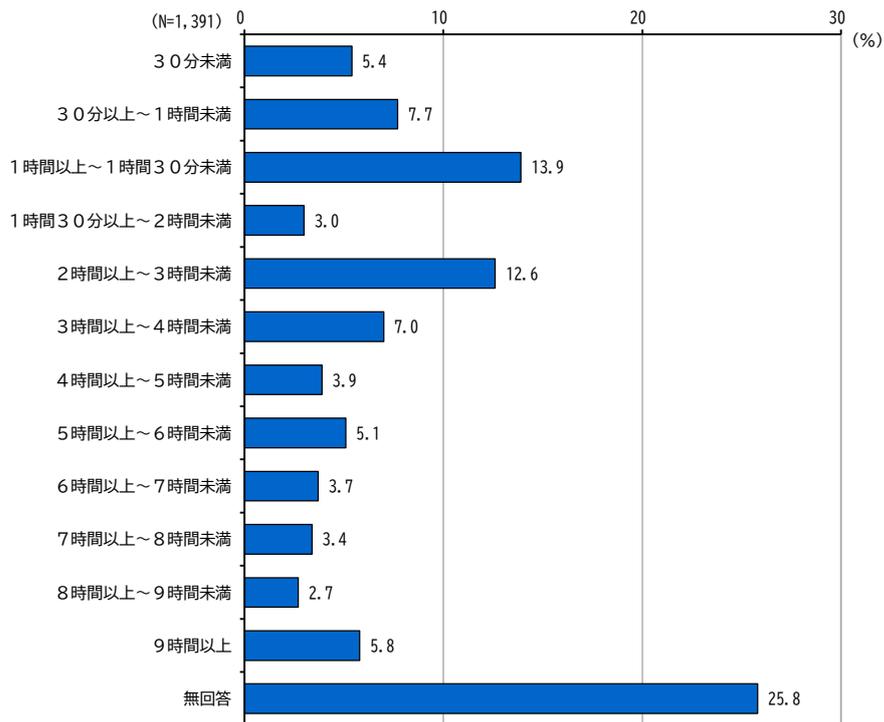


問 24 「令和3年社会生活基本調査」（総務省）によると、全国の6歳未満の子どもがいる夫婦の1日あたりの家事・育児時間の平均は、女性が7時間28分、男性が1時間54分となっています。あなたの1日あたりの家事・育児にかかるおおよその時間を記入してください。

① 平日

【全体】

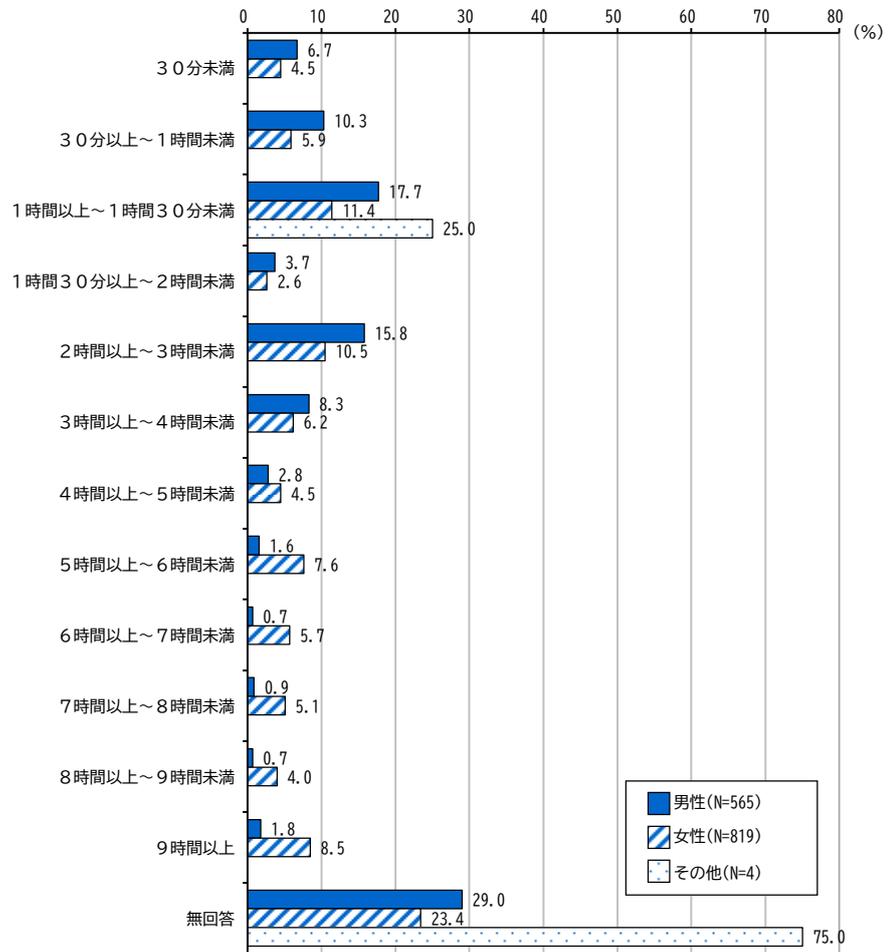
○無回答を除き、「1時間以上～1時間30分未満」が13.9%と最も高く、次いで「2時間以上～3時間未満」12.6%、「30分以上～1時間未満」7.7%と続いている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

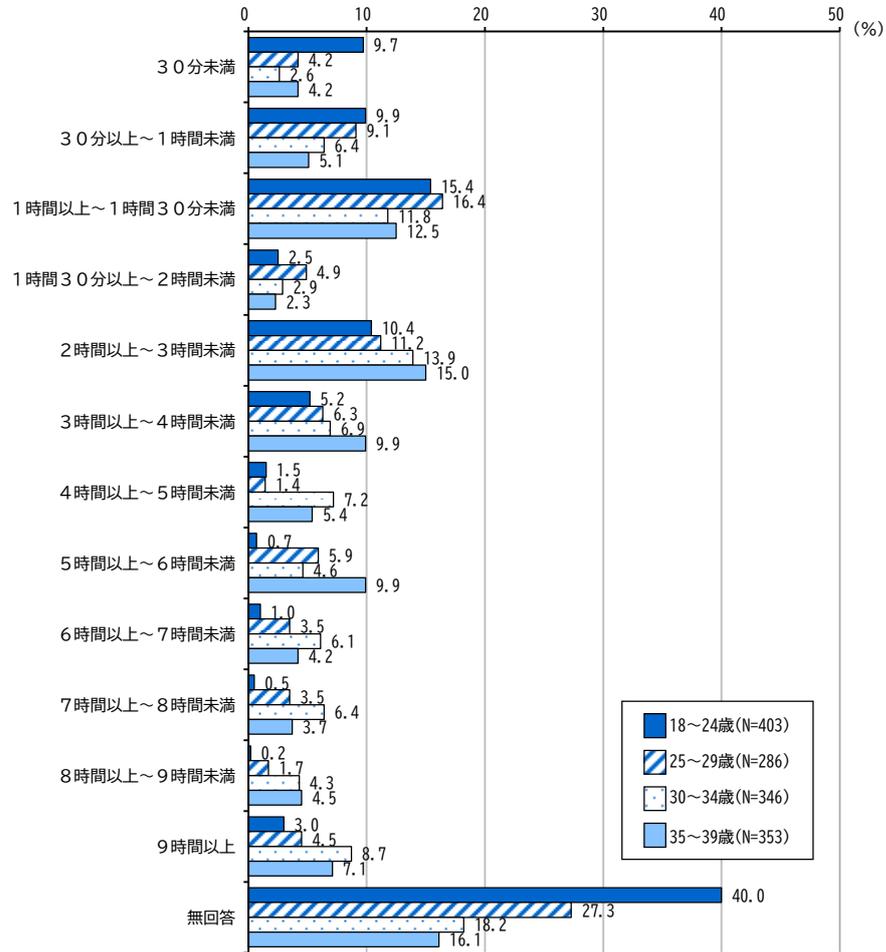
○無回答を除き、男女ともに、「1時間以上～1時間30分未満」が最も高くなっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

- 無回答を除き、18歳～24歳、25歳～29歳は「1時間以上～1時間30分未満」が最も高くなっている。
- 30歳～34歳、35歳～39歳は、「2時間以上～3時間未満」が最も高い。



V 調査結果（解説・グラフ）

【職業の種別】

- 無回答を除き、雇用者（正規の職員（公務員））、雇用者（正規の職員（公務員以外））、雇用者（非正規の職員（公務員以外））、無職（主婦、主夫、学生を含む）及びその他は「1時間以上～1時間30未満」が最も高くなっている。
- 雇用者（非正規の職員（公務員））、使用者（役員、自営業主）、フリーランスは「2時間以上～3時間未満」が最も高くなっている。
- 雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）は「1時間以上～1時間30未満」、「2時間以上～3時間未満」、「3時間以上～4時間未満」、「4時間以上～5時間未満」が同率で最も高くなっている。

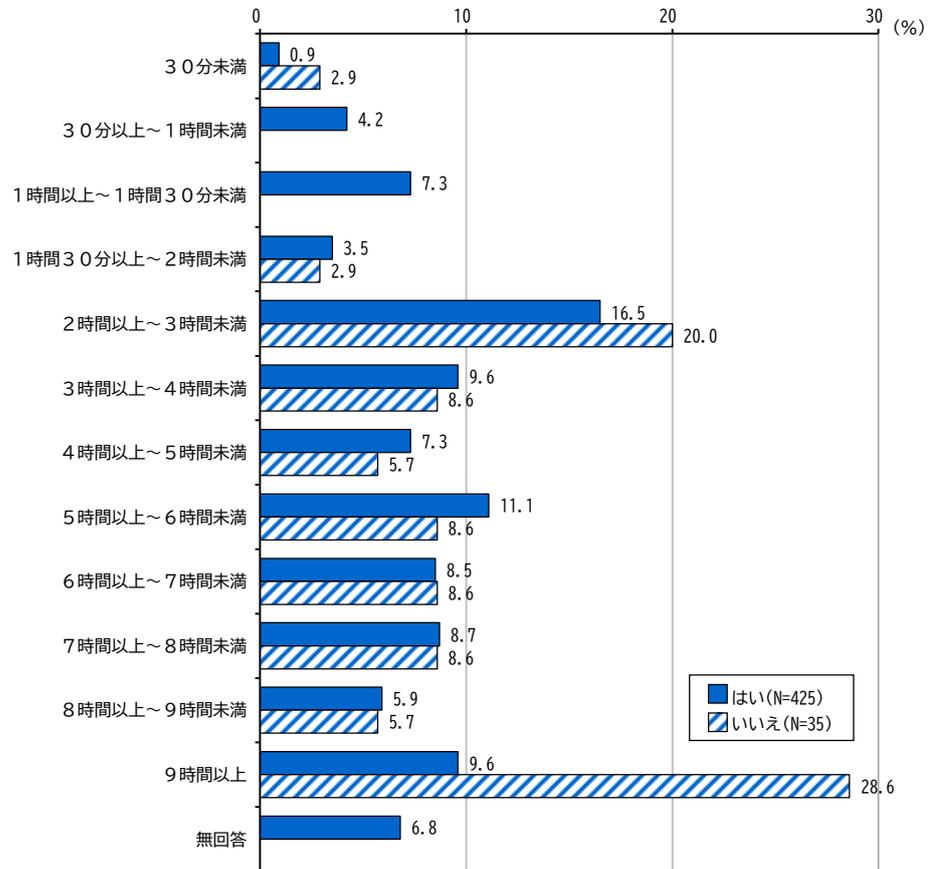
職業の種別	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答
		30分未満	30分以上～1時間未満	1時間以上～1時間30分未満	1時間30分以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上～4時間未満	4時間以上～5時間未満	5時間以上～6時間未満	6時間以上～7時間未満	7時間以上～8時間未満	8時間以上～9時間未満	9時間以上	
雇用者（正規の職員（公務員））	251	1.6	6.8	15.1	4.4	13.9	10.4	7.6	4.8	3.2	4.4	3.6	7.6	16.7
雇用者（正規の職員（公務員以外））	518	5.0	8.1	15.4	3.1	13.7	7.7	2.7	5.8	5.0	2.5	2.3	5.2	23.4
雇用者（非正規の職員（公務員））	43	9.3	4.7	7.0	-	14.0	7.0	4.7	11.6	2.3	4.7	4.7	7.0	23.3
雇用者（非正規の職員（公務員以外））	129	4.7	7.0	10.1	3.9	9.3	4.7	4.7	7.0	4.7	8.5	4.7	7.8	23.3
雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）	17	-	5.9	11.8	-	11.8	11.8	11.8	-	-	-	5.9	-	41.2
使用者（役員、自営業主）	45	2.2	13.3	13.3	2.2	24.4	11.1	4.4	2.2	4.4	4.4	2.2	2.2	13.3
フリーランス	31	9.7	6.5	6.5	3.2	16.1	-	3.2	9.7	-	6.5	-	3.2	35.5
無職（主婦、主夫、学生を含む）	314	9.2	8.3	14.0	2.2	9.9	4.8	2.2	2.5	2.5	1.9	1.0	5.7	35.7
その他	33	6.1	6.1	15.2	3.0	6.1	3.0	3.0	6.1	-	-	9.1	3.0	39.4

【表の見方】
比率(%)
網掛け =
1位
2位

V 調査結果（解説・グラフ）

【共働きの有無別】

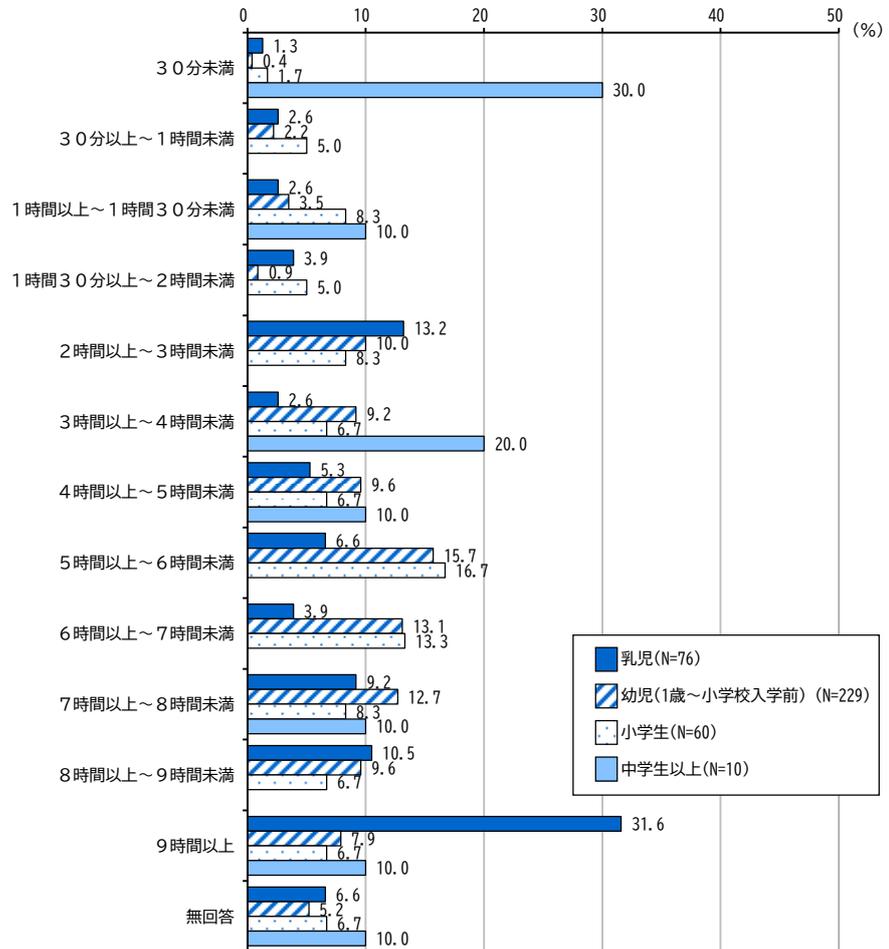
○共働き世帯は「2時間以上～3時間未満」が最も高く、共働きではない世帯は「9時間以上」が最も高くなっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【末子の状況別】

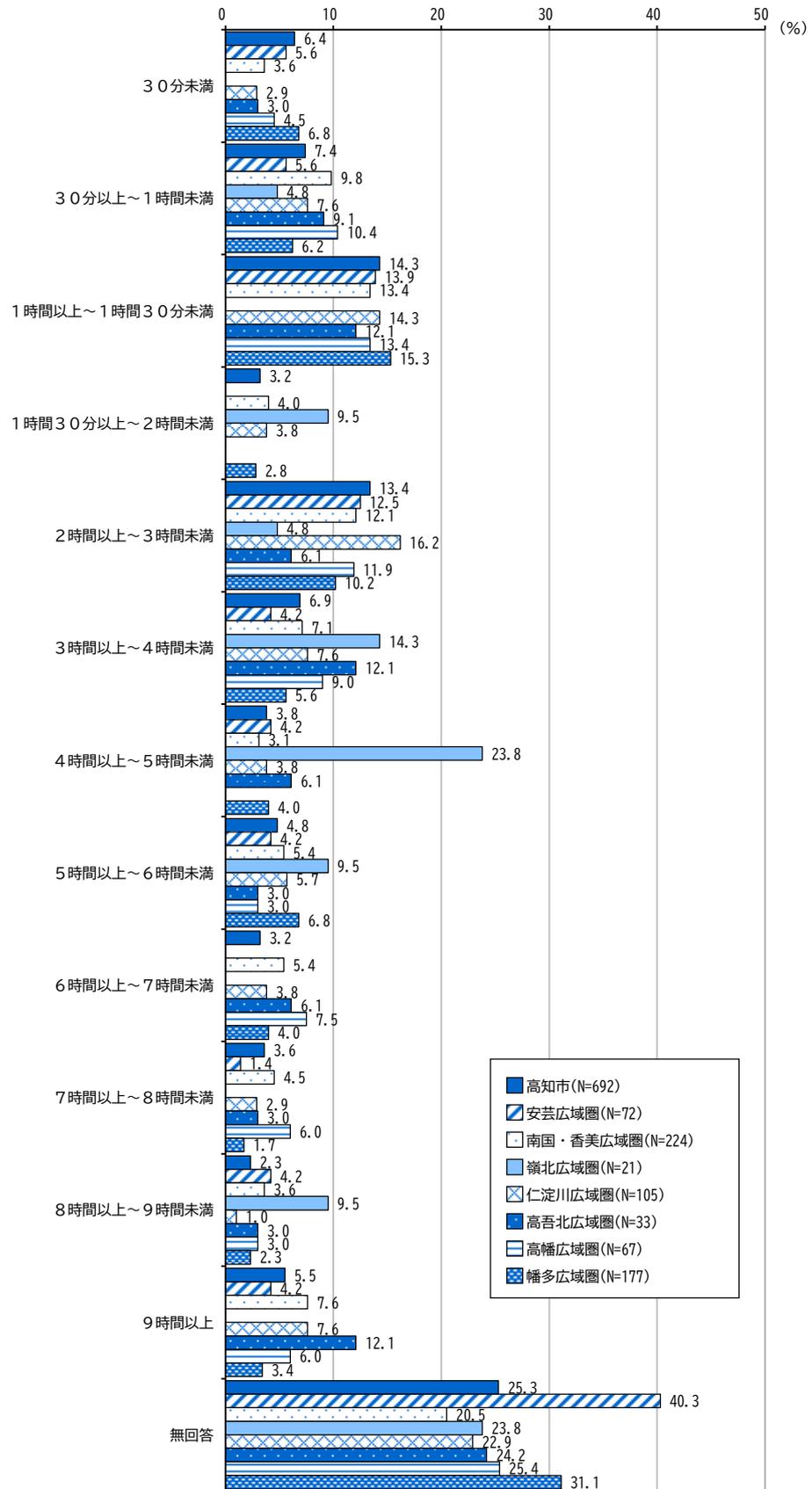
○乳児（1歳未満）は、「9時間以上」、幼児（1歳～小学校入学前）、小学生は、「5時間以上～6時間未満」、中学生以上は「30分未満」が最も高くなっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

○高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏及び幡多広域圏では「1時間以上～1時間30分未満」が最も高くなっている。

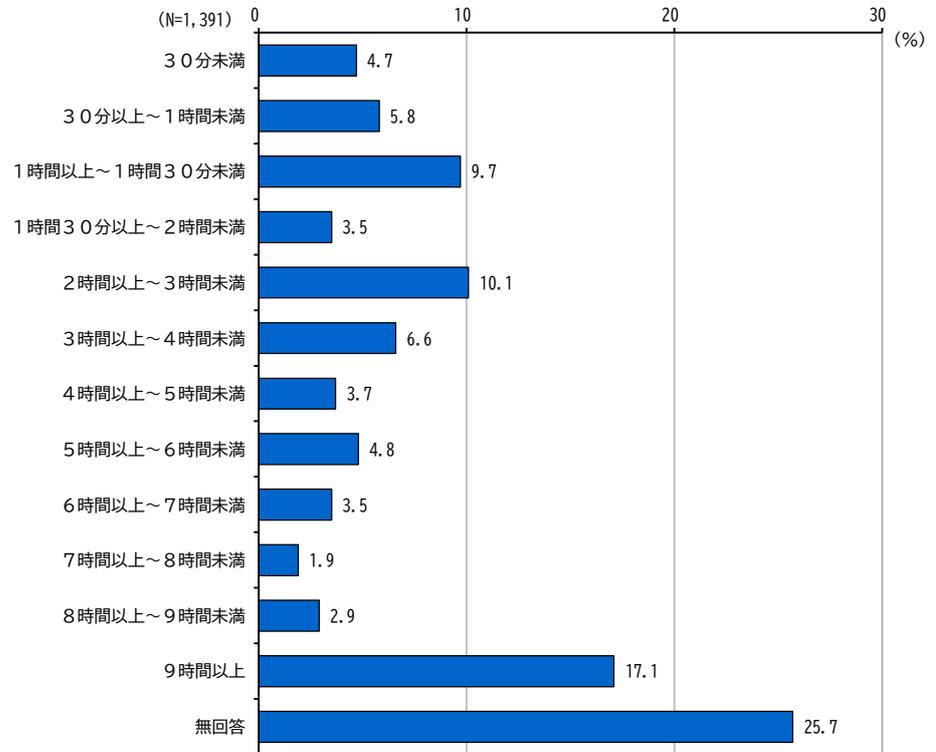


V 調査結果（解説・グラフ）

② 休日

【全体】

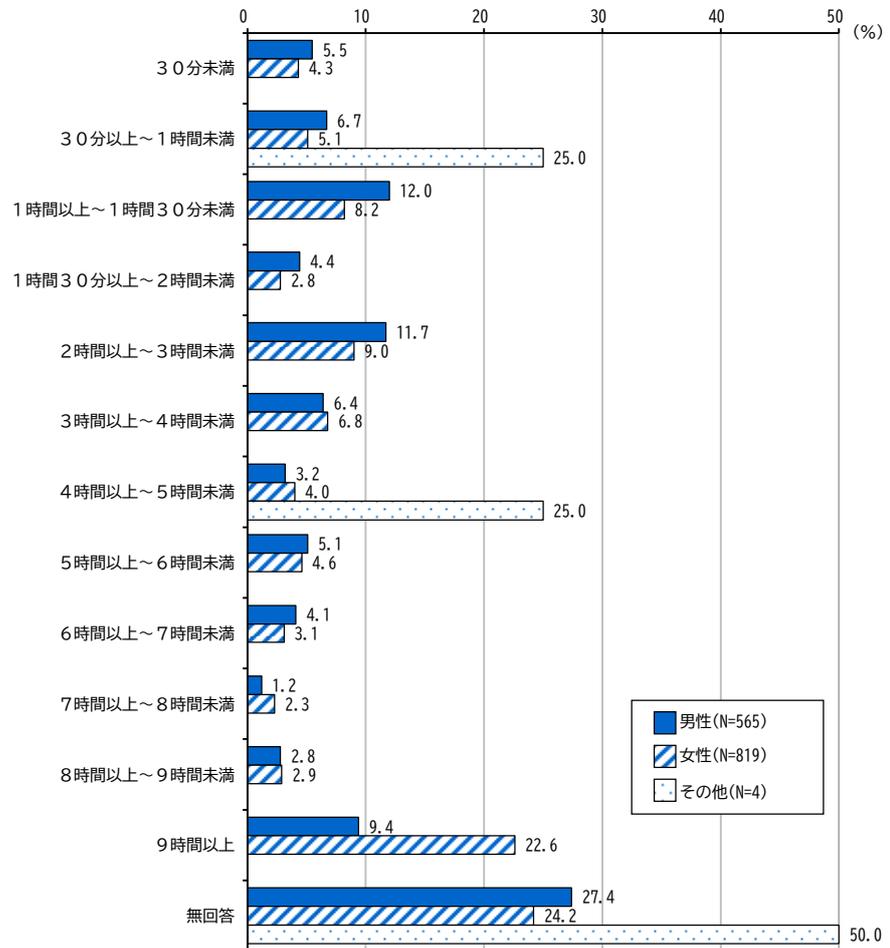
○無回答を除き、「9時間以上」が17.1%と最も高く、次いで「2時間以上～3時間未満」10.1%、「1時間以上～1時間30分未満」9.7%と続いている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【性別】

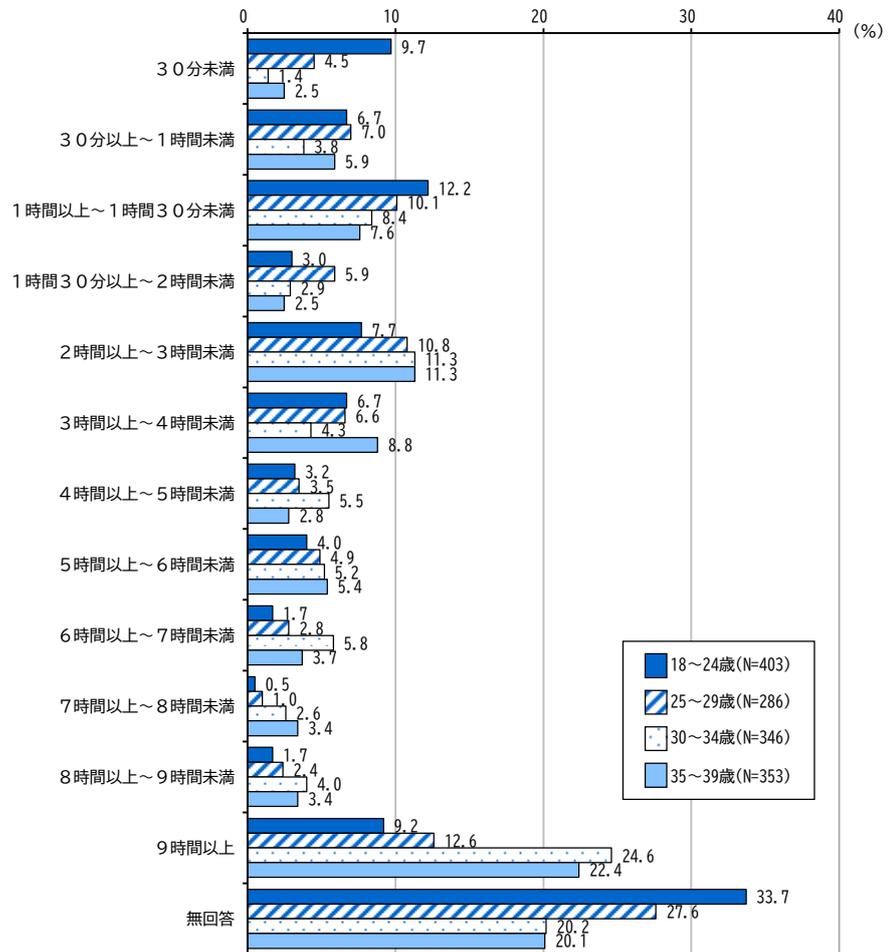
○無回答を除き、男性は「1時間以上～1時間30分未満」、女性は「9時間以上」が最も高くなっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【年代別】

○無回答を除き、18歳～24歳は「1時間以上～1時間30分未満」、そのほかの年代は「9時間以上」が最も高い。



V 調査結果（解説・グラフ）

【職業の種別】

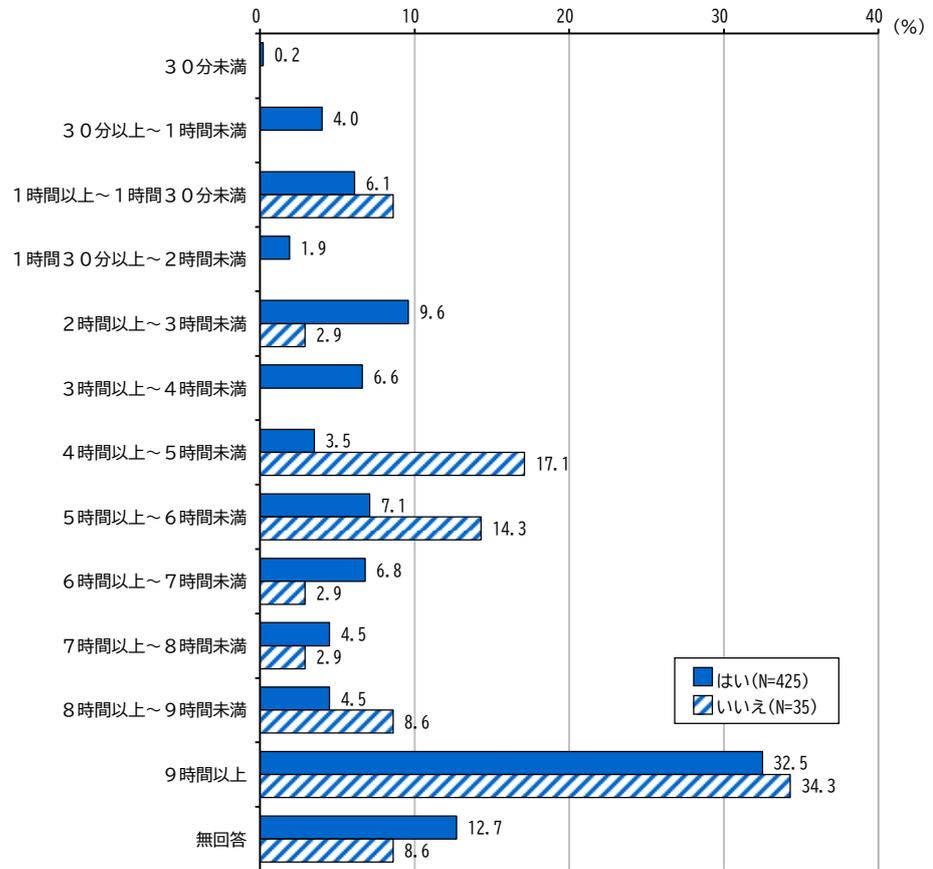
○雇用者（正規の職員（公務員））、雇用者（正規の職員（公務員以外））、雇用者（非正規の職員（公務員以外））及びその他は「9時間以上」が最も高くなっている。

	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答
		30分未満	30分以上～1時間未満	1時間以上～1時間30分未満	1時間30分以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上～4時間未満	4時間以上～5時間未満	5時間以上～6時間未満	6時間以上～7時間未満	7時間以上～8時間未満	8時間以上～9時間未満	9時間以上	
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝														
1位														
2位														
職業の種別														
雇用者（正規の職員（公務員））	251	0.8	6.8	10.0	4.0	13.9	6.8	2.8	6.0	4.4	2.8	3.2	20.3	18.3
雇用者（正規の職員（公務員以外））	518	4.4	5.2	9.1	4.1	11.0	6.2	4.1	4.8	3.9	1.5	3.7	17.8	24.3
雇用者（非正規の職員（公務員））	43	7.0	9.3	14.0	-	2.3	9.3	7.0	2.3	2.3	4.7	2.3	14.0	25.6
雇用者（非正規の職員（公務員以外））	129	4.7	6.2	5.4	1.6	9.3	4.7	4.7	5.4	2.3	2.3	1.6	26.4	25.6
雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）	17	-	5.9	11.8	-	5.9	-	17.6	-	5.9	-	-	17.6	35.3
使用者（役員、自営業主）	45	2.2	6.7	6.7	-	13.3	17.8	4.4	2.2	13.3	-	4.4	15.6	13.3
フリーランス	31	9.7	3.2	3.2	3.2	6.5	12.9	3.2	6.5	-	6.5	3.2	12.9	29.0
無職（主婦、主夫、学生を含む）	314	8.6	5.1	12.7	3.5	8.3	6.4	2.5	4.8	1.9	1.0	1.9	11.5	31.8
その他	33	3.0	9.1	12.1	9.1	-	3.0	3.0	3.0	-	3.0	-	15.2	39.4

V 調査結果（解説・グラフ）

【共働きの有無別】

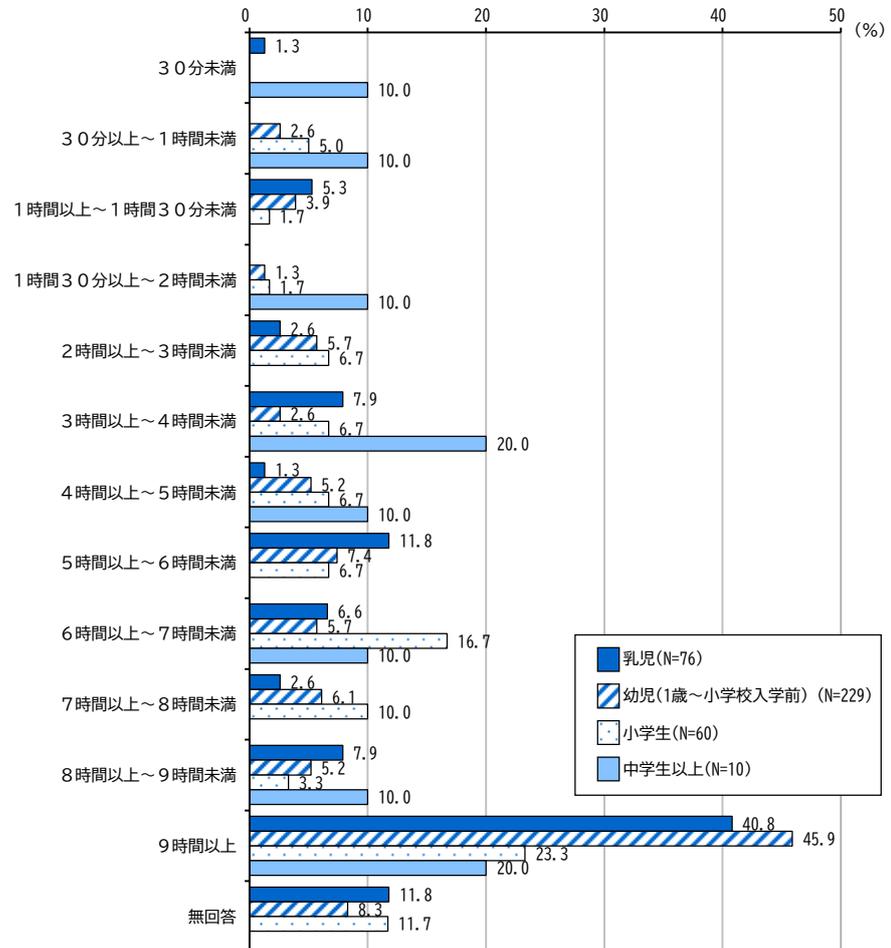
○共働き世帯、共働きではない世帯ともに「9時間以上」が最も高くなっている。



V 調査結果（解説・グラフ）

【末子の状況別】

- 乳児（1歳未満）、幼児（1歳～小学校入学前）及び小学生は「9時間以上」が最も高くなっている。
- 中学生以上は「3時間以上～4時間未満」、「9時間以上」が同率で最も高い。



V 調査結果（解説・グラフ）

【地域別】

○安芸広域圏、嶺北広域圏を除くすべての地域で「9時間以上」が最も高くなっている。

